チ獨逸を往く

大塚虎雄著

里書店



大毎・東日
伯林前特派員
大塚虎雄著

ナチ獨逸を往く

亞里書店刊



ベルリン、ドイツ國會議事堂



ミユンヒエンのナチス黨本部「褐色の家」



ベルリン、ウイルヘルム街の首相官邸


Achtung!
Gefahrenpunkt
R REIMESCH

序

ナチス獨逸の動きは世界注視の焦點である。總統ヒツトラーの一擧手一投足は、全歐の運命を左右する。殊に日獨協定の成立によつて、西歐のドイツと東亞の日本との間に防共の大きな橋が架せられた。ナチス獨逸の一進一退が、直接われらの生活にも重大な影響をもつに至つたのだ。

かくして、ナチス獨逸への關心が異常に高められつゝある際に、亞里書店主福迫氏は、私に一書の上梓を慫慂せられたのであつた。

私がシベリヤ經由で任地ベルリンに到着したのは昭和八年一月二十四日、まさにヒツトラー內閣出現の一週日前であつた。昭和十一年六月三日アメリカ經由で再び日本の土を踏むまで、三ケ年と數ケ月を主としてドイツにあつて新聞特派員としての活動をつゞけた。その期間は幸運にもナチスの所謂國民革命を經て、現下世界情勢の立役者ナチスの第三國家完成に至るまでの、最も波瀾に富んだ貴重な時代であつた。

本書は、この現代世界史の歷卷ともいふべき時代のドイツにあつて、私が新聞に書き送つた通

信である。特派員の任務としては、まづその全力を特電に集中しなければならない。その餘暇を以て、その電報の背景である雰圍氣や微妙なる客觀的狀勢について書き送るのである。本書に輯錄したものは、二三の例外を除いては主としてその電報の背景となつたそれらである。

從つてこれは、社命によつて東奔西走した一特派員の見聞記であり、現地報告書であると見ていたゞきたい。もしこれに學究的な何ものかを期待さるゝならばそれは本書の目的以外である。たゞしかし、特派員なるが故に各種の機會に惠まれ、かつまた取材の多樣性についても他と異なるものがあるかもしれない。その意味でナチス獨逸の全貌を知らんと欲する人々に、いくばくかの參考たり得ば、著者としての希望は充分に達せられるのである。

上梓に際して、補正、加筆を思ふ念しきりなるものがあるが、匆忙の身、いまさら如何ともなしがたい。あるがまゝのものを、あるがまゝに提出して、讀者の叱正を待ちたい。

昭和十一年歲末

大塚虎雄

ナチ獨逸を往く

目次

VI ナチス・ドイツ紀行

小序

I 最近のナチス・ドイツ

一、神聖ヒツトラーの誕生

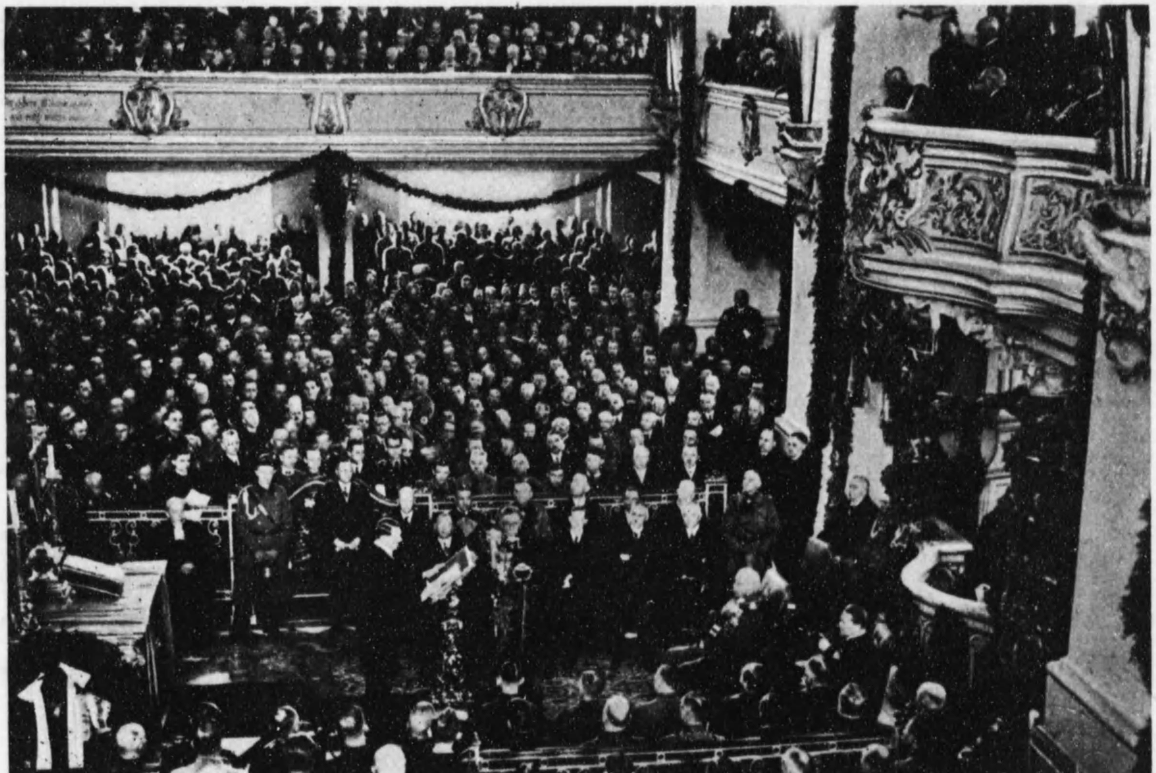
お國自慢の好きなドイツ人が近ごろビールの泡を吹きとばしながら誇るものに「三大ドイツ偉人（ドライ・ドイッチェン）」といふのがある。プロシヤ王國を興したフリードリツヒ大王、ドイツ聯邦帝國を建設した宰相ビスマルク――そしてゲルマン民族の血につながる國家「第三帝國」の礎石を打ちたてたヒツトラーの三人で、なるほどいづれも歴史的に相當な顔觸れだ、しかし、ナチスびいきの連中は、さらにこの三大偉人の中からヒツトラーだけを抽き出して、他の二人の上に位置しようとする。

なぜかなら、フリードリツヒ大王はえらかつたが、その功業はたか〴〵北歐の一王國の範圍に

終始してゐる、ビスマルクは大ドイツ聯邦こそこしらへたが、今年四十七歳のヒットラーと同年齢の時代には、未だ志を得ずその徹底した軍國主義的鐵血政策は國民の猛烈な反對をくらつて、惡戰苦鬪を餘儀なくされてゐた、彼が國民的英雄となり得たのは實にその晩年になつてからのことであつた。

それに比べるとヒットラーは、この十數年間に、一個無名の出征兵士の中から身を起し、スル〳〵と新興ドイツの元首の位にまで即いてしまつたではないか。しかもその疾風枯葉をまくナチス・ドイツ建設の過程と、最近における彼のもつ絶大な國民的信望とを見るならば、ヒットラーこそは現代の奇蹟であり、ビスマルクも三舍を避くべき不世出の英傑でなければならぬといふのである。が、この論法を進めれば、今全盛のヒットラー氏の晩年、果してよくビスマルクの晩年の偉大さを維持し得るかどうか、生きてゐる現實の人物だけに將來の運命は、豫言出來ないではないか、所詮人間の價値は棺を蔽うて後に定まるとみるほかはなからう。

だがかうしたヒットラー氏を史上稀なる英雄として、これに絶對的尊敬を捧げようとする試みは、今や單なる人物論の領域を離れてあらゆる分野に、あらゆる方法で努力されてゐる。幼稚園や小學校はもちろん、工場に行つても、あるひはダンス場に出かけても、およそ人の集まるとこ



ヒットラー首相に全權委任案可決の日
（一九三三年三月ポツダムカルニソン教會に於けるドイツ國會、ヒンデンブルグ大統領に宣誓するヒットラー首相）

ろ、そこには必ずヒットラー總統の肖像が掲げてある。

踊り場のヒットラー氏はいさゝか煙たいかも知れないが、敎室の正面に凜然たる彼の威風に接することは、がんぜない小兒の頭にもドイツの誇りとして强く印象づけられるであらう。ラヂオに、映畫に、殆んど毎日「われらが總統ヒットラー」の名を聞き、その姿を見ぬ日とてはない。ヒットラーはドイツでありドイツはヒットラーなのである。

ヒットラーその人も、この點を自識してゐる、少くともさうであるらしく見える、總統の地位に登つてからの彼は、その風貌にも一段と重々しさが現れて來た。在野時代の彼は政權病患者のように頬骨が尖つてガツ〳〵してゐた。宰相の印綬を帶びてからもしばらくは反對派の打倒、または淸黨事件等の異變つゞきから、彼の表情には絶えず殺陣の中から出て來たような凄愴さがつきまとつてゐた。そしてその険惡なまなざしは徒らに歐洲の風雲を呼ぶものとしか思はれなかつた。彼の豪傑ぶつた歩き方までが、何となく虚勢を張つてゐるかのようで、をかしかつたのである。

が、今では違ふ、「總統」が板についてゐる。一昨夏故ヒンデンブルグ元帥國葬の日、タンネンベルグの忠靈塔下には、全ドイツ中のおよそエライ人たちのすべてが集まつてゐた、そして大地

四

を蹴つて祭壇に進んだヒツトラーは、故大統領の遺德をたゝへつゝ新總統としての貫祿をはじめてその追悼演說の中にほの見せたのであつたが、その滿場を威壓する峻烈な氣魄といふものは、すべての參會者に「强さ」にかけてこゝに集まつたどの「エライ」人をもつて來ても彼に一騎打で敵ふものは一人もあるまいといふ印象をいだかせたものであつた。それから二ケ年、今日の彼には「强さ」のほかに元首らしい「重み」がつけ加はつて來てゐる。あごのあたりにみるゆたかな線は彼には珍しいものである。體軀も肥滿して來て、糖尿病の危險さへ想像され得る。生來酒も煙草も口にしない彼が、最近は肉類さへ遠ざけて、菜食主義者になつたと噂されるのも、この邊の消息であらう。

カイゼル花やかなりしころを知つてゐるドイツ人はヒツトラーが閱兵する態度は、姿勢といひ步調といひ、かつてのカイゼルに生き寫しであるといふ。人間はその境遇に身を置くと、かように變化するものでもあらうか。身を持する甚だ嚴、一切の私的快樂を顧みず、全身全魂をその國家と國民に打ちこんで日夜精進してゐる態度には、たしかに一種强烈な精神家といつた眞劍さが感じられる。

「ヒツトラーは神がドイツに下し給うた救世主である」と說く學校敎師がある、「ヒツトラーは現

代の奇蹟であると同時に神祕である」といふ政客がある、宣傳相ゲッベルスも「ヒットラーを理性で愛さうとするなかれ、感情と心情で敬愛せよ」と叫んでゐる、ヒットラーは「强いもの」から次第に「神聖なるもの」神聖にして絕對なるものとなりつゝある。そしてまた彼自身、それにふさはしい人格になりつゝあるのである。それは彼の作爲であり、欺瞞であらうか、むしろ彼は一種の神がかり狀態にあるのかも知れない、が、それとて彼一個の氣まぐれから出てゐるのではない、新らしい軍國國家ナチス・ドイツには絕對政權をイデオロギー的にも確立することが急がれなければならない。その必要がヒットラーの神聖をます〳〵促進してゆくのである。十數年前の彼と今日の彼とは同じ人間であつて別の人間であるのである。

二、ヒットラーの人事行政

ヒットラー總統の人事行政には一つの特色がある。古い同志は金輪際棄てないといふ點である古い同志でも、かつての黨組織部長グレゴア・シュトラッサーや前突擊隊長レーム中佐などは殺

されてはゐるが、前者はともすれば首領ヒツトラーを凌がんとし、一時は彼を棄てゝ他黨と携提せんとしたし、後者は清黨事件の直接原因のほかに、熱烈なカイゼル復辟論者であつたから、ヒツトラーの腹心とはいひ難い、同志といへども異心をいだくものは寸毫も容赦しないが、忠誠を誓ふものは最後まで見棄てるといふことはしない、情實だといつてしまへばそれまでゞあるが、その一語で割切れない或物がある。

今を時めく內相フリツクや航空相ゲーリング大將、黨首代理ヘツス、黨外交部長ローゼンベルグなどが、一九二三年十一月のヒツトラーのミユンヘン一揆に生死を共にした人物であることは誰しも知つてゐるが、それほど顯要の地位でなくとも、たとへば黨の外國新聞記者係長ハンフシユテングルの如きがやはりさうだ、彼は生母がアメリカ人で、英語をよくするといふ以外は擧止暴慢で、あまり評判がよくない、黨のローゼンベルグとは正面衝突をしてゐるし、至るところで總スカンを食つてゐる男であるが、何ゆゑその地位に晏如たり得るかと調べてみると、ミユンヘン一揆の時傷ついたヒツトラーは彼の家に救はれてゐるのである。いはゞ生命の親である。

またヒツトラーのゆくところ、絕えず褐色の黨服を着た寫眞班がついてまはるが、これも彼の失意時代のシンパであつた寫眞屋ホフマンとその助手たちである。ヒツトラーは彼の身邊近く撮

影する權利をホフマンにだけ與へてゐるので、いかなる大新聞社もホフマンと契約しなければヒットラーのよい寫眞は手に入らない。寫眞といへば、映畫のレニ・リーフエンシユタール孃もヒットラーの苦鬪時代からの黨のシンパであつた。だから彼女はニユールンベルグで開催される黨大會には撮影總指揮者に任命され、ナチスの荒武者を縱橫に驅使して活躍してゐる。彼女の献身的な奮鬪ぶりがヒットラーの恩顧にむくいようとする性質のものであることは第三者にもよく看取出來るのだ。

元來この黨大會開催地そのものが、ヒットラーにとつては義理ある土地である。一九二五年獄窓を出て黨を再建したヒットラーの前にあるものは迫害と嘲罵とであつた。數あるドイツの都市で彼を迎へる土地は一つもなかつたが、たゞ中獨のニユールンベルグだけがナチス旗を揭げて彼に共鳴の意を表してくれた。

このために一九二七年に黨大會をこゝに招集して以來は、黨本部がミユンヘンにあるにかゝはらず、大會はニユールンベルグでといふことになつてゐる。最近八十餘歲で死んだリッツマン將軍も黨シンパの最古の一人であつたが、ヒットラーは最近の誕生日に將軍に自動車を贈つてその長壽を祝したりまた大會があると必ず上座に將軍をすゑて固い握手に敬意を表してゐた。それは

誰が見ても美しい情景であつた。將軍の子息たちがヒツトラーに感激して、水火を辭しない氣持をもつてゐるのも故なしとしないのである。

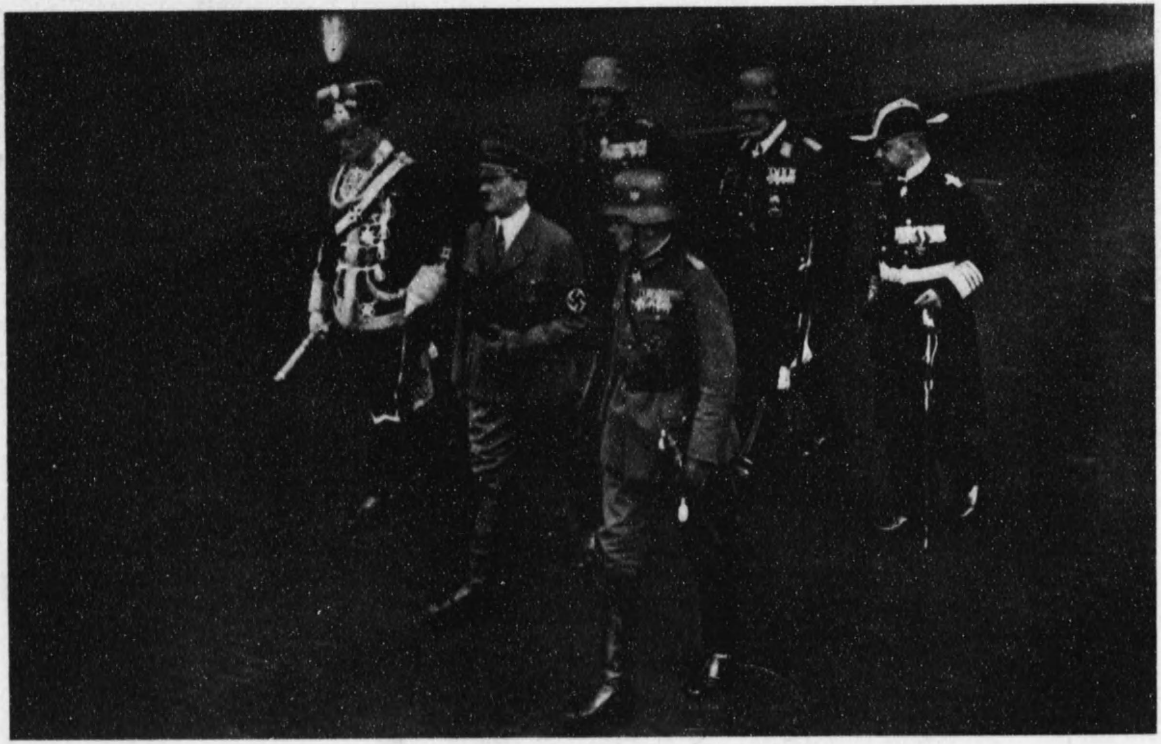
が、ヒツトラー必ずしも自分の意を迎へるものを歡迎するのではない。彼が一九三三年組閣すると同時に、ベルリンの工科大學から彼に名譽工學博士の學位を贈つたが、彼は一蹴してしまつた。彼が不遇の青年時代ミュンヘン市で建築工手をしたりペンキ屋さんをやつたりした關係からの「工學博士」であつたのであらう。また現在ドイツの各都市にはヒツトラーの名を冠した街路や廣場が無數にあるが、ニユールンベルグ市が彼の生母クララ・ヒツトラーの名を冠した街路をつくりたいと申出た時にはこれを拒絶した。父母は自分を生んだ以後に何ら功績はないといふ理由からであつた。彼の實姉も南獨の山中に閑居してゐるが、總統の肉親だからといつて取卷連中にチヤホヤさせないようにしてゐる。

こんな風にヒツトラー氏には東洋風な親分肌の要素が多分にある。從つて黨員相互間には確執もあり摩擦もあるが、ヒツトラーに對してのみは絕對に信賴し、彼一人にすがつてをれば安心して働けるといふ確信がある。もちろん數多い黨員中には左翼からの潛入分子も澤山ゐるから、ときぐ〜動いてその都度討ち取られてゐるが、ヒツトラーと志を同じくするものはますぐ〜內部の

閲兵式のヒットラー總統

前列　向って右より、ブロンベルク國防大臣、ヒットラー總統、マッケンゼン元帥

後列　レーダー海軍司令官、ゲーリング空軍司令官、フリッチ陸軍司令官



結束を固くして、國家機構の隅々までを地固めしつゝある。ナチス政權が維持される强みの大半がそこに胚胎してゐると思ふ。

三、ナチスとドイツ軍部

昨春、航空相ゲーリング大將が女優エミイ・ゾンネマンとベルリン王室大伽藍で豪華な結婚式を擧げた時、その國家非常時を無視した帝王氣取りの派手好みに國民の大多數は憤慨した。回覽雜誌の口繪にゲーリング夫妻の寫眞が掲載されたものはことごとく爪で二人の顏を傷つけてあつたのを見ても、公然怨聲を放ち得ない國民の反感の程度が察知出來ようといふものである。しかしこの式場にヒツトラーがボツネンとして二人の幸福を祝福してやつてゐる姿が、かへつて獨身者の淋しさを思はせて國民の同情をひいたのであつたからゲーリングへ反感の集中されることは一面ヒツトラーへの反感をそらせる効果をもつてゐる。すべてドイツのインテリはゲーリングの毒々しい尊大ぶりや、宣傳相ゲツベルスの憎々しい面構へに極度の反感をいだいてゐる。この點

ヒツトラーの双翼と稱せられる文武の二巨頭は、ヒツトラーおよびナチスへの憎まれ役をわざと二人で引受けてゐるのではないかと思はれるくらゐだ。

けれどもゲーリングのもつ尊大さや事大主義は、また軍人方面にはそれがかへつて人氣があるのだから面白い、形式好きで威張りかへる事大主義のドイツ軍人氣質には、從軍章一つのほかは勳章らしいものをつけようとしない簡素なヒツトラーでは何となく食ひ足りない、むしろ廣大な胸一ぱいに各國の勳章を飾り立てて堂々四邊を壓するゲーリングを畏敬する氣持になるものらしい、幸ひゲーリングが大戰當時の航空將校の出身であり航空大將として軍籍にある關係から、次期國軍の中樞を、從來の軍閥の手からナチスのゲーリングに移行させようといふ試みが着々行はれてゐるとみてよい。ナチスの自由にならぬ最後の陣營と目された軍部にヒツトラー以下が空しく供手傍觀してゐるはずがない。もと〳〵ナチスと軍部との關係は、ヒツトラーの指す方向がヴエルサイユ條約の破毀であり、同時に大規模な軍擴である限り、兩者の間に異論はない、その點で一致してゐるから軍部はナチスに國政のヘゲモニーをゆづつてゐるが、軍部そのもののヘゲモニーまではゆづれない。怒濤の如き勢ひで國家の各機關に侵入したナチス化の勢力を少くとも正規軍の領域だけは食ひ止めようとし、そのために軍部とナチスとの間に波瀾が起らさるを得なか

つた。その第一の例は、清黨事件の原因となつた突撃隊の正規軍編入要求であつた。これはヒットラーが突撃隊長レーム中佐以下を屠ることによつて軍部の反撃を免れた。當時の情勢では軍部との衝突はナチスにとつて致命傷でもあつたが、他面またレームの要求を貫徹させることは彼の勢力を増大し、帝政主義者たるレームが舊軍閥と結んでカイゼル歸國の大芝居を打たないとも限らぬ危險もあつた。ヒットラーは清黨の名によつて二つの危險から免れたとみることも出來よう第二は統師權問題である。大統領ヒンデンブルグ元帥の逝去によつて何人に陸空海の軍權を一任すべきかの問題が起つた。一氣に大統領たる總統の地位に押し上つたヒットラーも、大戰當時は一伍長の身であつたことを思へば、軍部がヒットラーを大元帥として仰ぐかどうかの點で難色があつた。この間隙に擡頭したのがルーデンドルフ老將軍の大元帥說であつた。これは昨春ルーデンドルフの誕生祝賀のころに最も猖獗を極めた。

國防大臣ブロンベルグ、參謀總長フォン・フリッチュの二大將は軍隊を率ゐてルーデンドルフの故鄕を訪ひ、祝賀の閱兵式をやつて示威した。ルーデンドルフはヒットラーがミュンヒエン一揆の時にかついだ將軍で、カイゼルも煙たがつたくらゐ頭腦の冴えた人物であるから、これを大元帥に引出してヒットラーおよびナチスを制せんとしたことは疑を得てゐる。當時S・S（親衞

隊）の幹部のある大學教授が記者に「この芝居の筋書はフオン・フリツチ（へ）が、間もなく消滅するだらう」と語つてゐたが、果然ヒツトラーは强引に大元帥を名乘つて出て斷乎鬼神も避くの慨を示したので、ルーデンドルフ引き出し運動はピタリと鎭まつてしまつた。

第三は昨秋ごろ喧ましかつた軍旗の制定問題であつた。黑白赤の舊ドイツ國旗を廢してナチスの卍旗に一定してしまつたヒツトラーは軍旗の方も舊帝政時代から傳統の軍旗を一擲して、ナチスの一色で染直してみたかつた、が、これは士氣にも影響するとして軍部内に物議をかもし、暫く延期されてゐたが發表されたものは世人の豫想以上にナチス化された軍旗であつた。ヒツトラーの强引をもはや舊軍閥の殘存勢力をもつてしては拒み切れなくなつてゐるのである。

何となれば、ドイツは再軍備宣言で正規軍を十萬から六十萬に膨脹せしめた際にナチスの息のかゝつてゐる分子が大量に軍部内に流れこんだし、空軍の大擴張でゲーリングの勢力が軍部内に確固たる地歩をしめるに至つた以上、舊軍閥のブロンベルグやフリツチュ等の睨みだけでは全軍を動かすことが出來ないのだ。ハイル・ヒツトラーと叫んで戰場に横たはる兵士の數が加速度的に殖えつゝあるのである。大戰に生殘り、明哲保身で國防大臣にまで出世したブロンベルグは、ひたすら世間の疑惑をさけて、ヒツトラーへの忠誠の態度を見せようと努力してゐる。ただ一癖も

二辭もある參謀總長フォン・フリッチュが問題だが、これとて今後はおとなしくしてゐるよりほかはなからう。息子をハンガリー大使にして貰つてゐるマッケンゼン元帥の如きは進んでヒットラーに扈從して若き大元帥ヒットラー總統の引き立て役を買つて出てゐるやうな有樣だ。現狀をもつてなほナチスと軍部の對立を云々するのはあまりに當初の行きがかりに拘泥するものといはざるを得ない。

四、ヒットラーの後繼者

「ヒットラーが死んだら後繼者は誰がなる?」こんな不吉な豫想はナチス・ドイツでは嚴禁かと思ひのほか、ヒットラーの片腕ゲッベルス宣傳相あたりが公然口にするのである。しかもヒットラー總統の昨年の誕生日の祝賀演說に、ラヂオで國民に呼びかけたのである。

總統が死ねばナチスは亡びると考へてゐる者がある。しかし黨の組織は今では國家のものだ。總統の後繼者についてはわれらに對策既に成つてゐる。心配は無用である。

と彼は述べたのだ、これは總統の身邊に不慮の禍を防止せんとする敵本的な言葉であると見られる。ヒツトラーに對するテロの危險防止のため、護衛は近來一段と嚴重さを増して來てゐるがヒツトラーは映畫常設館へも見物に出かけるし、氣輕に山莊へも行く、テロの機會はいくらもあるが、あへてこれを見ないのは、一つはドイツの國民性にもよるのであらう。それはさておきヒツトラーに萬一あつた場合のナチスについて、ゲッベルスとともにこゝに考へておくことも興味があるであらう。

獨裁者の死後に内訌はつきものだ、ヒツトラーあつてのナチスにもそれは免がれがたいであらう。一時的には黨の長老フリック内相を推して大勢の決するのを待つかも知れない。あるひは謹嚴で緩衝的存在とされる黨首代理ヘッスの起用をみるかも知れぬ、ゲーリング對ゲッベルスの勢力爭ひにある種の歸結をみてゲーリングが持ち前の横着さでドッカリと總統の椅子につくかも知れぬ、あるひはまた内訌を防ぐために、もしくは内訌に乘ぜられて黨外から陸相ブロンベルグあたりがかつがれるかも知れぬ。案外また前ドイツ皇太子などがダークホースとして現れないとも限らない。

おちつくところはどうせ以上の範圍内であらうが、もし内訌で黨の結束が亂れた場合は、全國

家機構からナチス色は後繼する。現在の國旗である逆卍旗はドイツ國民にはなつかしい黑白赤の三色旗に逆戻りするかもしれぬ。ハイル・ヒツトラーの挨拶が撤廢されて「お早う」の慣用語が復活するかも知れない。だが、それかといつてヒツトラーおよびナチスによつてつくり上げられた秩序ある統一國家としての今日のドイツそのものの組織に、また國勢に一大變化をみるであらうとは想像されない。依然として强力な軍國國家としてそれはとゞまるであらう。決してナチス制覇以前の戰敗國の名を冠せられた屈從的な狀態にまで逆戻りするとは考へられない。ナチス特有の色彩は國民生活の表面から消え去ることがあつても、實體はそつくりそのまゝドイツ國民が受けついで同じ調子でドイツの國力回復に猛進するものとみて差支へない。一九二八年を分水嶺としてナチスの黨組織は逐年飛躍的に擴大した。殊に政權をとつてからは全國民をナチスの組織内に吸收せんとし、またしつゝある。卽ちナチスの組織は單なる一政黨の勢力でなく全ドイツ國民の全生活を、その組織で、一つの統一體にまとめ上げようと努力してゐるのだ。その限りにおいて全國民的規模に擴充されてゐるのである。このことは同時にナチスそのものが黨派的存在を棄てゝ國民の中に解消しつゝあるともいひ得るのである。從つて、今日ではヒツトラー政權を脅かすに足る個人的勢力なく、またナチスに楯つく黨派も他に存在しない。がたゞ一つドイツ國民

の總意に反するときは、ヒツトラー政權は、最大にして最後の敵として國民大衆をえらばねばならぬのである。

ザールの快勝や、ラインの再武裝はドイツ國民の熱求するところであつた、だからしてヒツトラーはそのことの成功によつて非常な信頼を博してゐる。しかし一たび食料品の缺乏や、賃銀の低下、失業者の增加等の問題になると、如何にドイツ國民の顏がふくれ面となるか、從つてまたいかにナチス政府は狼狽してその對策に狂奔するか。要するにナチスの今後は國民の審判だけが問題である。國民大衆の利害を無視して强權の永續はあり得ないからである。

ヒツトラーが黨外のシヤハトを起用し、彼に財政の一切をゆだねてゐるのも財政に關する限り彼以外に人材の乏しいためでもあるが「マルクの神樣」シヤハトに對する國民の信頼を認めるからである。シヤハトもまたヒツトラーの信任のつゞく限り縣命になつてドイツ財政の立て直しに盡瘁してゐる。ドイツの財政的危機がしば〳〵傳へられつゝ、しかも逆にドイツの國力の步一步と躍進しつゝあるのもヒツトラー、シヤハトの名コンビによるところ多い。この世には百圓の借金で首をくゝる氣の小さい男もあれば、百億や二百億位の借金にはビクともせぬヒツトラーの如き强氣の男もゐるのである。シヤハトは外國の債權者に「ないから拂へぬ」といふ。ヒツトラー

は腕づくで取つてみろとうそぶいてゐる。借金のいひわけはシヤハトがやるが、その背後にはヒットラーの武力がものをいうてゐるのである。かといつて國際的にボイコットを起すほどの力は各國にもない。ドイツはその足もとをねらつて遠慮なく貿易の觸手をのばすのである。最近の南米や支那に對するドイツの進出ぶりはドイツ貿易の躍進を物語つてゐる。なかんづく對支貿易で英米を凌いでよろこんでゐる日本の脚下に、英米に代つて猛烈に肉薄して來てゐるのが昨今のドイツではないか。

「窮迫ドイツ」などといふ形容詞は不屈不撓の國民には無用である。これを思へばヒットラーをして思ふ存分仕事をさせ、かつそれを成功裏に可能ならしめてゐるものは、實にドイツ國民そのものであるといひ得る。粒の揃つた優秀な國民六千六百萬のもつ力の總和がヒットラーの背後にあるのだ。この背後の力の動きにヒットラーの名をレッテルとして貼り出してゐるのだ、從つてヒットラー亡き後に、何人の名がレッテルにつかはれようとも、ここまで強くまとめ上げられた國民の勢力の根本に動搖は無いと考へられるのである。

五、第二次大戰とドイツ

かつてカイゼルには黄禍論があつたがヒツトラーにはそれがない、黄色、黒色の如何を問はずおよそ有色人種の優越を云々するといふのは彼には唾棄すべき思想なのである。白色人種の優越――なかんづくゲルマン民族の絶對優位を彼は信じて疑はぬのだ、從つて「西洋の沒落」を書いて白人文明の衰退を豫言したシュペングラーの如きは、白人の裏切者としてナチス・ドイツから追放されてしまつてゐるのである。

この調子で中歐のゲルマン民族を糾合して一大ドイツ國家を建設せんとするヒツトラーの理想を着々實行に移してゆくには、武力の行使なくして目的は達成されない、ドイツの再軍備が時々刻々めざましいテンポで飛躍してゆく、空軍の如きはこの三年間にドイツの躍進に刺戟されてフランスもまた異常の向上を見せ、今日では獨佛兩國の空軍は一機また一機と互ひに精鋭無比の軍用機の發明競爭を演じてゐる有樣で、兩國空軍の進歩の路は急激に他の諸列强を遠くに引離してしまつてゐるといふことである。

膨脹飛躍せんとするナチス・ドイツの壓力に近隣諸國が非常な脅威を感じ、戰爭近しの警鐘が

亂打されるのも無理からぬ話である。しかしこれまで幾度か戰爭勃發の原因となり得る事件を頻發させながら、しかも戰爭にまでふみこみ得ないのには、當然それだけの理由があるとみなければならない。

その第一は、歐洲大戰の慘禍がまだ各國民の腦裏に强く殘つてゐて戰爭絶對反對の氣持が支配し、それが戰爭の一歩手前に强力なブレーキの役目をしてゐる。もう十年乃至廿年たてば、大戰もしくは戰後の苦しい再建狀態を「經驗」して來たものが五十歲以上となり、國家の中堅層は新らしき戰爭の準備のために銳意訓練づけられた次代國民が占めることになるので積極的に「戰ふ」氣持が國家を支配しはじめるであらうが、今日では「戰はぬ」氣持の方が何といつても根强い。

第二は各國ともまだ戰爭の準備が完全でない。次の戰爭は二ケ國だけで一騎打ちといふわけにゆかぬ、數ケ國を相手に戰ふ準備が必要だ、ドイツにしたところが空陸の軍備は相當のものだが海軍がなほ前途遼遠だ、大陸の問題に英國が容喙する以上は、これに中立を强制せしめるか、またはこれを擊破するだけの海軍力を準備しない限り第一次大戰のにがい經驗をもつドイツとしては自ら進んで挑戰する自信はない。

第三は現歐洲の列强間に眞の合從連衡が成立してゐない點である。大體において現狀維持國と

打破國との兩派はあつても各自相互の利害關係が入り亂れてゐて、打破國が一團となつて維持國グループに當るといふところまで纏まつてゐない。ドイツに對する佛、露、チェッコの三國軍事同盟は成立してゐるが、伊、墺、匈、波、英、白等々の向背に見透しがつかぬ、殊に節操なきイタリーと獨露兩國の間に洞ケ峠をきめこんでゐるポーランドの態度が決定せぬ限りどの國もウッカリ手出しは出來ないのである。從つて歐洲の現勢がかつての大戰直前を髣髴させると稱せられながら、それとの間に實際は大きな開きがあるのは、往時のごとき三國同盟對聯合國といふごとき二大陣營の對立にまで各國の足なみが揃つてゐないことである。どの國も自らを信ずる以外に安心して他國と手が握れないのである。

が、以上の情勢はドイツにとつて至極好都合である。列强間の矛盾對立の隙を縫うて巧に失地回復、勢力の扶植に進出出來るからだ、ラインの再武裝の次には獨白國境やキール地帶の再武裝が殘つてゐる。ダンチッヒ自由市の回收やメーメルの奪還も具體化するであらう。オリンピックがすむまでは鳴りをひそめてゐるものゝ、その後の多事が思ひやられるのである。現に四萬のオーストリヤ・ナチスの精鋭がドイツに招かれて武裝訓練を受けてゐるといふことだ。これらが武器を携へて墺國に戻つた時には墺の國軍に根を張るムッソリーニの勢力に對しては一大衝擊だ。

國軍に對する墺ナチスの人民蜂起の市街戰の形で、こゝ歐洲の川中島の如きウインの地にファッショ兩巨頭の決戰が演ぜられるのも遠くはあるまい。しかし、これとて獨伊兩國の戰爭にまで發展するかは疑はしい。伊の疲弊に乘ずるか、列强の足並不揃ひにつけこむか、どちらにせよ最小抵抗の時機をつかんで、ヒットラーはその信條とする「實力のみが解決する」ことを如實に示してゆくであらう。もちろん戰爭は、その性質上どんな動機で燃え上がらぬとは限らない。しかし戰爭の危機の自覺と自制心とが各國民の間にはたらいてゐる以上は、第二次大戰の勃發までにはまだいくばくかの餘裕があるとみて差支へない。當分は小國の泣寢入り、弱國の讓歩によるナチス・ドイツの失地回復、國力復興時代がつゞいてゆくであらう。(一九三六、六、一〇)

Ⅱ　ナチスをめぐる國際情勢

一、獨伊ファッショ戰線の結盟

ナチスのドイツ制覇の日、ヒットラーの胸中には、その思想の近似性の故にイタリーのムッソリニとは、容易に共同戰線に立ち得るものと誤信してゐたと見られる。ナチスの新聞が、連日その第一頁を割いて、この地上に新たに出現した國民社會主義の國家と、一足先きに南歐にファッシズムの新旗幟をうち樹てた雄國イタリーとは、共にコンムニズムの脅威から全ヨーロッパを救ふために、兄弟國として親善と協力とに結びつかねばならない、と書き立ててゐたのであつた。

一九三三年五月、輝やかしい初夏の陽光と共に、イタリーのファッショ少年團の一行が黒色の制服に身を固めてドイツを訪れた際の、ベルリン、ハンブルグ等各都市の熱狂的歡迎は忘れることが出來ない。

かくしてその翌年六月、ヒットラーは飛行機でヴェニスに飛び、そこでムッソリニと固い握手を交はした。だが、その會見の結果は、ヒットラーにとつては甚だしく不滿足なものであつた。ムッソリニは彼を終始弟分として取扱ひ、國内の大衆の前に隣國首相の敬意を受ける自らの尊大を誇示する道具として使つた。サン・マルコ廣場のファッショ團體の閲兵式ですら、そこに翻へるものはすべてイタリーの國旗であり、ドイツのものもナチスのも見られなかつたのであつた。

兩首相會談の內容は知るに由なく、アメリカの通信員は「ヒットラー氏は高遠の理想について語り、ムッソリニ氏は卑近の現實を語つて、會話は永久に合致しない平行線上を去來した」と報じたがその內容が獨墺合併を前提とするオーストリー協定に獨伊兩國の意見が尖銳に對立したものであつたことは、兩者の別離後直ちに墺國首相ドルフスがオーストリア・ナチスのために暗殺され、その前後半歲は險惡な空氣に獨伊關係が包まれてゐたことによつても知り得られる。昨日の友は忽ち今日の仇と早變りして、ドイツの輿論はイタリーを大戰當時の裏切者、嘘つきと乞食

に充滿した劣等國として、惡罵の放列を布いたのであつた。

ヒツトラーはこゝにおいて、フアツシズムの思想そのものに國際性の無いことを知つたかも知れない。全人類を横斷的にブルジョアジーとプロレタリアートに二大別して世界的階級闘爭にまで發展せんとするコンムニズムには國際性があるが、フアツシズムはたかぐ一國家内にとゞまる。それはどこまでも一國の擴大强化を目的とする。一國と他國とのフアツシズム的聯契は、コンムニズムに對する共同戰線であるが、それさへ利害關係の一致を見ない時には相背反するのだもし共同の敵コンムニズムの脅威無き場合は、フアツシヨ國家相互間にヘゲモニー爭奪の弱肉强食戰が演ぜられねばならぬ。そこに究極におけるコンムニズムの國際性叉は世界性に對し、フアツシズムの一國家性、一民族性を見るのである。

が、更にヨーロツパの局面は幾波瀾を起伏して、一旦離反し去つた獨伊關係は本年に入つて再び接近を見せ、去る十月二十四日にはムツソリニの女婿たる外相チアノ伯は南獨の山莊にヒツトラーを訪問し、こゝに兩者は新たなるフアツシヨ戰線結成の協議を遂げた。その結果、獨はイタリーのエチオピア合併を正式に承認し、次いでスペイン内亂對策に兩國が同一の步調をとることソ聯のコムニズム打倒の共同戰線、及び新ロカルノ會議對策等全歐政局の全分野に亘つてフアツ

ショ戰線を結成すべき態度の一致に成功したのである。

これは全歐を震駭した。直接的には、ソ聯、フランス、チエツコの對フアツショ同盟國に異常の衝擊を與へたのみでなく、間接的には歐大陸の勢力分野の激變に英國は自らの生命線に觸れる問題として狼狽し、ルーマニア、ポーランド、ユーゴースラヴイア等各小國またこのフアツショ戰線の擴大情勢に適應すべく動搖の色を見せ、更に獨兩國を盟主にフアツショ戰線を一層强化すべき新形勢を釀成せんとしてゐる。次でベルギー皇帝の佛白同盟の解消と中立還元の宣言、スペインにおけるフランコ將軍一派のフアツショ軍の優勢等の新情勢を織込んで、あだかも全歐は蘇佛の人民戰線と獨伊のフアツショ戰線との二大陣營の對立となり、思想的に左右對立は一段と激化したと見られるに至つた。

がこれとて以上の表面的な動きを其儘受取つて、全歐が、またひいては全世界が、相容れざる二つの思想のもとに、分裂し、血河屍山の修羅場を畫き出す運命にあるかと考へることは早計と思ふ。ナチスとソ聯とは、その世界觀において政治體制において、經濟的な利害において、眞正面から尖銳に對立する。從つて一方の勝利は他方の死滅であるが故に、最後までその全力のもとに鬪はねばならぬ運命にあるが、殘餘の資本主義國は現在の狀勢ではそこまでのことは考へられ

ない。むしろフランスの如き高度資本主義國が、逆に共産主義國のソ聯と結んでゐる奇觀をさへ呈してゐるのだ。同じ意味において、獨伊の結びつき、及び獨伊を盟主とするフアッショ戰線の結合の强靱さがどの程度のものであるかは、この際一應檢討しておかねばなるまい。

×

最近までの歐洲外交界は、英佛は獨伊を國際聯盟の機構内におくことによつて聯盟の强化をはからんとし、蘇聯は聯盟に加入してフアッショ擡頭を抑へ、蘇聯の勢力を扶植するために聯盟を極度に利用した。しかし獨伊は逆に聯盟機構を打破することによつて、自己の膨脹擴大をはからうとした。かくして獨伊の横紙破りが功を奏して、今や聯盟をめぐる紛爭は後退して獨伊對蘇佛の二大戰線の對立時代が出現した。

事態をここまで導いて來た大勢の波を分析する時、そこに最も敏捷に波頭をリードしつゝ、自己の欲するところに局面を轉回させていつたヒットラーの政略的外交を見逃し得ない。戰後の外交は條約の尊重と儀禮の交換であつたが、彼の外交は條約の打破であり、儀禮に代る威嚇であり、讓步に代る猪突である。がその間に一貫した方針を持し、戰機を巧みに捉へて一步々々先手を打つてゆく點に特色がある。

ヒットラーの外交政策は三つのキイポイントをもつてゐる。第一はヴェルサイユ條約を破棄して一切の平等權を獲得することであり、第二はフランスとは絶對に戰はない、換言すれば不侵略條約を結ぶべく可及的に平和政策をとること、第三はソ聯のコンムニズムに對しては必戰的態度で押し貫くこと、この以上の三つであるが、西方フランスとは平和を保ち、東方のソ聯とは戰爭するといふ態度は、歐洲大戰の失敗に顧みたもので、腹背同時に敵襲を受ける愚を避けたものである。現在植民地が無く世界を向うに廻して戰ふ實力無きドイツは、戰ふならばロシヤ一國でなければならない。殊にフランスと戰ふ場合は英國を刺戟し、大戰の二の舞を演じるが、ソ聯の世界革命を食ひとめる防壘として、ソ聯に挑戰することは、英佛の如き資本主義國は加勢しないまでも傍觀するであらう、ソ聯一國ならば勝つ自信がある。勝てばソ聯の肥沃なる穀倉ウクライナが手に入る。更にその彼方には茫々たるウラル、シベリヤの原野が展開するではないか、ドイツに缺乏する植民地はまさに東方にこそ求めらるべきだ、强大な海軍をもたぬドイツが陸續きに進軍して得られる植民地は東方にある、ここにドイツの東方政策がある。帝政ドイツの帝國主義的觸手はバルカンから近東に延びたが、ナチスドイツはバルカンから一直線に南部ロシアの平原を指向してゐるのである。歷史的に抗爭をくり返して來たフランスとの雌雄を決する時期は、一應

この東方政策が完成した後の問題だ。それまではフランスとは平和の一本槍で進まねばならない以上の見地から、一九三三年十月平等權獲得の第一歩として、ドイツに屈辱的追從を强ふる國際聯盟から脫退した際も、ヒットラーはフランスに對しては和解的態度を宣明し、ザールの國民投票によつてその歸屬が決定した以後は尺寸の地と雖も領土上の要求をフランスにつきつける意志のないことを聲明した。

けれども、一方フランスにしてみればドイツの言を信じて、そのまゝドイツの東方進軍を拱手傍觀するわけにはいかない。大戰後の歐洲大陸の政治的經濟的ヘゲモニーはフランスの掌握するところで、その勢力下に庇護される各小國は、ドイツの現狀打破によつて震駭し、ドイツの擴大强化によつてはフランスを棄てゝドイツに趨らないとも限らない、しかもドイツが東方政策完成後は、鉾をかへして西歐にフランスと雌雄を決し來るのでは安閑としてゐることが出來ぬ。ヒットラーのいふ對佛平和政策などにうま〳〵乘せられてはたまつたものでない。ドイツの勃興に先んじてこれを封じなければならぬ。それにはドイツと利害關係の反する諸國を打つて一丸として對獨包圍陣を形成することが急務でなければならぬ。かゝる見地からフランスはバルツー外相の提唱で集團的保障條約の成立を急ぎその圈內にドイツを招致して閉ぢこめようと試みた。

これに對してドイツは集團保障條約は國際上多邊多樣の義務に束縛せられる結果、加盟各國間の紛爭は直ちに加盟全國部を紛爭にまきこむこととなり、全歐を戰火の危險にさらすものであるそれよりも各國別的に二國づつの平和條約を取結び、二國間の紛爭は當該二國間の紛爭に局限しなければならぬと强調し、事每にフランスの運動に反對し、各國がその集團的保障條約に參加することを妨害した。かつその一角においてこれを斷ち切るために隣國ポーランドに働きかけ、獨波關係の過去の紛爭問題を當分不問に附し、向う十ケ年間の不可侵條約の締結に成功したのであつた。次いで、ザール投票ではドイツの勝利に歸し、ヒツトラーは更に前の宣言をくり返してドイツはフランスに今後領土上の野心なきこと、エルザス・ロートリンゲンもドイツは自發的に斷念する意志を明らかにしたものであつた。

しかし、この形勢は却つてフランスを刺戟し、焦慮したフランスはソ聯を誘うて國際聯盟に加入せしめ、佛蘇の提携を以て各國へ說き、ドイツの周圍を更に包圍する方策を執つた。即ち佛・蘇・チエツコ・白・及びユーゴースラヴイア、ルーマニアをも加へて、ドイツを金縛りの中に生捕らんとしたのである。

これに對抗してナチス・ドイツは如何に出たか？　これを默過して包圍を甘受することは絕對

にゆるされぬ。何となれば、それは國內的にナチスの信望の失墜を招くからだ!! 坐して屈服を餘儀なくされんより、進んで第二の冒險に挺身しなければならぬ。そこでドイツは更に平等權を絕叫して斷乎再軍備の自由を宣言し、直ちにヴエルサイユ條約による常備兵力十萬を一躍六十萬に飛躍せしめた。

もちろんこれは佛蘇に開戰の意志なく、英國また直ちに大陸の紛爭に介入して來ることは無いと觀取したからに外ならない。しかし獨の再軍備は全歐を震駭せしめた。そして更に强化された對獨包圍陣の結成が必要とされ、佛白をつなぐ國境には鐵の要塞三百哩が構築され、佛蘇、佛チ蘇チの三國間にはそれ〳〵攻守同盟の結成を見、全歐は一觸卽發の危機に戰慄した。英國また傍觀的態度を放棄し、獨に對英三割五分の海軍力を容認してその尖銳化を緩和しつゝ、他面また、東方ロカルノ條約を提唱して、こゝに英國の大陸における交涉の限界を求めんとした。しかし、ドイツは東方ロカルノ條約の成立に反對し、これは卽ち新しきドイツ包圍陣の政治的僞裝として却けた。

時あたかも勃發したイタリーのエチオピア遠征によつて、これは一頓座を來したのみならず、地中海を中心に英伊の對立は事態を一層緊迫し、英は伊を佛から引離し、國際聯盟によつて伊を

制裁せんとした。その危機をとらへて獨はライン非武裝地帶に再武裝を敢行し、同時に國際的に孤立せんとする伊に握手を求めて佛蘇同盟に對抗を策したのである。もちろん墺、匈、バルカンにおける獨伊の紛爭對立は一時延期され遂に最近の獨伊フアツシヨ協定にまでこぎつけたのである。

×

次で勃發したのがスペイン內亂である。獨伊のフアツシズムの攻勢を防衞するために佛に人民戰線內閣出現し、スペインまたこれに倣つたが、スペイン國內のフアツシストの反撃となつて、同胞殺戮の未曾有の悽慘なる狀景を呈してゐる。

スペイン內亂をめぐつて、各國共に左右兩翼對立の運命について深く考へさせられてゐる際、突如、ソ聯國內にあつてはスターリン政權打倒のトロツキスト一派の陰謀が發覺した。

こゝにおいてかドイツは、更に此の絕好のチヤンスを利用して、蘇聯を除く歐洲各國をして反コンムニズムの側に立たしめ、蘇聯を國際的孤立に陷らしめ、獨蘇の決戰において各國を獨に味方せしめんとする攻勢的戰術に出たのだ。卽ち九月六日から一週間ニユールンベルグに開催されたナチス黨大會を利用して、一大宣傳戰を展開し、專ら主力をソ聯のボルシエヴイズム攻撃に集

中し、世界の輿論をしてソ聯の進出に警戒せしめる方策をとつた。

ニユールンベルグの黨大會の演說においてヒツトラーは、ナチスドイツがボルシエヴイズムの國內侵入を撃滅したこと、同樣の意味で十一年前にこの問題を解決したフアツシスト・イタリーに敬意を表し、スペインの內亂を語つて人民戰線のケレンスキーがボルシエヴイキに敗れるならば全歐は血の海となるであらう。全歐をボルシエヴイキの慘禍から救ふためにナチスはその前衞戰列に立つてゐることを强調した。次いで宣傳相ゲツベルスは社會主義の野蠻低劣なる畸型的產兒がユダヤ・ボルシエヴイズムで蘇聯はかゝる思想による劣等人種の獨裁國であり、各國に暗躍する共產黨なるものはコムインテルンの外人部隊である、この惡魔的世界ペストは絕滅されねばならない。これに與するか、これと戰ふか、何人も斷乎たる決斷を下さねばならぬと、彼一流の毒舌で以て痛罵してゐる。

これに對し、蘇聯及びコムインテルンでも負けてゐず、直ちに應酬して、ドイツ・フアツシズムこそは熱病的な軍擴に夢中となつてゐる戰爭放火者であるとコキ下ろし、双方の惡罵は全世界に亂れ飛んで、切迫した空氣を一層尖銳化した。

ナチスのボルシエヴイキ攻擊がソ聯の虛を衝いたことは爭はれないが、また一方そのことによ

つてソ聯と結ぶフランスに對し、第二のスペインたる勿れの警告を與へ同時に佛國內のファッシストの奮起を促したものとも考へられる。ヒツトラーはこの一兩年前から屢々ベルリンに佛國在鄕軍人の巨頭を招いて交歡を遂げ、佛國政權が速かに右翼の手に歸することを慫慂し、その曉には佛はソ聯と手を切つて、獨と不戰條約を締結し、西歐にナチスを攻むる危險を排除することを期してゐるのであるから、ニユールンベルグのナチス大會にも佛國右翼要人達を多數招待したのであつた。

同時にまた、この形勢は、ナチスの脅威のため一時佛蘇の戰線に逃れんとしてゐた各小國をして、再び獨伊ファッショ戰線の側に近づかんとする傾向を生じた。卽ちルーマニヤのカロル王は親佛蘇系の外相チチユレスクを逐ひ、先きに締結されたルーマニヤを橫斷して蘇聯とチエツコを結ぶ鐵道案の實施を阻止してゐる。ユーゴースラヴイヤまた佛國資本の融通逼迫するや、獨のシヤハトの工作にすがつてドイツと經濟的に接近せんとしてゐる。ポーランドは最近軍需資本を佛に仰いだために親佛を傳へられてゐるが、獨波條約は依然存在し、かつ國內はコンムニズム絕對反對でファッショ政體であるからには、ソ聯の側に走る可能性は稀薄である。しかしベルギー皇帝の中立宣言は佛の弱體化を如實に物語るものであつて、佛國內に佛が蘇聯と結んでゐることの

不可を責める輿論が起り、上院には佛蘇同盟條約再檢討の要求さへ提出されてゐる。

かくして獨伊ファッショ戰線は、墺、匈、勃の現狀打破國及びファッショ革命を完了したギリシャ、ポルトガル等を從へ、更に佛蘇同盟側の小協商國をも誘引しつゝ、漸次その戰線は擴大されてゆく傾向にある。これに反し佛はスペインの今後の形勢如何によつては逆にファッショ國群によつて包圍さるゝ狀勢に陷り、蘇聯また東歐に孤立する有樣となつて、一兩年來國際聯盟をひきずつて對獨包圍陣の形勢に歐洲外交界のリーダー格であつたフランス及びソ聯が、かゝる悲觀的狀態に追ひこまれつゝあることは、歐洲政局の急轉ぶりに驚かされるが同樣に此の狀態が明日にはどう變化するかも保證出來ない。しかし今日までのところではヒットラーの戰略外交は、あざやかに先手を打つて包圍の窮狀を打開し、佛蘇に一泡吹かしたものと見ることが出來よう。

かくして次に獨伊のとるべき工作はドイツにあつてはウクライナへの進軍の通路を開くことである。その前方を塞ぐチェッコは蘇聯の砲壘であるが、チェッコは元來が反共產主義の國家である。ソ聯のボルシェヴイキ打倒の十字軍を起すナチスドイツが此のチェッコと戰火を交へることは愚でなければならない。最近ヒットラーはチェッコに觸手をのべ、チェッコ國內三百五十萬のドイツ人より成る西南ドイツ黨の自治運動承認及びチェッコが蘇聯との軍事同盟を解消して中立

せんことを工作してゐることは注目に値しよう。墺・匈・羅と親獨の線を延長すればファッショのギリシヤ、トルコまたこれに風靡せんとし、ドイツの勢力はウクライナのみならず近東にも進出しつゝあることは帝政ドイツの傳統をつぐものであらうか。

翻つてイタリーは地中海の制覇に更に一歩を進めて地中海を自國の湖水化せんとしつゝある。エチオピア征服によつて紅海の制海權は漸次イタリーの掌握するところとなつてゐる。ドイツの近東進出、イタリーの地中海制覇に、同地方に最も利害關係をもつイギリスが默視する筈はない。イギリスが獨伊のファッショ戰線に對してとるべき態度も、この邊の利害打算から割り出されるであらう。更に利害を問題とすれば、バルカンにおける壇なるナチスドイツの跳梁を、同地方に野望あるイタリーがファッショ共同戰線の名の下にどこまで忍從するかも問題だ。

第一次大戰との近似性

以上の形勢は、コンムニズム對ファッシズムの思想的色彩を消し去るレンズで透視するならばあたかも歐洲大戰當時の歐洲各國の動きそのものに酷似し來つてゐることは甚だ興味がある。ビスマルクとウキルヘルム二世によつて急激に勃興したドイツを抑へるために佛露同盟は早く十九世紀末に成立し、二十世紀に入つてはドイツのバルカン進出に脅威を受けた協商諸國を誘うて佛

露は漸次ドイツ包圍の陣形をとることに成功したのであつた。しかし、軍國主義ドイツはこれにひるまず更にバルカンより近東に進出し、一方アフリカ及びアジアにも雄飛して英帝國主義をも壓迫するに至つて、これまで比較的ドイツに好意を見せてゐたイギリスは佛露の側に轉じ、イタリーまた三國同盟を裏切つて聯合國の戰線に立つたのであつた。しかもその戰端の開始されるや戰爭は軍國主義對デモクラシーの戰ひとして全世界に呼びかけられ、いづれ劣らぬ帝國主義的野心のための衝突は、あたかも思想的の對立であるかの如く扮飾されたのであつた。

かくの如く、獨伊フアッショ戰線の結成といつても、それは多分に解決されない矛盾を含んだ脆弱性のものである。對コンムニズムの戰爭において、どこまでその結合の强化を維持し得るかは疑はしい。しかもフアッシズムのもつ本質的矛盾から、獨伊は戰爭開始の瞬間においても相互に離反し去るか、又は敵對し合ふかの危險をすらもつてゐるものだ。この故に次に來るべき大戰を、コンムニズム對フアッシズムの二大戰線の決戰とのみは單純に呼び得ないものがある。むしろ、その實質において歐洲大戰當時の各帝國主義國の爭霸戰に近いものと見てよい。たゞ、蘇聯も獨伊も、その開戰に當つては飽くまで自己の思想的立場を强調し、中立國及び敵國内のそれぞれの思想の同情者を味方の戰列に動員せんとする戰術をとるであらう。その限りにおいて、飽く

れの思想の同情者を味方の戰列に動員せんとする戰術をとるであらう。その限りにおいて、飽くまで思想的對立による假面の下で戰はれるであらう。その場合、戰禍はひとり交戰國のみにとゞまらず全世界に波及する危險を多分に包藏する。單に一國内において戰はれつゝあるスペインの人民戰線對國民戰線の死闘すら全歐は多大の動搖を受けつゝあることを思へば、明確な思想的旗幟の下に兩派の國家群が決戰するのを、果して各國のそれ〴〵の思想的同情者達はこれを冷靜に見守つてゐるであらうか、この意味からして、獨伊フアツショ戰線の結成と、それの蘇聯への挑戰は第二次大戰の戰貌を一層深酷化したものといはねばならない。（一九三六、一一、九）

二、人民戰線か國民戰線か

人民戰線か、國民戰線か、この二大戰列のいづれかに、今後の世界戰國の多くは國内的にも、また國際的にも、分裂と糾合を餘儀なくされつゝある。フアツシズムの攻勢が、それに拍車をかけつゝあるのだ。昨春フランスに人民戰線内閣が成立した時には、モスクワの第三インターの指令による反フアツショ戰線の結成といふ以上の印象を與へなかつた。元來が民主主義の國フラン

スにこの種の政權樹立は當然のことであるからである。が、引續きスペインに同じく人民戰線內閣が誕生し、同時にその反對派たるファッショ各派の聯合軍の反擊となつて同胞殺戮の動亂勃發するや俄然全世界の耳目はこゝに集中された。殊に歐洲の各國はそれぞれ自國內の動搖を押へつゝ國際間に漲る惡質の低氣壓の彼方に、人民戰線か國民戰線かの、いづれかの標識に針路を決定すべくもがきはじめてゐるのである。內亂の不感症國スペインといへども、今回の動亂は、從來の革命騷ぎとは質を異にする。まさに世界的に尖銳に對立するコムミニユズムかファッシズムかの戰ひが、人民戰線對國民戰線の形式において、食ふか食はれるかの死鬪をこの西歐の一角において展開しつゝあるのだ。それは現世紀の運命の縮圖として、國際的に波及する性質をもち、第二次世界大戰を一觸卽發すべき危險性を包藏してゐるのである。

ムッソリーニのエチオピア攻略の成功、ナチス・ドイツのラインランド再軍備と最近のボルシエヴイズムへの露骨なる挑戰、そしてスペインの叛軍蜂起と、數へれば近來ファッシズムの攻勢にはめざましいものがある。かつてはファッシズムといへばムッソリーニの一枚看板であつた。今ではヒットラーが加はつてゐる。この兩雄は好餌の墺國を挾んで對峙する立場にあるが伊エ戰爭からスペイン內亂へかけて共通の利益一致するや欣然手を握りあつて人民戰線打倒に馬首を進

爭からスペイン內亂へかけて共通の利益一致するや欣然手を握りあつて人民戰線打倒に馬首を進めつゝあるのである。從つて、佛露と結んでナチス・ドイツを孤立に追ひこんだ筈の人民戰線側小國家群の中には脅威の餘り日和見主義に韜晦し、ついで戰線を脫落する國さへ現はれて來た。

例へばポーランドの如き反ナチス陣營として一時は佛露の有力な一翼だつたが今や中立を標榜しつゝもその國內政情は佛露と相容れざるファッショ化の一路を辿つてゐる。オランダもまた慌だしい歐洲の雲行きに、その名物の風車は狂轉を續けつゝムッセルトを首領とする祖國黨ファッショの勢力は刻々に强化されてゆく。更に最近の外電はルーマニアの轉向を傳へてゐる。ルーマニアはチェコと共にドイツのウクラクナ進出を阻む要塞の役目を引受け、イタリーのバルカン進出をさへぎるユーゴ國と所謂小協商國ブロックを形成し、佛露のドイツ包圍陣に呼應しつゝ近隣の墺、勃、匈のファッショ國家群の擡頭を押へつゝあつたものだ。本年六月にはルーマニアのカロル二世はチェコのベネッシュ大統領と相携へてユーゴ國に赴き、パウル攝政と鼎座してこの三國を結ぶ軍略鐵道建設を可決しその一層の緊密化によつて獨、伊の進出をあくまで阻止するかに見えたが、スペイン動亂以後の情勢をみて急轉回を試み、親佛派のチツレスク外相を却けて親獨派のタートレスク首相の獨裁的傾向をおび來り、小協商國の陣列を脫しても獨、伊に結びつかんとのゼスチュアをとるに至つた。ユーゴ國また動搖の色を見せ、この際にさしのべたドイツの裏

面工作も功を奏してか、伊との間に從來の反目を緩和して誘へばなびかん風情を示してゐる。かくて小協商國ブロックの陣營は社會主義的政府をもつチエコを佛露同盟側に殘して獨、伊を盟主とする中歐フアッショ陣營に投ぜんとする形勢に轉じつゝあるのだ。

佛國右翼の動向

現下の情勢では、人民戰線の戰列にあるものはソ聯、フランス、チエコ、スペインの四ケ國、國民戰線にくみする國家群として獨、伊、墺、匈、希、勃、アルバニヤの七國にルーマニア、ユーゴー、ポーランド、オランダ等の形勢觀望派がこれに追隨せんとしてゐる。もしスペイン内亂で政府軍敗退し、人民戰線に代つて國民戰線の天下ともなれば、佛、露をはじめ人民戰線派は著しく窮地に陷るであらう。殆にフランスはスペイン、ドイツ、イタリーによつて三方から包圍され、佛、露同盟以後チエコを加へてドイツ包圍陣の結成に成功したフランスは忽ちその背後の一石を敵に與へるために、逆に自らを敵に包圍せしめる布陣に轉形する結果となるのである。

一昨年末頃からヒットラー總統はベルリンに屢々フランス在鄕軍人會の巨頭を招いて會談をとげてゐる。表面的に見ればそれはかつて敵味方として世界大戰に相見えた出征戰人としての敬意

の交換ではあつたが、以心傳心的に兩者の間に一脈通ずるところのものは、フランス國內に跋扈する社會主義諸勢力の一掃であるといひ得るであらう。左翼が政權をとる以上はフランスはソ聯と結ばざるを得ない。從つてドイツとはその限りにおいて絕對に相容れない、もし、フランスで右翼が天下をとり、ソ聯と手を切るならばドイツは親佛政策に轉向し、力を專らにしてソ聯の擊破に當るであらう、といふわけである。一昨春ザール地方がドイツの有に歸した際、ヒツトラー總統はその勝利の演說において、ドイツはもうこれ以上フランスから國土を要求する意志なきことを聲明した。

最近のニユールンベルグにおけるナチス黨大會に際しても、ヒツトラー總統以下各巨頭總出演でソ聯のボルシエヴイズムに對する挑戰を呼號したが、フランスに對しては辭を厚くして黨大會に佛國政界の要人を招待したのであつた。元首相ラヴアルは辭退したが、主として右翼系の政客連は進んで出席し、ナチス首腦部と親しく意見を交へてゐる。

かくて、フランスにおける人民戰線政權を打倒して國民戰線派をして制覇せしめんとするヒツトラーの工作は、更に今回のスペイン內亂によつて一層のチヤンスに惠まれた。即ちすでにスペインの反政府軍の優勢は漸次フランス右翼陣營を刺戟し、一時鳴りをひそめてゐた火の十字團が

フアツシヨ革命の準備を開始したとも傳へられてゐる。

しかも、フランスにあつては單に左右兩翼の抗爭のみでなく、左翼の人民戰線陣營内部に大分裂を惹起すべき危險性が露出されゝある。といふのはブルム内閣は人民戰線内閣とはいへ共產黨を閣外に押除けた社會黨及び急進社會黨の内閣だ。スペインの政府軍援助に對しブルム内閣の生ぬるい態度に共產黨系はいきり立ち、數百萬の勞働者が全國的ストライキに動員された。かてゝ加へて經濟界の不況は、物價の漸騰と前途の不安に民心を著しく動搖せしめ、人民戰線内閣の不信を右翼があふるに好都合の條件をそなへて來てゐる。

元來フランス人民戰線は急激なフアツシヨの進出に對抗するために社會黨と共產黨とを中心とし、勞働組合、文化團體等を交へて結成された共同戰線であるに拘らず、フアツシヨ勢力の擡頭を前にして戰線に龜裂を生じ、遂にフアツシヨに乘ぜられんとする形勢は、あたかも一九三三年ナチスによつて强襲擊滅されたドイツ左翼陣營の轍を履むのではないかと思はしめないでもない。

「火の十字」とドラ・ロツク中佐

フランスがナチス制覇以前の共和國ドイツの二の舞を演ずるかどうかは別問題として、フランス人民政權に對立する國民戰線派の陣營中、果して何人かフランスのヒツトラーたり得るであら

ス人民政權に對立する國民戰線派の陣營中、果して何人かフランスのヒツトラーたり得るであらうか、その主力を形成するものは一九二七年に大戰出征軍人を中心に結黨された「火の十字（クロワ・ド・フウ）」であるが、これはイタリーのフアツシヨの精神主義を運動の基調とした關係から親伊的態度をとつてゐる。後にナチス張りの青年愛國黨「ソリダリテ・フランセーズ」を合流せしめ、また國民義勇隊を別働隊として備へ、少年隊、少女隊をも編成して、その全線を軍隊的に組織し、武器すら與へたものである。この「火の十字」黨の指令下に動員されるもの約八十萬と稱され、フランス最大のフアツシヨ政黨として他の王黨の「アクシオン・フランセーズ」や青シヤツの「フランシスト愛國團」等々の水準を拔く陣容を誇つてゐる。昨年末、左右兩翼の激突後人民戰線側の提言を容れ他の友黨と共に解散を命ぜられたが、昨今は新黨「フランス黨」に再編成して、着々陣形を整備しつゝある。最初は香水王コチイがその財的バツクであつたが一九三〇年にド・ラ・ロツク中佐が黨內に擡頭し黨の指導權を掌握した。

かれはロツク大將の息で一九二六年まではフオツシユ元帥の幕僚であつたが、現役を退くと共に大電氣事業に關係し一種の軍需工業畑の人間となつた。從つて黨の財的背景もコチイの手から離れて、現在ではロツクを續る電氣化學工業、鐵工業等の一聯の軍需工業資本家の支援に移つて

來てゐる。半官紙「タン」の如きも「火の十字」の支配下にあつてあなどり難い潛勢力を有してゐる。

ロック中佐は雄辯で、德望もあり、首領としての組織力も備へてゐるが、さてかれがヒットラー張りの獨裁官にまで突進し得るかといふと、まづ望み薄といはざるを得ない。何となればかれは名門の出を反映してその性格は貴族的で、ヒットラーの如き野生味、具體的にいふなら政敵を鐵腕もて粉碎し蹂躙し去る野蠻味と酷烈性とがない。

一時は左翼打倒には武力行使も辭せずと豪語したが、人民戰線内閣の要求の前に黨の武裝解除は勿論、黨の解體すらも容認したかれである。かれとしては、政界の腐敗を彈劾しても徐ろに議會の反省を待つといふあたりがその本音らしくその點黨内急進分子のかれに對する不滿の生れる所以でもある。

もしクーデターを國民戰派線に期待するならば、小ナポレオンと呼ばれる元警視總監のジャン・キャツペあたりであらうがかれは未だ全右翼陣營を横斷する勢力なくロックを凌ぐ聲望をもち合はさない。しかし形勢切迫すれば、キャツペは必ず一役買つて出るであらう。同様の意味でフランス人民黨を率ゐるジャック・ドリオも小ヒットラー程度にふめる人物であらう。かれはもと共

產黨員であつたが、百八十度の急轉回をして最右翼となり、その精悍な行動的性格は漸次政界に一つの魅力をもつに至つてゐる男だ。右翼クーデターの日に、かれの名は躍るであらう。
では、國民戰線が人民戰線派の打倒に乘り出す場合、スペインの如き無政府的動亂が爆發するかといへばさうはいへぬ、共產黨にしたところがフランスのそれにはパリ・コンミューン以來の古い歷史と經驗とがある。老カシアンの如き共產黨員にして上院議員たるものを出してゐるほどでスペインの狂熱的共產分子と同一視出來ぬものをもつてゐる。かつ社會黨が容易に共產黨にヘゲモニーを渡すかどうか、熱狂の裏に冷靜な理論と個人主義とを併せもつてゐるのがフランス國民性だ。
共產黨が目に餘る暴動を起す場合は、社會黨は逆に國民戰線と手を握つて祖國の防衞に乘り出すかも知れない。今春の選擧に共產黨は十名の小黨から一躍七十餘名の代議士を獲得したが、これは共產黨が人民戰線の中に鋭鋒をかくし、穩健なる政綱によつて大衆をキヤツチしたからに外ならない。
が、フランス人民線戰のヘモゲニーを社會黨の手から共產黨が奪取する日は、いふまでもなく赤色フランスの出現だ。ドイツのナチス機關紙は最近パリのソ聯大使館とフランス共產黨との往

來が頻繁になつたことを指摘し卽ちソ聯は赤色フランスを出現することによつて世界革命を可能にし、かつは赤色フランスとナチス・ドイツとを戰はしめることによつてソ聯の極東政策を自由ならしめようと企圖してゐると論じてゐる。

ともあれスペインの動亂は、フランスに飛び火する可能性は十分にある。フランスの人民戰線對國民戰線の尖銳な對立をめぐつて、外部から攪亂の手をさしのべる獨伊のファッショ國家とソ聯との動きは見逃してはならない。（一九三六、九月末記）

三、ポーランドは何處へ

歐洲のこのごろは會談につぐ會談だ、國際外交の花形は縱橫に各國首都の間を亂れ飛んで歐洲平和工作に狂奔してゐる。が、この「會談」なるもので膝つき合はして談じ合つてゐる立役者達の眼はお互ひの猜疑と警戒とで血走つてゐるから不思議だ、從つて平和工作のかげに各國は鎬を削る軍擴競争に熱中し、國際不安の狂躁曲は平和のかけ聲の高唱に正比例していよ〳〵急調に擡

き立てられる。

この間隙を縫うて、外交デマもまた亂れ飛んでゐる、日獨同盟はまだしも、日獨波の三國同盟說が正氣でトビ出してわれ〳〵日本人を面喰らはせる、ヒツトラーがサイモンとの會見の際ドイツは日本に對して南洋植民地返還の希望をもつてゐると告白した一件などはヒツトラーが日獨同盟說の事實無根の實證としてサイモンの、否英國の御機嫌を取り結び英國の對獨態度の好轉を期待したのだ、とのうがつた批評さへ流布される。

かゝる際に一九三五年五月のヒツトラー總統の外交宣言は或る程度まで國際デマを解消し各國に歐洲政局の前途に對する見透しを與へる手引ともなつたことであらう、ヒツトラーの外交宣言はナチス主義を基調とした外交方針を客觀的情勢に適切にあてはめたものと解してよい、言辭は愼重であるがナチスの意圖は言外に横溢してゐる。早い話が佛國と妥協して西部戰線は當分安定させるが東方の露國に對しては根本的に相容れぬものとしてナチス東漸主義の旗幟を鮮明にしてゐる。

ナチスの東漸に對する露國の警戒は一層嚴重を極めるであらうが、獨露兩大國の間に挾まつたポーランドの困惑に滿ちた顔もこの際想像される事實だ。露につくか、獨に與みするか、それと

も永年の友邦佛國の袖にすがるか、時しも建國の支柱ビルスドスキー元帥を亡つてポーランドの動向こそは注目されてゐる。ポーランドの動きが直ちに獨露佛の勢力關係に微妙に作用するばかりではない、日獨波三國同盟などと騷がれるあたり、ひいてはそれが極東にも影響することが考へられぬでもない、私はピ元帥の國葬に際してワルソーに入りポーランド各方面の意見を叩いて、その今後の動向を打診したが一應既往にふり返つて、歐洲政局のキヤスチイング・ヴオートを握るポーランドと、それを圍繞する獨露佛の外交角逐戰を考察してみよう。

ポーランドの動向が歐洲で問題となり初めたのは實に一九三四年二月、獨波共同宣言となつて發表された兩國の十ケ年相互不可侵條約からであつた。これに最も驚いたのは佛國で從來唯々諾々として佛國に追從して來たポーランドが、突如佛波兩國にとつて仇敵の側におかれてゐたドイツと單獨に手を握つてしまつたのであるから、この不可侵條約が恰も獨波同盟の成立でゝもあるかの如く佛國には響いたが、この佛國の驚愕はポーランドの國際的地位に對する認識の不足から來てゐる。獨波は同盟したのでもなく、手を握つたのでもなかつた、裏面からこの不可侵條約の成立を覗くと問題は一九三三年一月末ナチスがドイツの天下をとつた日に出發する。

從來のナチスの宣言の立前からいへば、ナチスは當然ポーランドと一戰すべきであつたのだ。

避け難き獨波戰爭——それをポーランドのピルスドスキー元帥はすでに覺悟してゐた。ポーランドが着々軍備を充實して歐洲有數の陸軍國となつたのも、一つにはナチスの襲來に刺戟されてのことであつた。だが、ナチスの制覇にも拘らず、ポーランドに對して戰端を開く態度が見えないそこでピ元帥は三三年五月に腹心をヒツトラーのものと派遣して和戰いづれなりやと問はしめたのだ。その時の特使は聞くところによると現ポーランド駐伊大使であるとのことだ。

ところがヒツトラーの答へは意外にもナチスに戰意なしとのことであつた。これは當然の話で當時のナチスは左翼、デモクラツト・帝政派等國內諸勢力を一掃すべき重大時局に直面してゐたし國防軍との關係もまだしつくりしてゐなかつた。國防軍の實力にしたところが當時の陣容ではポーランド陸軍と一戰を交へて勝つ自信もなかつたのである。

それではお互に不可侵條約を締結して平和を保たうではないかと獨波兩國の意見は一致して秘かにその交渉に入つたのであつた。そしてこれの成立が發表されるや佛國は驚いた、佛國ばかりではない、東隣の露國の驚きと狼狽とはさらに一層甚だしかつた。

元來露國とポーランドとは十五世紀以來紛爭絕間なき關係におかれてゐる。或る時期にはポーランドがモスクワを占領した歷史もある。兩國民は性格的に一致しない或るものをもつてゐるのだ。ピルスドスキー元帥などはその一生涯を通じて露國嫌ひで一貫した。

しかし、露國としてみれば東に日本を控へて西にポーランドと爭つてばかりゐられない。殊に滿洲事變を契機として露國はポーランドと握手して極東に備へる態度に出た。この結果生れたものがリトヴイノフ提唱による一九三二年の露波不可侵條約だ、が、その期間たるやタッタ三ケ年もつて露波兩國民の感情的對立を見るべしだ。

ところへ降つて湧いたやうなナチス・ドイツの出現だ、しかもそのナチスとポーランドは十ケ年の不可侵條約をさへ締結したんだ、露國は慌てざるを得ない！　われも遲れじと三ケ年の露波不可侵條約は直に十ケ年に延長された、但しこの獨波不可侵條約の締結を兩國の共同宣言の日まで探知出來なかつたことは重大過失だとあつて哀れ露國の駐波公使オッシエンコ・アントノフは罷免されてしまつた。このアントノフは確か一九一七年十一月革命では軍隊を率ゐて革命軍に投じ冬宮に立籠もるケレンスキー內閣の諸公を蹴散らかした往年の殊勳者だ、この彼が獨波不可侵條約締結の一事で馘首されたんだから、いかにリトヴイノフが狼狽してゐたかゞわかる。しかし

公平にみてこの處分は過酷ではあつた。何となれば佛國の公使も同樣に獨波間の祕密交渉を探知出來なかつたのであるから。

獨波不可侵條約の締結に對する佛國の驚愕は直ちにポーランドに對する猜疑へと轉化した。パリの新聞は筆を揃へてポーランドがドイツと攻守同盟の密約さへ結んでゐると書き立てゝ攻擊しはじめた。ポーランドを永く屬國視した佛國としては無理からぬものゝポーランドにとつては甚だしく自尊心を傷つけられざるを得ない。そこで佛波同盟を結んで從來親善關係にあつた佛波兩國の間に面白からぬ感情が湧出し初めた。

この佛波兩國の感情對立を物語るエピソードがある。昨年ポーランド外相ベックがジュネーヴに赴く途次パリに立寄つた。彼はピ元師の腹心で陸軍大佐だがつとに外交畑に活躍してゐて顏も少しは賣れてゐる。少くともパリ驛頭にはバルツー外相が出迎へてくれてゐるであらうと期待して下車すると、あにはからんや驛のプラツトフオームには佛國外務省の官房長たゞ一人が出迎へた當時の尖銳化してゐた對波惡感情がこゝにも作用してゐたのだ。

その後暫くしてバルツーが東歐ロカルノ案をかついでポーランドにも勸誘にやつて來た。この時ベックは、さきの仇討ちとばかりワルソー驛頭にはポーランド外務省官房長だけを出迎へにや

つて自らは省内にをさまり佛國外相バルツーと對等の態度に出たのであつた。

ベツクがバルツーに對してパリテイトを要求して起つたわけであるが即ちこの時すでにポーランドは佛國に對して對等であつたのだ露獨の脅威にをのゝいて佛國に泣きついてゐたのでは國民の自尊心がゆるさぬ、露獨との不可侵條約締結を轉機として佛國への追隨から脫したことはまさにポーランドにとつてはその長年の渴望たる獨立自主外交獲得の第一歩であつたのだ。

バルツーがベツクに提示した東歐ロカルノ案は卽ち佛露チエコ等のほかに獨波をもふくむ相互援助條約であつた。しかしこれに對するベツクの返答は甚だ冷やかであつた。といふのは、この相互援助條約に參加することがすでにポーランドの安危にかゝはる重大問題なのだ。露獨相戰はんか、ポーランドは直にその戰場として兩國大軍の侵入を見ることは必定だ。相互援助條約などは、ポーランドにとつては一片の空文にひとしい、かゝる條約に參加するよりは、露獨いづれかの國に加擔して共に戰つた方が氣が利いてゐる。かるがゆゑにポーランドは東歐ロカルノには不參加の意思を表明した。

ポーランドの反對と共にドイツも反對した。ドイツの見解は根本的に相容れない露國と相互援助條約を結んで何の足しになるかといふのだ、また佛國にしたところが獨露相戰ふ時に相互援助條約と持つてドイツを助けるであらうか。これは期待する方で間違つてゐる、だからドイツは頭

條約を守つてドイツを助けるであらうか。これは期待する方で間違つてゐる、だからドイツは頭ごなしにバルツーの提案を退けたのだ。

この期せずして反對の立場をとらした獨波兩國の間にまたしても列國は猜疑の視線を集中した佛國などはすでに獨波攻守同盟は祕密に締結され、兩國は世界を相手に挑戰するものだとの騷ぎ方だ、冷靜な英國さへもが歐洲の平和を紊亂するものはポーランドだと新聞で毒づいたほどだつた。がこれらはいづれも猜疑に眼のくらんだ誤解でしかない。だが誤解にもせよ各國からワイワイ騷がれることは無視された存在よりは光榮だ。ポーランドは初めて歐洲に重きを認められて來たことに內心少からず得意でもあつたであらう。

親獨・親佛・親露の渦紋圖

今年三月十六日のドイツ再軍備の爆彈宣言は全歐を震駭せしめた。直接北に國境を接する小國デンマークなどは文字通り縮み上つてしまつた。だからジユネーヴの聯盟大評定ではデンマークは對獨抗議の決定に棄權してナチス・ドイツの逆鱗に觸れざらんことに努めたのだが、それかといつて東に隣するポーランドがこの時少しも騷がすで案外冷靜だつた點は一奇とするに足る事實

であつた。

そこでまたしても獨波兩國の密約說が頭をもたげて、ポーランドは痛くもない腹をさぐられるのであつた。これに關聯して思ひ浮かべられることは再軍備宣言に先立つ一ケ月ヒツトラー總統の片腕ゲーリング將軍が狩獵にかこつけてポーランドに來りピルスドスキー元帥と會見して歸つた事實であつた。

この兩雄の會見は當時いろ／＼の噂を生んでゐたものであるが、その眞相はまだ他に洩れないでゐる。ポーランドは歐洲第一の狩獵國で殊にワルソーの東北に當るビアロヴイエツアの原始林は野牛棲息地として古くから知られてゐるところで昔はニコラス二世やかの廢帝などが晝なほ暗いこの原始林で壯大な野牛狩りに興じたものである。何でも豪勢なことのすきなゲーリング將軍のことだからこゝに狩獵することは生涯の願望とみえてかねてその意思をポーランド當局に傳へてあつた。それが實現したまでだから表面は何ごともなささうなわけであるが、タツタ一つ見逃し難い事實がある。

それはゲーリングがピ元帥との會見のためわざ／＼日延してまでしてワルソーに滯在してゐたことだ、そしてピ元帥と會見の際その場にはベツク外相モルトケ駐波ドイツ大使などが居合は

せたのだが、突然ピ元帥はゲーリングの肩を叩いて「二人だけで……」と別室に導いて行つた。別室での二人だけの會談といふのが相當長かつたさうだが何事が協議されたのか知るべくもないピ元帥亡き今日知るはゲーリング將軍ただ一人といふことになる、にも拘らず消息通はいふのである。「その時の會談でゲーリングはすでにドイツの再軍備宣言をピ元帥に洩らし事前の諒解を求めたのだ」と。

爆彈宣言直後英國のイーデン國爾尙書がワルソーを訪問した。彼は外相ベツクに說いて東歐ロカルノにポーランドの參加をすゝめたが、ベツクはポーランドの特殊事情を述べて絕對不參加の意思を明らかにした。この結果、獨波兩國の不參加で流產の運命に陷つた東歐ロカルノに代るものとして佛露相互援助條約が生まれることになつた。この調印を終へて直ぐ佛のラヴアールがワルソーに來た。時すでにピ元帥の病篤く、外相ベツクが代つて會見したが、ラヴアールは佛露相互援助條約の成立のやむを得ざる理由を說いてポーランドの諒解を求めた。ベツクもまたポーランドが東歐ロカルノに參加出來なかつた點について腹藏なく意見を開陳した。一ころの佛波兩國の險惡な感情の疎隔はこゝに一まづ一掃されたと傳へられる。

その直後ピ元帥は國民哀惜の涙の中に急逝した。議會の決議をも飜させる勢力と信望とをもつ

てゐたピ元帥亡き後のポーランドは何處へ行く？　これは確かに興味ある課題ではある。が、外相ベックの口吻を藉りていふならば「ポーランドは世界のことを考へる前にまづポーランド自身のことを考へねばならぬ」のである。從つて、ポーランドは、ピ元帥の置みやげともいふべき獨立自主外交に立脚して露波、獨波の各十ケ年の不可侵條約を固守しなければならぬ。と同時にポーランドはそれのみに頼ることの出來ぬ事情をも自覺しなければならぬ、何となれば歴史的にポーランドは友好國をもたぬ國であつた。現在も然り、不可侵條約も十ケ年を過ぐればどうなるであらうか。その十ケ年さへ、ポーランドにとつては前門の虎、後門の狼にも喩ふべき露と獨の牙の前には何らの保障とはなり得ない。殊にドイツとの間にはやがては燃え上るべき幾多の難問題を控へてゐる。上部シレジヤ問題あり、ダンチヒあり、コリドアありで、前途頗る寒心に堪へない。もしポーランドが孤立狀態に陷つたなら、直にドイツの一擧を食ふであらう。そこに思ひ至る時、ポーランドにとつてはその孤立防止策としての佛波親善は大きな意義をもつ、佛波同盟の無言の威力が孤立ポーランドを支へてゐるともいへるのだ。

今日のポーランドは、政府最高首腦部の要所々々にピ元帥子飼ひの人物が配置されてゐるから今直に動搖する徵候は見出せない。が、國論の底に流れる親佛派と親獨派との二陣營は時を得て

再びその抗争をくり返さないとは斷じ得ない。往年の親露派は現在では親佛派に合流してゐるものの、これも露國の誘引如何によつては自ら動き出さぬとも保障しがたい。かくて露佛獨の三國がそれぞれ自國に有利に作用し初めるなら今日のポーランド政府の一致團結も遠心的作用を受けてバラバラにくづれ初めないものでもない。

歐洲危局の爆發點は、オーストリヤ問題やメーメルランド問題のほかにこゝにもポーランドの動向をめぐつて刻々に釀成されつゝあることを知らねばならぬ。（一九三五、五、三〇）

四、オランダの・フアッショ運動

ドイツのナチスは最近隣國のオランダにナチスと同じく國民社會主義を掲げるフアッショ運動が俄然擡頭して來たといつて氣をよくしてゐる。しかし當のオランダ・フアッショの方ではドイツの模倣ではなくイタリーのムッソリーニをお手本にしてゐるのだと嘯いてゐるから、ナチスも本家顏するには少し氣が早過ぎる。試みにこのオランダ・フアッショの總帥ムッセルト君の顏つ

きを見ると、禿上つた額、ギロッと光る大きな眼玉、一文字の口もと、ムッソリー二親分の替へ玉ぐらゐは十二分につとまる程似てゐる面貌だ。

現在オランダ王國の政情は、ローマン・カトリック黨あたりを中心とした右翼各派の聯合內閣である。普選及び婦選を實施してゐるが、左翼的勢力はそれ程ふるはない。社會民主黨も自由民主黨も右翼と協同的立場にあるし、共産黨もドイツ議會放火犯人として先日死刑に處せられたヴアン・デア・ルッペを出したことで僅に存在を認められてゐる程度。大部分の國民大衆は完全に前記の金融資本家、富農等の勢力下にある政黨に指導されてゐるから、イタリーやドイツにおけるごとく猛烈に國粹フアッショ運動が起らねばならぬといふ積極的根據はない。しかし歐洲の各國いづれも獨裁氣分濃厚であり、殊にドイツのナチスが政權をとつたことがオランダ國民を刺戟したことは相當のものだつたらしい。

國境地方の、風車の廻るオランダ農村の丘に立つと、平原の彼方にナチスの卍旗がなびき、褐色の突擊隊員が威勢よく行進するのが眺められるといふから、オランダ青年の血をかき立てたことも事實であらう。そこで、この一、二年フアッショの旗をかつぐ右翼小政黨が政治的野心家によつて幾つも創立された。それらの中で、今日最も大きな存在となり、將來は右翼各派をリード

してオランダのムツソリーニとなるであらうと期待されてゐるのが、實にこの小型ムツソリーニの尊稱を奉られてゐるムツセルト君である。

ムツセルト君は工學士の肩書ある技術家出身で當年とつて卅七歳の働き盛りだ。その風貌から名前からムツソリーニそつくりの怪傑タイプとて、かれが一度フアツショの名乘りを上げると、世界恐慌の波の中に前途の不安を感じてゐるオランダの中產階級は相競うてかれの旗の下に集うて來た。また非常時の何かしら偉人の出現を待望する心理がかれに前途打開の最後の希望をつないで加速度的にかれの運動を擴大强化しつゝあるのである。ムツセルトの政黨はオランダの中央に位する古都ウトレヒト市に本部をおき、アムステルダムやロツテルダムなどの諸都市に有力な支部をもち、機關新聞「祖國の民」を發行してゐる。黨員十萬と號してゐるが、その前衞靑年を軍隊的規律で編隊し、制服・黨旗・軍樂隊の彩りで行進するところは、イタリーのフアツショ、ドイツのナチスそのまゝである。

若し、近い將來にムツセルト君の鐵腕下にオランダが獨裁される日が來たとして、オランダに齎らされるものは何であらうか。ドイツに似てその農業は自國の食料品を自給自足せしめ得ないといつて、工業も重工業的基礎が頗る薄弱である。しかも歐洲諸國をお得意とする仲繼貿易が國

民經濟の基本であるから經濟政策においてまづ思ひ切つた改革案は無理であらう。外交政策もイギリス及びアメリカの影響支配から脱し得ないであらう。植民地政策——日本の海の生命線に近くオランダ本國の十七倍に餘る蘭領東印度地方の政策——にどう響くか、それがわれ〱の關心をそゝるものであるが、要するにオランダの政權が現在の右翼聯立内閣の手からムッセルト君の腕の中に形式上移行するだけだと見てゐてよからうと思はれる。（一九三四、一、二八）

五、バルチック三國と獨露の抗爭

獨露兩國の間に介在し、チュートン、スラヴ二大勢力の角逐場であるバルチック沿岸三國は極東を距る萬里の外にあるので直接極東に關係がないように見えるが實は大にしからず、もしもドイツの勢力後退して、ロシアが西境に懸念がなくなれば、大手を振つて極東に現はれることが出來、反對にこの方面に忙殺される以上極東を顧る暇が少いといふことになる。一定の形を取つて現はれる外交にはそれぞれ背景がある。この意味において極東の形勢に留意するものにとつては

バルチック沿岸三小國の動靜が重要な要素となつて來るのである。

ヒトラ首相がノイラート外相を伴うて、水都ヴェニスにムツソリーニと會見しファッショ兩巨頭の握手といふ歷史的なシーンで世界をアッといはせようと、イタリの空めがけて飛び立つ直前のこと——ファッショとは氷炭相容れないソヴイエト・ロシアの外相リトヴイノフ氏の命を受けて、ロシアの駐獨大使はノイラート外相を訪うて、かねてロシア側からドイツに提議しておいた「東ロカルノ條約」について承認を迫つたものである。

「ロカルノ條約」が西方のラインランドの保障條約なら、この「東ロカルノ條約」はまさに東方のチエコ、ポーランド、ロシア、ドイツの國境線にわたつて現狀維持を目的とする保障條約を意味するものであつたのだ。ところがノイラート外相は、このロシアの提議に對し「ドイツは個々の同盟政策に贊成しないし、またドイツとロシアとの關係は現狀で滿足だと思ふ」といふ理由でニベなくはねつけてしまつた。

ロシア側がこの拒絕を食ふ以前に、も一つドイツに提案し、同樣一蹴されたものがある。今春モスクワ駐在のドイツ大使を通じてロシア政府が提案したバルチック海沿岸諸國卽ちラトヴイアエストニア、リスアニアの三小國の獨立と不可侵の保障條約がそれだ。これも拒絕の理由は「か

ゝる獨露協定の成立はバルチツク沿岸諸國を保護國視するもので、かつまた獨露が今さらかゝる協定を結ばねばならぬほど事態は惡化してゐない」と至極アツサリとしたものである。

これでみると、北はバルチツク海に沿ふ三小國からポーランド、チエコの線に沿うて、獨露の形勢は、雲行甚だ穩やかでないといふことになる。

元來、ナチスの東歐進出はナチスの目標とするゲルマン民族の大帝國建設プログラム中の重要な筋書の一つである。このナチスの東歐進軍の第一線的闘士を以て任じてゐるのが、ナチス外交部長のローゼンベルク氏だ。彼の抱懷するボルシエヴイキ打倒による民族主義的外交政策については世間周知のことに屬するが特に彼が南露ウクライナ地方をボルシヴイキの手から奪取してゲルマン民族の國家に併合するプランにはソヴイエト・ロシアで警戒怠りないものがある。しかし彼の視線が常にウクライナにのみ注がれてゐると思つたら大間違ひで、北はバルチツク海沿岸諸國のナチス化に虎視耽々たるものがあることを見逃せない。

すでに彼の生國がバルチツク沿岸のエストニア國だ。そしてそのエストニアの南隣國ラトヴイアの首都リガの工科大學に學んだこともある。學生時代から果敢な反ボルシエヴイキの闘士として知られ、追放處分を受けて東歐諸國を轉々した經歷を徵してもうなづけよう。

中世紀以來バルチック沿岸三國に扶殖されたゲルマンの勢力がボルシエヴイキによつて押へつけられた。これを昔に盛返す使命を、彼はその追放の日から固くいだいてゐるのだ。先ごろラトヴイアに突如として勃發したフアッショのクーデターのかげに獨露兩國の抗爭が絲をひいてゐなかつたと誰が保證しよう。ここにおいてバルチック沿岸の三小國は今や獨露兩勢力の間にはさまれて苦悶してゐるのだ。

しかし、以上のような獨露の反目の他の一面に、獨露の經濟的接近がしきりに唱へられてゐることも、この際考へておく必要がある。ナチスの天下にならない前のドイツ——社會民主主義時代のドイツとロシアとは、經濟的に密接な關係があつた。一九三二年ごろまでは、ロシアはドイツ品輸入において各國中第一位にあり、ドイツにとつては甚だ有難い華客であつた。それがナチスの制覇とともに激減し、最近では逆にドイツはロシアに對して入超國となつてしまつた。加ふるに、ドイツは昨今貿易の行詰りで弱つてゐる。そこで、いつそのことロシアとの關係を一九三二年以前に戻して、ドイツはロシアから棉花、羊毛、獸皮類、油粕、木材、石油等々の原料品を輸入し、ロシアにはドイツの機械類を買つて貰はうといふ計畫で、これは一部の資本家の間に熱心に叫ばれ、すでに交渉中であるとも傳へられてゐる。

ドイツが背に腹は代へられず、ロシアと經濟的接近を試みるならば、バルチック海沿岸諸國をめぐる獨露の確執は、少くとも表面上幾分緩和されるであらう。が、さうでない限り、現ヨーロッパを二分する獨伊提携のフアッショ陣營と、これに對抗する佛露および小國等の反フアッショの共同戰線との武裝的對立が激化するにともなつて、このバルチック沿岸三小國をめぐる獨露關係は一層惡化するものと見るほかはない。（一九三四、六、一八）

六、日獨防共協定と國際背景

昨年夏頃より、日獨間に祕密條約が締結されてゐるとの說が、ヨーロッパの新聞紙に現はれ、國際關係緊張の折から、若しかしたらその事あるかを思はせたのであるが、それは風聲鶴唳的風說たるにとどまつた。其後、最近に到つて日獨協定成立說が傳へられてゐたが、樞密院に於ける御批准を經て日獨防共協定として今回發表せられたものがそれであつた。

日獨防共協定の内容は、新聞紙上に傳へらる通りのものであつて、その發表以前には軍事的協約であるとか、攻守同盟であるとか取沙汰されてゐたところに比較すると、誠に噂ほどでもなく極はめて拘束性の弱いものである。卽ち、第三インターナショナルに關する情報を日獨兩國間に於いて交換すると云ふ範圍にとゞまるものである。而し、この日獨防共協定の成立は、その内容の單純であるに拘はらず、大きな衝動を國際的に投げかけた。この協定の公表が投げた國際の波紋の廣さを見るとき現在は極めてデリケートな狀態にある國際間のバランスに、何等かの變動を與へずには置かないものであることを知るのである。以下本協定成立の背景となつてゐる歐洲及び極東に於ける、日本とドイツをめぐる情勢を簡單にスケッチして見よう。

日獨同盟か　日英同盟か

「日獨同盟か日英同盟か」と云ふことは、最近に於いて我が外交に與へられた二つの方向であつた。これはジャーナリズムのトピックとして、國民の前に提出された問題とさへなつてゐた。そして今回の協定によつて、日英同盟よりも日獨提携の方が先に實現することゝなつたのである。

何故に、日英同盟よりも日獨提携が先づ實現したのであらうか。傳ふるところによると、ベルリンに於いて駐獨日本武官大島少將と駐英獨大使リッベンドロップとの會談によつて、今回の協

定が急速に進行したものであると云はれてゐるが、これに就いて深く觸れる譯にもゆかない。

とに角、この協定成立に就いては、日獨兩國共にかゝるものゝ必要が感ぜられてゐたことは云ふまでもないが、日本の方がむしろ積極的態度をもつてこの協定成立に驀進したのではないかと思はれる節がある。極東に於けるソ聯の赤化工作の進展が、その原因のひとつであり、他方英國の極東政策の動向が、日英同盟よりも日獨協定の必要を、より痛切に感ぜしめたと云つてよい。最近に於ける英國新聞の論調が露骨に反日親蘇的傾向を示し、ロンドンタイムス紙の如きもソヴエートに對して友好的態度を强調する反面日本に對しては惡意に滿ちた論調を續けてゐるのである。これは、滿洲事變以後、日本の積極的大陸政策が甚だしく極東に於ける英國の權益を脅かし始めたことによるのであつて、英資本閥はこれに對抗するために南京政府の幣制改革を援助してその財政的實權を掌握し、一方蘇聯と蔣介石の接近を圖り、その武力的聯携によつて日本のこれ以上の大陸進出を喰ひとめようと策してゐる。

昨今の綏遠に於ける新事態は、かゝる英國の對日牽制策の現はれである。蔣介石の對日策戰はイギリスの財政的援助を背景としつゝ日蘇戰爭を誘導しようとするものであり、此の覺悟の上にこそ、日支交渉を遷延し、これを痲痺せしめんとする戰術が生れて來てゐるのである。最近に於

ける、彼の餘裕綽々たる態度は、この間の事情を物語つて餘りあるものがある。

時たまたま、日本に於いては現狀維持派による戰爭回避政策が、日英同盟の提唱となつて現はれてゐたのであるがこれは却つて英國をして、日本が獨力をもつて蘇聯と戰ふ準備を持たず、三十年前の昔の如く英國を賴つて對蘇牽制に出でんとするものとの輕蔑の念を抱かしめる結果となつた。かくて英國政府は、日露戰爭當時とは反對に、蘇聯をもつて日本の大陸進出への防壁たらしめようとし、日本は極東に於いて孤立の形勢となつたのである。

日英同盟論の退場と、日獨提携の成立はかくして促進せられることゝなつた。

反蘇神聖同盟の提唱

ドイツをめぐる條件はどうであるか。

ナチスと共產主義が思想的に相容れぬことは論をまたない。これは不倶戴天の敵である。世界の人類を、國境を超えてブルヂョアとプロレタリアの二階級に分裂せしめようとするマルクス主義は、ナチスにとつては、黃金の前には祖國も國民も賣り渡して平然としてゐる資本主義と共に祖國を持たぬユダヤ人の頭腦から生み出された双生兒なのである。從つて、ドイツ民族の祖國を中歐にうち建をようとするナチスは、この理想のために共產主義との死鬪を餘儀なくされてゐる

のである。

經濟的に見ても、歐洲大戰に於いて一切の植民地を奪ひとられたドイツにとつては、商品市場としての植民地の再建が要求されてゐる。ナチスはこれを陸續きの土地たるウクライナに求めようとしてゐるのである。バルカンを經て南露の豐庫ウクライナに至る地域こそ、ナチスが何を措いても獲得せんとしてゐるところである。而かも、ウクライナには、すでに三百萬にあまるドイツ民族の植民が深く根を下してゐるのである。ナチスドイツの飛躍は、蘇聯を打倒してバルカンよりウクライナ地方に伸びることにかゝつてゐる。

こゝに於いてか、ナチスドイツは西歐に於てはフランスと平和關係を維持し、その攻擊の主力をソヴエートロシアに集中するの政策をとつてゐるのである。從つて、ドイツが他の資本主義諸國を反共産主義・反ソヴエート戰線に動員することが出來たとしたなら、これはドイツ外交にとつて重大な効果をもたらすことになる。ヒットラーが、ニュルンベルグのナチス黨大會に於いてナチスドイツがボルセヴイズムの國內侵入を擊滅したと同様に、十一年前にこの問題を解決してゐたファシストイタリーに敬意を表し、スペイン內亂に關して、全ヨーロッパをボルセヴイズムの慘禍から救ふために、ナチスはその前線に立つて戰つてゐることを强調し、宣傳相ゲッベルス

以下も亦、交々立つてコミンテルン及びボルセヴイズムの攻擊を行ひ、反ソ神聖同盟の建設を提唱した。

このゼスチユアに對する返答は極東に於いてまづあげられた。若し、ヨーロツパに於いて英佛がこの神聖同盟に參加し、反蘇戰線の一翼を形成したとしたなら、ドイツにとつて日本はそれ程重要性を持つてゐぬかも知れぬ。然し、情勢はドイツにとつてしかく有利には展開してゐない。若干の小國の向背の變化によつて局面はやゝ好轉してゐるがイタリーを除いて、ドイツには有力なる提携者は未だ現はれてはゐない。日獨防共協定に對するドイツの積極的立場はこゝにあるのである。ソ獨戰ふ時、極東に於いて日本が蘇聯の尻つぺたに喰ひつくことは、ドイツの對蘇作戰を極めて容易ならしめる。ナチス政權樹立當時から親日政策がひとつのプログラムとなつてゐたのはこの故である。昨年日獨軍事同盟說がパリーの新聞に報導され、國際的神經を緊張せしめたのも、かゝる背景があるからである。

すでに明かなる如く、ドイツは佛蘇軍事同盟を中軸とする對獨包圍戰線の破壞のために懸命の努力を傾注して來た。伊・エ戰爭はドイツに幸ひして、イタリーは急速にドイツに接近し、又小國間の動搖はベルギーをしてフランスの衞星たることを中止せしめ、ルーマニアも佛蘇への接近

から親獨へと轉向せしめることゝなつた。この結果、若しスペイン内亂が反政府軍の勝利として終結するなら、ドイツ包圍を計畫したフランスは、遂にフアッショ的諸國によつて包圍せられ、フランス孤立の形勢となる。

スペイン内亂の歸趨如何は、歐洲の情勢に決定的な變化を與へる。而かも、スペインに於ける反政府軍の優勢が傳へられる折しも、日獨防共協定が成立したことは、ナチスドイツの側に一種の精神的刺戟となり、蘇聯にとつては少からざる痛手であつたことは想像するに難くない。昨今リトヴイノフの外交工作が、蘇聯に於いても不評判となつてゐるのは、かゝる情勢變化によるものであらう。

日獨提携の反響

然らば、日獨協定をめぐつて、今後の國際政局は如何に變化するであらうか。

すでに、その注目すべき影響が蘇聯の對日及對獨政策の上に現はれつゝある。日獨協定の成立に就いては、日獨兩國とも絶對に祕密を守られてゐたに關はらず、公表以前に於いて各國に推知されてゐたと見らるべき點がある。即ちモスコーに於けるドイツ人の處刑事件は、この協定に對する蘇聯側の示威運動と思はれるふしがあり、又圓滿調印を豫期せられてゐた日露漁業條約改訂

の突如の無期延期も、蘇聯側の一方的意志によつて強行せられたことを思へば、同様の感なしとしないのである。

傳へられるところによれば、蘇聯は日本人の蘇聯入國のヴイザを突然禁止したと云はれ、將來はモスコーに於けるドイツ人の大量的逮捕の如き事件が發生せぬとは斷言し難い形勢である。少なくとも蘇聯は日獨協定の成立を口實として、一層の軍備大擴張に驀進するであらうことは間違ひない。又これに附隨して、英國は極東に於ける對日策動をいつそう露骨に遂行し、蔣介石を擁して日支關係を紛糾せしめ極東不安を增大せしめるであらうことも考へられる。

ヨーロツパ政局に於いても英露の接近が益々促進される可能性が殖える譯である。

元來、今日の國際情勢下にあつて、日本がドイツと握手することが果して得策であるかどうかは議論の存するところである。この二三年以來ドイツの親日態度が露骨となりつゝあつた際、日獨秘密同盟の存在さへ各國が猜疑するところとなり、この結果、蘇聯は日獨接近にブレーキをかけるためつとめて對日態度を緩和する傾向を示してゐた。北鐵讓渡の成立をはじめ、石油協定、漁業條約等も好轉してゐた。又英、米、佛等極東に利害を有する諸國も、日獨提携の緊密化を恐れて、幾分遠慮氣味であり、日本はこの情勢を利用しつゝ、蘇聯その他列强を牽制し得る立場に

あつた。

傳家の寶刀はみだりに拔くべからず、拔かぬが花の効顯を我等は見てゐたのであるが、さて拔き放つた後はどうか。公表された程度では大した効果も期待されず、むしろ、廣田內閣の對支政策に於ける失敗を日獨防共協定によつて國內的に彌縫せんとするものではないかとの臆測さへ考へ得る。況んや、若しも日獨漁業條約の如き呑舟の魚を逸しての成立とならば、對支政策失敗の上塗りをする不手際と評するの他はない。

とまれ、協定は既定の事實となつた、そして、この協定によつて、蘇聯に對する國際的戰線の分野が一層明確となつた。同時に又、西歐ドイツと極東日本とのつながりによつて、ヨーロッパの戰火が東亞に波及する可能性を一層明確に示したのである。卽ち、このことによつて、次の戰爭が世界戰爭に展開する必然性が濃厚となり、又次の世界戰爭が、前のそれに較べてより規模が擴大されたものであらうことを晝き出したのである。

七、メーメル紛爭の禍心を衝く

歐洲の危機は列る處に伏在する。獨墺合併に、バルチック三國に、ザールに、ラインに、ポーランドに、そしてメーメルに、到るところで爆發せんとしてゐる。メーメルの如きはドイツの東プロシヤ州がリスアニア國と境するバルチック海沿岸の小地方に過ぎないが、顔に吹き出た腫物のやうに、ともすれば生命を落す惡質の腫患だ。一九三五年九月二十五日、メーメル地方議會の改選は、メーメルを舊獨領として奪回せんとするドイツと、これを所屬領として死守せんとする小國リスアニヤとの關係を極度に險惡化した。この小天地の爆發が、現狀打破のドイツと現地維持の各國との戰火にまで導く可能性を見せて全歐を戰慄せしめた。私は特派されて此の地に急行し、つぶさにその渦亂を目撃したのだつた。以下はその現地報告の特電である。

◇

各國が伊エ紛爭に血眼になつてゐるうちにドイツの全神經はこのリスアニヤと東プロイセンとの間にはさまれた細長い地域にわだかまる險惡な雲行に集中された觀がある。一九三五年五月廿日のヒツトラーの外交宣言にもメーメル地方にあるドイツ人に對するリスアニヤ政府の彈壓に對し斷乎たる態度をとることをほのめかし、近くはニユールンベルグのナチス大會にもメーメル協

定を無視するリスアニヤ政府に對し「取り返しのつかぬ事態發生」を警告した意味深長な演說をしてゐる。記者はメーメルの實情を見るべく廿五日東プロイセンを經てメーメル地方に入つたが、國境に差しかゝるとさすがに緊迫した空氣をピーンと感じた。リスアニヤ側の國境驛でドイツ文で書かれたものは新聞でもメーメル關係の參考書類でも悉く沒收、興奮した役人は記者の電報用紙までもひつたくる始末だつた。

元來この地方は古くからメーメル人と稱する少數民族の居住地であつたが、プロイセンの侵入によつてドイツの植民地となり、ついで歐洲大戰で獨立したリスアニヤに占領され一九二四年に英佛伊および日本の四國會議で正式にリスアニヤの自治領として認められたものである。リスアニヤ政府はメーメル地方に總督を置きその下に地方議會の選出による洲政府によつて自治政をとつてゐるのであるが、この地方はすでに人口の過半數がドイツ人であるために議會の議席廿九のうち現在廿四までがドイツ人によつて占められ、議會の決議權がドイツ人の手にあるために總督との間に絕えず衝突を繰返し不安が絕えない、そこでリスアニヤ政府は今回の選擧では一擧にドイツ側の絕對多數を切崩し、しかる後議會におけるあらゆる決議が不成立に終るといふ理由で總督獨裁制を確立せんとの作戰に出で、ドイツ系政黨の解散、議員の捕縛、投票干涉などの選擧斷壓

政策を强行しつゝあり、これに對しドイツ政府はメーメル地方の同胞を壓制から救ひあはよくばザールの勝利のごとくこの地方をとり戻してナチスが旗幟とする東漸政策實現の第一歩を踏み出すべく躍起になつてリスアニヤに挑みかゝつてゐるのである。しかしドイツが無理をすればバルチック三國はもとよりナチスの東漸を恐れる露國などの不安をかもしイタリーがエチオピヤを占領するよりも重大な事態惹起する可能性があるので國際聯盟および英佛伊はリスアニヤの尻押しして必死になつてナチスの侵入に防戰してゐるのである。果してドイツがこの小國リスアニヤを威壓してメーメルの覇權を收めるか、リスアニヤの背後の勢力に屈して同胞の窮狀を見殺しにするか、あるひはこゝをあきらめて轉じてオーストリヤ合併問題に向ふか、いづれにせよナチス今後の動向を決定すべき重大問題である。國境から細長い原野を突き切つてバルチック海に臨む首都メーメルに入るとリスアニヤ政府側とドイツ側の抗爭は白熱的に展開され、ポスター戰、演說戰も今やたけなはでスパイもまた盛んに暗躍して記者の尻にも早くも尾行がつくといふ有樣だ。

廿九日執行のメーメル地方選擧戰をめぐつてドイツのラヂオは國境を越えて直接メーメルのドイツ人に呼びかけ、その蹶起を促してゐるが、リスアニヤ政府の思ひ切つた彈壓政策とそれに挑戰するドイツ人側との重苦しい對立、それに對抗するナチスや亂れ飛ぶデマにメーメルの町は刻

刻不安の色に包まれて行く、この國際的紛爭の渦中にリスアニヤ側の言分を聽くべく現地に乘込んだ記者は直接總督クルカウスカス氏に會見を申込み廿七日午後二時から總督官邸で一時間餘にわたつてつぎの如き問答を重ねた。

〔記者〕　こんどの選擧に政府は勝つ見込みがあるか。

〔總督〕　議會の決議權は議席の三分の二を必要とするので、ドイツ側が現在の廿四名から十九名に減ずれば議會の絕對多數を失ふわけです。卽ちリスアニヤ側は現在の五名から十名に增加すればよいので、この程度の增加には勝つ自信がある。

〔記者〕　ドイツ側の絕對多數を打破したら直ちに議會無視の總督獨裁制を布くであらうとドイツ側で憂慮してゐるが……

〔總督〕　議會無視とか獨裁とかはヒツトラー首相がドイツでやつてゐることで今さら彼らがそれに驚くにも當るまい。

〔記者〕　ベルリンのドイツ外務省で聞いて來たところでは貴下はドイツ人の選擧權をゆゑなく剝奪して、その代りにリスアニヤ人を四千名ほど入れ替へたといつてゐるが如何。

〔總督〕　ドイツの國籍を持ちながらこゝで敎師をしたり辯護士をしたりしてゐるので、これは

やめてもらつて、その代りにリスアニヤ人を入れたのだがその數は百人ほどだ、またヒツトラー總統の手先きとなつて働いてゐるナチス直系や傍系の農民黨、キリスト敎社會黨を解散したことは事實である。現在では住民は人民黨を中心に穩健な分子がドイツ選擧黨として選擧戰に打つて出てゐる。

〔記者〕ナチスの潛行運動に對してはどういふ態度を取つてをられるか。

〔總督〕彈壓あるのみ、しかしなかなか根絶出來ない、メーメルのドイツ總領事館はナチスの參謀本部です。その上國境近くにナチス巨頭がやつて來ては威嚇的な演說をやつてゐる。近くヒツトラー總統も來るといふのでこゝの住民は戰々競々としてゐる。

〔記者〕メーメルの土地には如何なる政治形式が最も適當と思はれるか。

〔總督〕私はヒツトラー總統の如く民族的反感を挑發するやうな政策には反對だ。各民族の經濟的協力によつてメーメル住民の完全な統一ができるものと信じてゐる。

〔記者〕ナチスの東方進出政策に對し何か成算があるか。

〔總督〕あります、そもそもこのメーメル地方は昔はリスアニヤ人の居住地で五百年ほど前にプロイセンが侵入しこれをゲルマン化しようと企てたのでナチスの東漸政策はこゝに端を發して

ゐる。このドイツ人の傳統的東方進出に對してわれ〳〵の祖先は勇敢に戰つて來た。今回またナチスが非常手段に訴へてメーメルを奪取せんとしてもそれに對する應戰の準備はすでに出來てゐる。殊にかつては僅かに農產物を輸出する一つの漁村に過ぎなかつたメーメルに莫大な資金をつぎこんで今日のバルチック海有數の近代的海港にまで發展させたのはリスアニヤだ。リスアニヤの輸出の九割以上がメーメルから出てゐる。このメーメルを突然ドイツに奪ひ取られてなるものか。メーメルを失ふことはリスアニヤから生命を奪ふことを意味する。メーメルはリスアニヤの海の生命線だ。われ〳〵はナチス・ドイツが如何に橫車を押さうとも斷じてメーメルを死守します。

メーメルを死守するといつた總督の面上には眞に國運を賭してもやるといふ固い決意が現れてゐた。しかし一方には同じく斷乎たる態度を示すヒツトラー總統があり、メーメル問題の今後は眞に全歐に大きな暗影を投じてゐることを思はずにはゐられなかつた。

（一九三五、九、二七メーメルにて）

メーメル問題の將來

ドイツとリスアニヤとの國際的紛爭の中心たるメーメル地方議會選擧の大體の結果は、再びナチスの絕對多數の出現を見ることになつた。

この形勢から判斷すると次の議會においてナチスの息のかゝつた管理委員の任命を見ることは必然の勢ひであり、これを如何にしてリスアニヤ八縣の總督が裁いて行くか。

從來の如く議會と總督との正面衝突を繰り返すならばヒツトラーのほのめかす如くドイツは斷乎たる態度に出でぬとも限らず、依然としてメーメルは險惡なる空氣を解消することが出來ないしかもリスアニヤは先に記者がメーメルに赴いて總督クルカウスカス氏と會談した時總督はナチスの侵入に對してはそれに對する應戰の準備をとゝのへてゐると明言したことを想起すれば、情勢の推移如何によつては由々しき大事を惹起しないとは限らない。しかもリスアニヤの背後にロシヤ及びフランスの存在することを考へるならばメーメル問題はドイツ對リスアニヤの問題としてよりもドイツ對露國の戰爭の口火を切るものとして注目しなければならぬ。

リスアニヤは最近佛露軍事同盟および露國チエツコ單事同盟に似た對獨軍事同盟をリスアニヤとロシヤで結ばうとする工作を行つてゐると傳へられてゐる。かくて全歐が戰爭の不安に包まれてゐる際英國あたりが乘り出してメーメルにおけるドイツの實力を認め、この地方をリスアニヤから切り離しダンチツヒのごとき自由市の形式を取るか、さらに一歩を進めてザール地方の如く人民投票に訴へてその歸屬を決定するかしない限り、ナチスの東漸政策と露國勢力とはメーメルの一劃において火花を散らすに至り、ひいては全歐の戰禍はこゝに爆發點を求めることになるであらう。リスアニヤ側の總督クルカウスカス氏が選擧直後罷免されたことは選擧におけるリスアニヤの敗戰の責任か、それともナチスドイツの感情を緩和するリスアニヤ政府の政策なのであるか？　ナチス・ドイツが今回の勝利に基づいて如何なる態度に出るか今後の動向は頗る注目に値ひする。（一九三五、一〇、一三）



ヒットラー首相とドルフス首相（墺）

オーストリヤ・ナチスによつて暗殺される直前

ドイツ・ナチスによつて戯畫化されたドルフス首相

Ⅱ　國民革命現地報告

一、ヒットラー行進譜

A　褐色に塗替へられたドイツ

一九三三年一月の末ごろまではまだ共産黨のデモがベルリンの目貫きの通りで行はれてゐた。赤旗を先頭に勞働者や失業者の大群がチヤルメラに似たいくらか女性的と思はれるラッパの音に合せて整然たる足並みで行進した。だが一度ヒットラー氏が政權を獲得した瞬間から赤旗は影を隱し勞働者のデモは禁壓された。そして街頭を横ぎるものは鳶色の制服に身を固めた勇ましい黑靴をはいたナチス突擊隊の進軍であり、帝政時代の軍服いかめしく歩く歩武堂々行進する與黨國

標黨の鐵兜團のそれである。ある時は警官の一隊が制服のまゝでナチスの旗をかつぎ歩き、また共産黨のピオニールに習つて組織されたオチス少年兵がナチスの小旗を立てた自轉車に乘つて西に東に疾走する。夜は學生團體が松明行列で市中を練り歩き、朝は帝政ドイツの旗を押立てた少女の一團がドイツの女性に特有な少し上向いた鼻先きをそろへて四列縱隊で行進し彼女らの可憐な唇を洩れる愛國の歌が街角を右に曲り左に折れて流れて行く、ラヂオもヒツトラー内閣成立とともにフアツシヨ化した。晝といはず夜といはずラヂオはドイツの非常時を叫びナチスの運動を讃美する。ヒツトラー首相はマイクの前に吼えゲーリング、ゲツベルスなどの鬪將もまたラヂオを通じて民衆にナチスの精神を吹き込む。

夜の十二時には必ず帝政ドイツの國歌が放送され眠りにつく前に一家揃つて「ドイツチユランド・ドイツチユランド・イーバー・アルレス」と歌ふのである、燒けた國會議事堂の前の共和國廣場の名は直に國王廣場と改められオリンピツクのスタヂアムの近くにある總理大臣廣場はアドルフ・ヒツトラー廣場と改稱された。モスクワに次いで第二の赤い都と稱されたベルリンはこの二ケ月足らずの間に赤色をすつかり鳶色に塗り替へられてしまつた。否、ローマに次いで第二のフアツシヨの都に變化しつゝあるのだ。一切の左翼的な運動は彈壓の前に沈默し店頭の赤い本や

出版物は完全に一掃されて、もはや見ることは出來ぬ。家といふ家、窓といふ窓からは赤旗は勿論、黑、赤、金の三色の共和國ドイツの國旗さへもが、引きづりおろされてナチスの旗か然らずんば帝政ドイツの黑、白、赤の三色旗が時を得顏に春風にはためいてゐる。三月十二日ヒンデンブルグ大統領は正式に國旗の制定されるまではナチスの旗と帝政獨逸の旗を國旗として揭揚するやうにと發令した。また軍隊の旗も帝政時代の軍旗に改められた。十五日にはこの大統領令に喜んだナチスの突擊隊、鐵兜團、それから國權黨の青年同盟の三派合同でゲーリング氏指揮のもとに、ウンタ・デン・リンデン街において大々的の旗行列を行つた。それにして憲法に定められた共和國ドイツの國旗がいつのまにか闇から闇に葬り去られてゐるのだ。思へば一九一八年共和國ドイツの生れる日、家といふ家にひるがへつた黑、赤、金の共和國ドイツの國旗を見て切齒扼腕したヒツトラー氏としては今日覇業成つてみづからの黨の旗と帝政ドイツの國旗とで全ドイツを埋めた喜びこそは何にたとへようもないであらう。

ヒツトラー內閣最初のドイツ聯邦議會は廿一日召集された。しかし共產黨代議士に對しては出席の招請狀は發送されなかつた。二月末の國會議事堂放火事件と結びつけて共產黨は反逆罪の嫌疑で登院を禁ぜられてゐるのだ。「もし一人の共產黨代議士の登院するものがあれば余は彼を捕へ

て投獄し國民經濟に必要な勞働をやらせるであらう」とフリツク內相は豪語したと新聞は傳へてゐる。廿一日の開院式の日にもポツダムからベルリンにかけてナチスはお祭り騷ぎのデモンストレーションを行つて氣勢をあげた。これは議會そのものに對する一つのデモであることはいふまでもない。もはや議會における代議士の數などは問題ではなくなつたのだ。共產黨が議會に出席せず、社會民主黨が發言を遠慮するとすれば議會はあつてもなくても同樣である。

B　パーペンとフーゲンブルグ

かくてヒツトラー氏をして四ケ年計畫の完成するまでは議會など開く必要はないなどと放言せしめてゐるのだ。ヒツトラー氏をしてかようにうまうまと獨裁的な政權にありつかせたところは何といつても共產黨および社會民主黨の從來の戰術の失敗を物語るものでなければならぬ。殊に共產黨はテールマン黨首はじめその幹部が一同珠數つなぎに檢束されたまゝである。知名のマルキシスト達は續々國外に逃亡しつゝある。ナチスに對しては一大逆襲を試みるとしても時すでに遲しの感がある。ナチスは現內閣に首相ヒツトラー氏のほかに辣腕家フリツク氏を內相に、ゲー

リング氏を無任所大臣、さらに最近には新設された國民啓蒙宣傳省の大臣に當代一の雄辯家ゲッベルス氏を据ゑて容易に動かぬ勢力を確立した。全國の警察機關は内相フリック氏の手に握るところであり、地方行政機關の隅々までも注意深くナチスの手で固められゐる。ナチスの侵入に對して最後まで戰ひ拔いたバイエルンでさへもナチスは先ほどの總選擧で一擧のもとにバイエルン人民黨を破り、最近みづからの政府を樹立した。近く行はれるプロイセンのコンミツサール、すなはち統監の改選にも現在のパーペン氏を叩き落してヒツトラー氏かゲーリング氏を當選させよとの叫びがナチスによつてあげられてゐる。プロイセンの主權を握ることは全ドイツを支配することになるからナチスがこのパーペン氏の牙城に目をつけるのも無理はない。今や潮の盛り上るような勢ひで全ドイツを風靡しつゝあるナチスが今日のドイツを目とし國民革命の過程にあると稱しあらゆる方面に自らの支配力を擴大せんとするもの一應は肯ける。しかしながらそれかといつて暴風の如き勢ひに乘じてヒツトラー首相は思ひのまゝにその理想に奔馳し得るであらうか。斷じて否である。この悍馬の如きヒツトラー首相の手綱をしつかりと握つてゐるものがある。いふまでもなくそれはパーペン氏とフーゲンベルク氏の二人である。パーペン氏やフーゲンベルク氏の人物がヒツトラー首相よりも偉いわけではない。パーペン氏が封建貴族地主の代表者であり

フーゲンベルク氏が重工業と農業資本の代表者である以上かれらの背後の勢力がヒットラー首相を牽制するのだ、もともとこの內閣はヒットラー首相とそれら諸勢力との妥協によつて出來たものである。ヒットラー首相が理想とする第三帝國の實現のために高く掲げた土地および資本の國有、利子奴隷の廢止などの項目にヒットラー首相が手をつけようとしてもそれはかれらが許さない、しかし旭日昇天の勢ひと人氣を背負つて立つたヒットラー首相がこのまゝ立往生してはかれの面目にかゝはる、そこで盛り上つて來るナチスの勢ひを誘導してユダヤ人排斥と共產黨退治とそして軍、ドイツの再建に向つて轉回しようとするのである。ドイツ人がユダヤ人を憎む心理は實に想像以上深刻である。自らこの心理に燃え、この國民の民族的傾向を巧に捉へてゐるのがヒットラー首相である。しかしドイツにおけるユダヤ人には大資本家が多い。かれらは金融界の中樞にある。ヒットラー首相は資本家に向けられたナチスの反感をユダヤ人に向けて集中した。だが根本的にユダヤ人をうちのめすことはドイツの經濟界の根底から動搖せしむる結果になることをかれは知つたのである。さきごろまでは頻々として全國的にユダヤ人の大百貨店がナチスによつて襲擊された。しかしそれも今では政府がナチスを抑制しユダヤ人の資本家の代りに資本家でないユダヤ人いぢめをやり初めたことなどはこの邊の消息を物語るものであらう。ユダヤ人は辯

護人を營むことを得ずといふ法案を可決した地方議會もある。第二の共産黨退治については今さらいふまでもない。こんなに徹底的にやつたのはまたやり得たのは、ヒツトラー首相にして初めて可能のことであつた。

C 第三國家の建設へ

しかしこの猛烈な彈壓にも屈せず無言のうちに共産黨を支持した五百萬に近い選擧人のあることはヒツトラー首相およびナチスにとつては最後まで頭痛の種であるに相違ない。しかも今回の彈壓は議會主義を否定しつゝ議會主義の夢にひきずられてゐたドイツ共産黨をして青天の霹靂のごとく目覺めしめ、その本格的な活動に立ちかへらしむる端緒となつた意味で却つてヒツトラー首相にとつては體内に潜む癌として殘つた形である。かれが下手に手術をすれば命とりとなることを承知の上であくまでこの機會にこれを全滅せしめんと追擊の手をゆるめないゆゑんもまたそこにある。最近のナチスは大學や研究所に手入れして一切の左翼文書の排除に努力し初めた。これはその第一の槍玉にあがつたのは景氣研究所々長のワーゲマン氏で三月十七日に免職された。これは

かれの左翼的な色彩といふよりもかれの下に根をはる左翼の細胞をたゝきつぶす前提なのだ。かれの仕事を唯一の賴みとしてゐた人の多い日本經濟學界にもかれの辭職は相當に痛い問題であらう。かつて東京帝大に招聘された經濟學者レーデラ博士もユダヤ系でありかつ左翼的であるため遠からずベルリン大學を追れるだらうと取沙汰されてゐる。

第三帝國ドイツの建設、これはヒットラー首相にとつても自らの理想とするところだ。十萬の軍隊にナチスの突擊隊二百萬、この外に八十萬と稱する與黨國權黨の鐵兜團がある。また未來を背負ふ賴もしき青少年はナチスの旗の下に續々として馳參じてゐる。ドイツは急速に軍國主義的に再組織されつゝあるのだ。これは獨り佛國や、ポーランドの神經を刺戟するのみでなく第二次世界大戰の近きを思はせる今日、世界に與へる軍國ドイツの衝擊だ。ヒットラー首相は軍國ドイツの再現がヴエルサイユ平和條約破毀を熱望するドイツ國民に最も歡迎される事實だといふことを知つてゐる。しかして彼ほどその任に適當な人物もない。だがそれだけで國民の信望をいつまでもつないで行くわけにはゆかない。失業者五百萬のドイツは飢ゑてゐるのだ。國民はパンを欲してゐるのだ。だがそれかといつてヒットラー首相が自らの理想たる國民社會主義に徹底せんとすれば封建貴族および地主の代表者パーペン副總理重工業および農業資本の代表者フーゲンベル

ク恐慌相（農工商相で恐慌退治策を一手で引受けてゐるためこの稱あり）との正面衝突となりそ

ク恐慌相（農工商相で恐慌退治策を一手に引受けてゐるためこの稱あり）との正面衝突となりそのまゝ留まれば自から率ゐるナチスの靑年分子からの排斥を食ふ。しかも急激に膨脹したナチスの陣營には幾多の勢力の確執がある。もしヒツトラー首相にして統制を誤らんかナチスの內紛に乘じてその虛をつくものは獨り共産黨のみではない。さきの首相にしてドイツ軍閥の巨頭シユライヒヤー將軍が政界に虎視眈々たるものがある。中央黨のブリユーニング元首相も油斷のならぬ存在だ、かくて全ドイツに卷き起る嵐の如き「ハイル・ヒツトラー」（ヒツトラー萬歲）の歡呼、勇ましきナチス突擊隊の行進、翻るハーケンクロイツ（鉤十字）のナチスの旗、旗、旗、今得意の絕頂にあるヒツトラー首相にとつてはこれぞ乘るかそるかの瀨戸際だ、だが彼は立止まつて、のたれ死をする男ではない。またすることを許されない。一時は旗色が怪しくならうとも、もり上がるナチスの潮に押されつゝ勇しき驀進を繼續するであらう「力の信者ヒツトラー首相」とその率ゐるナチスの行進譜はそれゆゑにあわたゞしくかつ急調だ。（一九三三、三、一六）

二、ナチス的流行の奔騰

國民革命は一段落を告げたとはいへ國際聯盟脱退後のドイツは孤立外交に直面する非常時の一色に塗り潰されあわただしいテンポで國民總進軍を繼續する。更に最近の政府支持の一般人民投票及び總選擧はこれに一層の拍車をかけた。今やこれを契機にドイツはグルりと百八十度に一回轉して目に觸れ耳に聽くすべてが高潮するナチズムだ。

鋪道を蹴つて行進する突撃隊員の長靴の音は朝から夜中まで絶えず鳴り響き街路樹にベタ〳〵と貼出されたスローガンはすべて非常時調だ祖國の空を護れとばかり街角には魚形水雷が逆立ちしたやうな爆撃用爆彈の大模型が突つ立ち道行く人々はその胴腹に防空基金を落して行く。人も街も武裝しつゝある「お早う」「今晩は」の挨拶が變つてお役人も一般人も右手を高く擧げて「ハイル・ヒットラー！」を叫ぶ、社會民主花やかなりし時代は古道具屋の片隅に二束三文に賣られてゐた勳章類が再び權威と尊敬とを取戻し殊に鐵十字勳章は時を得顏に胸間に光り輝いてゐる面白いことはカイゼル髭、ヒンデンブルグ髭はすたれてヒットラー式の短い髭が若い人々の間に流行しはじめてゐることだ。出版物は戰爭物全盛でナチスの宣傳本に交つて歐洲大戰の回顧談や從軍日記等が本屋の店頭に氾濫する、從つて文壇は沈滯し目下は開店休業の體で、音樂もベート

ヴェン等の古典ものか、しからずんば「愛國の歌」或は勇ましい行進曲で獨占されてゐる。ダンスやヂャズは禁止され中世紀風の純ドイツ式舞踊が復活した。

芝居もキネマも愛國美談ばかり、外國フィルムは古典的以外の物は歡迎されず、キング・コングもこの非常時にふざけ過ぎるとばかり一にらみで上映禁止だ。この十五日ゲッベルス宣傳相統轄の下に擴大强化して結成されたドイツ文化統制委員會はラヂオ、演藝、音樂、美術、出版、新聞等文化の全領域にわたつてナチズムによる國家統制の徹底化への出發である。

學生の軍事教練は最も盛んに行はれスポーツも勝負を競ふことから戰爭に役立つ軍隊スポーツに移りつゝある。曾つて禁ぜられてゐた決鬪も公然と許され、決鬪のシーズン冬を迎へた。地方の大學では學生の顏に新しい傷が誇らかに刻まれてゆく。少年の服裝もナチス少年兵の制服が增加し、學校では祖國のために血を流すことを最高の道德として教へてゐる。可憐なかれ等の腰にさげた小さな刀の刀身にも「名譽と血」と刻んである!。

最近の總選擧でナチスは婦人代議士を全廢した如く「婦人は家庭に還れ」といふのがモットーだ。街頭から工場から次第に婦人は姿を消して家庭に、臺所に育兒にと變りつゝある。婦人の服裝にしても恐ろしく地味になつた。斷髮のモダンガールはあわてゝ髮の毛を伸ばしお白粉と口紅

とを洗ひ落してすべてケバ〳〵しい色彩から黑と白との單純な配色へと轉向する。スカートは長くなり肩のヒダを怒らせ腰を細めてひどくクラシツクなスタイルだ。胸に軍服のやうにぼたんを澤山並べたのや外套に軍服の肩章に似た飾りをつけてゐるのが目につく、帽子は鐵兜の形をしたのがはやり指輪も胸飾りも逆萬字(ナチスの紋章)が光つてゐる女の子供の髮の毛も昔風に編んでたばねるお下げにしてゐる、一切が軍服的でありかつ中世紀風の復古的色彩が強く出はじめた、世界を風靡せんとする國粹復古の流行のトツプはまづナチスの國ドイツからといふ有樣である。

(一九三三、一二、一七)

三、中央集權と畫一化運動

五月一日のドイツ國民勞働祭におけるヒツトラー首相の一ケ年計畫の發表、十日の第一回勞働者會議、その後ひき續いて急テンポで行はれつゝある各產業部門を初め一般行政、敎育、宗敎、勞働、組合などの全領域にわたるグライヒシヤルツンク、卽ち畫一化運動の進展等を見る時ナチ

スがまさに行はんとするところは、否現に行ひつゝあるところは何であるか、更に將來ナチスは如何なる方向に自己の政策を押し進めんとするのであるかを一應檢討すべき時期に到達したやうに考へられる。卽ち從來徒らに雜然たる狂躁曲をもつてかなでられてゐたナチスの國民革命もようやくその建設の第一期に今まさに入りつゝあるといふことが出來るのだ。

そこでまづ五月一日のヒツトラー首相の演說であるが、これはドイツの繁榮をもちきたすヒツトラー首相の四ケ年計畫の最初の第一年計畫としてドイツの勞働者のみならず廣く世界の視聽をそばだたしめたものであつたが、その內容たるや單に今後道路を作り建築を盛にすると述べただけでその財源さへ具體的に說明されてゐずヒツトラーフアンをして失望せしめること多大なるものがあつた、ヒツトラー首相自身もその演說の末尾において、神よわれらを見離し給ふことなかれ、ドイツ國民と祖國との自由のための我等の戰に祝福あれと何時になく神樣にすがつてゐるのである。それかあらぬか、ナチスの一部からは最近次のような宣傳がなされてゐる。

卽ち、當日のヒツトラー首相の演說の中にはナチスがその綱領としてかゝげてゐる大地主の土地所有の制限その他のプログラムが含まれてゐたのであるが大地主の一人であるフーゲンベルグ農商相が同じく大地主である。ヒンデンブルグ大統領にナチスの政策は餘りに急進的だと泣きつ

いたため、それらの綱目はすべて削りとられて、骨拔きとなつたのだ國民革命は未だ完成してゐない。と、これは誠にナチスの急進分子らしいひ草だが本當かどうかは容易に信頼出來ない。

それにしてもこゝに問題となるのはかつてはナチスの輝ける經濟政策の理論的指導者だつたフエーデル氏が現在健在なりやといふことだ、かれは一九一八年に利子奴隷制の打倒宣言といふ本を著して以來ヒツトラー首相はかれに共鳴しかれを迎へてナチスの指導者の一人に加へた人物である。かれはナチスの經濟政策を宣傳するために全國遊説の行程實に卅六萬五千キロ即ち地球を九回廻るだけの距離を東奔西走して倦まなかつた男だ。ヒツトラー内閣が成立すれば直ちに入閣してその政策を行ふべき抱負に燃えてゐたのだが如何せん今日のヒツトラー内閣は野黨時代にナチスの掲げた重要政策の多くはおあづけの形で實際はパーペン副總理とフーゲンベルク農商相の政策のナチスの鐵の武裝をもつて守つてゐるに近いから現在のフエーデル氏は甚だしく失意の境遇にありといふべきである。否失意といふよりもナチスの經濟理論とゝもにかれは目下失業中であると見るのがより適切であらう。

さてナチスが野黨時代かゝげた政策の多くは未だ實現の域に達せぬとして、ヒツトラー内閣成

立以來まさに四ケ月、政府は果して何をなしつゝあるのか、先づその全政策を貫くグライヒシャルツンク（畫一化）とは何であるか？

ヒツトラー首相は其著書「わが戰ひ」でもいつてゐるようにナチスの戰ひとらんとするものは國家の貴族主義的な制度だ、これはかれによれば封建主義の概念でなくして能率に屬する概念だ極度に能率的に高められた中央集權的の獨裁國家制度を意味する。そしてこの制度をもちきたすことは現在のドイツ重工業資本家や大地主の立場からは双手をあげて賛成するところだ、何となればドイツ資本主義は世界大戰後ドイツに加へられた外國資本の重壓をはねのけて今やそれ自らの獨立を勇敢に求めつゝあるからである。こゝに一切の國家的、經濟的、社會的の施設において中央集權的な畫一化、卽ちグライヒシャルツンクが實施さるべき可能性が見出される。

國家の行政的方面においてグライヒシャルツンクが如何に現はれたか。これはヒツトラー內閣成立後、間もなくこれまでの各聯邦政府を廢止しこれに代へるに日本の府縣知事の如き權限を持つ中央政府代表委員をしてこれをさめしめ形式的にも實質的にも、確實に中央集權政府を實現したことに現はれてゐる。

最近は內閣に直屬する統監を任命しこれをして全國の各産業部門や各職業部門および敎育、宗

教等のグライヒシヤルツンクを斷行せしめつゝある。例へば宗教においてはユダヤ教を絶對に排斥することは勿論カトリツクよりも新教を重んじ學校教育と宗教とを密接に結びつけるとともにあらゆる宗教團體を政府の機關によつて統一し國家的活動の一翼としてこれを政府の命令のまゝに自由に動員し得るよう統制した。また勞働組合に對しては五月二日を期しナチスは全國の社會民主黨勞働組合事務所を占領し幹部全體を保護檢束し、組合の財産を沒收するとゝもに今後は勞働組合はアルバイト・フロント（勞働戰線）と改稱しナチスの國民社會主義によつて指導する旨を發表した。五月十日の第一回勞働會議も要するにこの勞働組合のグライヒシヤルツンクの宣言に外ならぬ。（一九三三、五、一二）

四、經濟部門の畫一化

さて經濟政策の方面におけるグライヒシヤルツンクであるが、政府筋の發表によれば根本方針においてパーペン・プランを骨子としこれにシユライヘル内閣の勞働振興策の一部を採用してゐ

るものである。從つてナチス獨自のプランでないことはすでに明かである。しかしてその實踐にあたつては例によつて全國の貿易、商業、手工業などの會議所や取引所から共産主義者はもちろんのことと自由主義者やユダヤ人を驅逐しナチスの幹部をしてこれに代らしめた。そして政府は第一に貿易回復失業救濟の目的で大々的に公共事業を興さんとし中央銀行に對して取りあへず廿億マルクの融資を求めたのであつたがルーター總裁は拒絶したので直ちに詰腹を切らせ現總裁のシヤハト氏をして代らしめた。

これと相前後して議會ではヒツトラー首相の全權委員が通過したのでこゝに經濟界のグライヒシヤルツンクが急速に促進されるに至つた。卽ち政府はそれ〳〵の統監をして各種の産業組織改善に努力させる一方中産商工業の保護政策を決定させるために中央銀行より新たな貸出しを開始した。例へば工場の建物の修繕のために一億マルクを、また手工業者の保護に千五百萬マルクを支出し、またフーゲンベルク農相の關係する油と脂肪の獨占政策を行はしめるためにも莫大な補助金を支出した。

つぎに税金政策としては自動車工業を盛んならしめる名目で自動車税を卅パーセント引下げ新らしく自動車を購入するものには税金を全廢した。その外小賣業者保護のため百貨店に課税した

がこれが消費者の負擔に轉嫁されることはもちろんだ。また家屋土地所有者の税金を輕減する法律の適用を一ヶ年延長した。さらに社會政策としては戰場で負傷したものゝ恩給を削減する法律を撤廢し病氣に對する保險のかけ金を少くした。また藥や醫者に對する税金を引下げて醫療費を輕減し貧民救濟のために四百萬ポンドのバタや七千萬ポンドの小麥を支給した、かつ勞働者保護のためにユダヤ人や外國人の出稼人をドイツ國内から一掃してドイツ人の失業者をしてこれに代らしめた。

最後に我々はヒットラー政府の貿易政策を見よう。從來ドイツの繁榮は對外貿易の數字の上に現れた、貿易の成績こそヒットラー政府の經濟政策の成績如何を計る最もよきバロメーターだ。ヒットラー政府は貿易に對しては極端な保護政策をとつてゐる。これまで諸外國と締結してゐた一切の通商貿易上の條約は期限滿期と共にそれを機會に廢止して關税引上げによるドイツ商品の保護を行ひ、また獨佛貿易付加協定の滿期とゝもに佛國の商品に對して關税引上げを斷行し、その他ユーゴ・スラヴィアの食料品に對する關税引上げなどを行つてゐる。しかしこれらの結果如何なる成績を示してゐるかといふに最近の統計の示すところによれば輸入輸出ともに漸次下り坂となり、輸入についていへば關税引上げによつて食止めてゐる食料品と工業製品とが減少してゐ

る。たゞ原料品の輸入が減少してゐないことは、工業國ドイツにとつては祝福すべき現象ではあるが反對に輸出においてドイツの工業製品がめつきり減少し、しかも量において減少してゐることは注目すべきである。

即ちこれは季節的減少といふよりは各國がドイツの關税引上げに對抗してドイツの商品に加へたボイコットの顯著な現れと見るべきであらう。

かくして從來莫大な輸出超過によつて繁榮の道をたどりつゝあつたドイツにとつて現在の輸出超過額なるものは甚だ前途悲觀すべき材料となる。即ち今年の一月から三月までの成績は輸出超過額一億三百萬マルクで昨年の九月から十二月にかけての二億三千四百萬マルクに比すれば半分以下に減少してゐる。最近ナチスの機關紙はドイツ貿易の活況を傳へ漸次上向線をたどりつゝありと報導してゐるがまだ明確に具體的數字をもつてこれを示してをらぬ。單にこの四月と三月とを比べても輸出超過額は三月の六千三百萬マルクから四月の六千萬マルクに減じてゐるのであるから五月に入つて急に好調を示してゐるとは信ぜられない、のみならず賠償金の外に外債の利子支拂額十六億マルクを控へてゐる工業國ドイツがこの程度の輸出超過額ではまさにドイツ經濟界の危機を物語るものでなければならぬ。

斯くてマルクは最近の外國爲替市場において漸次弱氣を示して下向きつゝある。但し國内市場においては政府當局の爲替管理の結果こゝ一ヶ月の間マルクは非常な强氣を維持しドルに對して三マルク五十五フエニヒ、日本の圓に對しても八十八フエニヒといふ有樣だ。これは近くドイツはインフレーションを斷行する前兆であらうとの觀測さへ行はれてゐる。

以上ナチスの一般産業政策を通觀するにそれが國家本位といふもののナチスの政策なるものは一般消費者に對して生産者を、勞働者に對して資本家を、農民に對して地主の立場を、より多く保護しつゝあるものといへよう。この限りにおいて從來の內閣が資本主義の內部的幾多の矛盾を解決せんとして努力して來たところをヒツトラー政府がよく克服し得るかどうか、現在のところその克服の可能性を特に增したものとは信ぜられない。しかもこの國内に殘された多くの矛盾に加へて國際的にはドイツ外交は一大危機に直面してゐる。最近オーストリアに親善使節として派遣された中央司法委員のフランク氏はウインに於て歡迎せられざる客として過せられ英國に同じく派遣されたローゼンベルク氏はこれまたロンドンでさんぐ味噌をつけてゐる。かゝる切迫せる情勢を前にしてヒツトラー政府の前途の見透しなるものは依然として樂觀を許さずの一語に盡きるであらう。（一九三三、五、一二）

五、資本主義への退却開始

極端な爲替管理と輸入制限、さらに在外資金の强制屆出から今回の銀行國營を仄めかす如き銀行調査委員會の設定等等、これ等をならべて考ふる場合は急テンポで政治革命に成功したヒットラー政府が今や鉾さきを轉じて經濟革命に向つて突入しつゝあるかの感を抱かせるが、仔細にこれを觀察する時はむしろその反對に從來ナチスが掲げて來た國民社會主義的經濟政策は徒らに經濟界を不安ならしめ、貿易の不振を來し、ドイツをして衰弱の度を高める原因となるので、この際、過激なる經濟政策は引こめてヒットラー内閣以前の自由主義的政策へ一歩退却しようとする傾向が看取される。即ちヒットラー政府が九月六日から着手した銀行調査委員會の仕事なるものは、

(一)ドイツ銀行の危險なる現狀およびその原因の調査　(二)現在までの銀行救濟政策に關する

の三つであつて、以上の調査研究によつて今後の行きづまりを打開する何等かの新しき政策を生み出さうといふのである。そしてこれに政府が期待するところは、第一がブリューニング內閣以來嚴重な爲替管理を實施してゐるにかゝはらず、依然としてドイツの資本は海外に逃避するゆゑにヒツトラー政府になつてからは、外國への投資額や預金額の屆出も强制し國外にある預金を國內へ吸收することに努力したが、その政策も大した効果を現はさなかつた。だからこの際、さらに有効な爲替管理方法を見出さうといふのである。第二は從來ヒツトラーの國民社會主義運動は、國民に對して銀行の國營を約束して來た。だが政權をとつて見ると銀行の國營は不可能である。銀行だけを他の經濟機關から切離して國營にするなどは、出來ぬ相談である。しかも一方において國民への約束の手前、かつナチス急進分子を押へて行く必要上政府が必ずしも現行の國有を放棄したものでないといふ印象を國民に與へるといふ點にかかつてゐる。

銀行國有が現在の政府にとつて不可能であり政府にもその意思のないことは六月廿九日、ヒツトラーがノイデツクに避暑中のヒンデンブルグ大統領と會見した際に、政府はこれ以上過激の手段は採らぬ。ことに經濟界に對しては愼重なる態度をとると報告し、續いて七月初めに發表され

たところのヒツトラーの國民革命は終れりとの宣言中にも同樣なことをのべてゐる。同時にまたナチスの最も急進的政策の實行者と稱せられてゐる全國經濟統制委員長ワーゲナー博士が突如免職になつた。これらの事實に加ふるに前經濟大臣フーゲンベルグの後任としてナチスの正式黨員でない生命保險會社の社長シュミツト氏を迎へたが、このシュミツト氏は最近ミュンヘン實業家の會合でドイツ經濟界は以前と何等異るところなしと演說して實業家を安心させるとともに、最後に自由經濟萬歲と高く叫んで極端な國粹主義から自由主義的政策へ一轉する機運にあることを思はせた。さらにまたかつては土地の國有や利子奴隷制の廢止等の急進經濟革命を主張したナチス經濟理論家フエダー氏はシュミツト氏のもとで經濟次長に就任するや、今日ドイツの要求するものは休息である、安靜である。經濟界に對し過激手段をとることは危險であると宣言しこれまた非常な轉向ぶりを示した。かつナチス黨本部にあつてもたとへば近ごろまで主張されて來た百貨店の國有を放棄して今後百貨店に對して過激手段をとることとの禁止を發表した。即ち以上の如くナチス政府はかのフーゲンベルグ氏の政策が自由主義的であるとして氏を內閣から追出したのであるがその後の政策は國民社會主義を標榜しつゝ何等の新味なく實際上はむしろフーゲンベルグ氏以前に逆戻りしつゝあると稱して過言でない。政治革命の成功したナチスも經濟の分野にお

いては急激なる人爲的變化のなしとげ難いことを自覺してゐる今日、今後のドイツ經濟界には國家統制の名をもつてする若干の資本主義制度の修正以外には政治におけるがごとき急角度の轉向を豫想することは無理だらう。この意味において今後ナチス經濟政策を他の資本主義國とは異つた過激なる變化をもたらすものと特に警戒する必要もなく、深刻な不景氣打開策に狂奔しつゝあるほかの資本主義國をながめると同じ眼をもつて今後ヒツトラー政府がいかにしてこの經濟的非常時を乘切るかを注意深く見守るべきだらう。（一九三三、九、一六）

六、帝政派運動の彈壓

一九三四年二月一日にヒツトラー政府は、一切の帝政派結社に對して即時解散を命じたが、その後も引續いて各種の形で帝政復活運動に彈壓を加へてゐる。ナチスの內政工作は左翼の彈壓にはじまつて國權黨、中央黨等の解消となつて右翼に延びたが、さらに軍人貴族地主等の階層に强固な地盤をもつ帝政復活運動の禁止に進展し、その最後の息の根を止めるべく積極的な方策をと

つてゐる。參謀總長ハンマーシュタインが罷免されたのも、かれが帝政派であつたことが理由だつたといはれてゐるが、かれの辭職と同時に軍隊は急速にナチス化され、現役軍人の軍服と平服の區別なく、ナチスの鉤十字章をつけねばならなくなつた。在鄕軍人を中心に組織されてゐる鐵兜團は、現在ナチスに合體されてゐるが、その團員もナチス突擊隊と同じ服制を着ることを命ぜられ、また團員中出征軍人で組織されてゐるケルン鐵兜團は帝政謳歌氣分濃厚といふので、老朽を名目にナチス突擊隊中豫備役に編入されてしまつた。また全獨官吏同盟は、わざわざ「吾人は帝政派に加盟せず」と宣言して身のあかしを立てゝゐる。農林食料大臣ダーレは農民大會で演說して「カイゼルはかつて農民を二度裏切つた」とホーヘンツオルレルン家の罪惡をかぞへ立て、無任所大臣ヘツスはまたある所で「ヒツトラーがドイツであり、ドイツはヒツトラーである」と叫んでゐる。もはや帝政を口にすることが危險思想視される今日、カイゼルの復歸や復活は全く絕望と見てよからう。

ヒツトラー內閣の前のシュライヒヤー將軍內閣が一昨年末、前獨帝ウイルヘルム二世のドイツ歸還を禁止した共和國保護法の一項を削除して、オランダのドールンで配所の月を見てゐるカイゼルにドイツ歸國の自由を與へたことは、カイゼルの復辟を熱望する地主、貴族や國權黨系をし

で隨喜の涙を流さしたものであつた。昨春三月ヒツトラー政權最初の國會開院式がポツダムで擧げられた時、議場に臨むに先だつてヒンデンブルク大統領がドイツ建國の祖フリードリツヒ大王の靈前に恭々しく花環を捧げ、また前皇儲フリードリツヒ・ウイルヘルムに元帥杖をもつて敬禮したことや、ヒツトラー政府が赤黑金の共和國旗を廢して黑白赤の舊帝國政旗を活復させたことなどは、復辟を夢みる人々に廢帝カイゼルの復活近しと思はしめたかも知れない。

しかし、ヒツトラー氏の胸中には獨墺に跨がる第三帝國の實現は描かれてゐても、カイゼルの復活による舊帝政國家への逆戻りなどは夢想だもされてゐないところであつた。ナチスがその運動の或時期において、甚だ顯著に帝政復活を匂はせてゐた時代があつたが、それはその當時のナチスが資金や地盤の關係で帝政派と接近する必要があつたからであらう。各種の國粹主義的右翼勢力を呑吐して來たナチスではあるが、舊帝政にかへることを目標とする國粹主義は、ナチスの綱領の中にはなかつたのである。ヒツトラー氏が政權掌握の後、時機をみて帝政派解消の攻勢に出るであらうことは、當然豫期されねばならぬことであつた。

一九三三年夏、ヒツトラー首相は、帝政派の巨頭と目すべき國權黨首フーゲンベルグ氏を閣僚の椅子から逐つたが、思へばそれはヒツトラー首相が帝政派に加へた挑戰の口火を切つたもので

あつた。次いでかれの片腕でその私兵團「黑白赤戰線」の指導者であり、かつビスマルクの孫に當るヘルバルト・フオン・ビスマルクも捕へられて、政治犯人集團勞役所に送られて行つた。一擧に帝政派の本據を衝いたヒツトラー首相は、その後漸次帝政派の陣容を、一角から一角へと、なしくづしに崩して行つたのだ。一九三四年の一月廿六日のカイゼルの誕生日には、帝政派の中心人物はベルリン・ツオーの會館フエストザールに集まつて盛大な祝祭を擧行したが、この日ナチス突擊隊員は會場に侵入し劈頭開會の辭から彌次りたふし、しまひには壇上に飛び上るものも出て大混亂裡に僅か卅分足らずで散會を餘儀なくされた。

しかし、時すでに、これに抗議を申し込むには帝政流の勢力あまりにも衰弱してゐたのであるその直後、前皇儲の妃ツエツエリエが總裁となつてゐりケーニギン・ルイゼ同盟が禁止の憂目を見た時も、その幹部は「われ等の任務はすでに終つた。今日散するのは當然であると思ふ」と泣き寢入りの聲明をして潰滅したのであつた。ケーニギン・ルイゼ同盟といへば、ドイツ興隆の祖ウイルヘルム一世を生み、ナポレオンへの復讐を誓つた皇后ルイゼの德を慕つて組織された歷史ある團體で、殊にドイツ婦人にゲルマン魂を吹きこむ中樞機關の一つであつた。現在ヒツトラー首相の傘下で次代國民の訓練を受けてゐるドイツ青少年にとつては帝政復活の如きは問題ではな

いであらうが、かつてのドイツ帝國の盛時への追想から離れられぬ人々にとつては、これらの事實の一つ一つは胸を痛ましめることであらうと想はれる。（一九三四、三、一八）

七、國民糧食同盟と農業政策

ナチス制覇二年、全體主義の旗の下にドイツのあらゆる領域にわたつてナチス的色彩を濃厚にした。だが、その多くは徒らに「ナチス的」といふ形容詞の流行にとゞまり、その實質の伴はないことが多い。その間にあつて、餘り外國に紹介されてゐないことで、しかもナチスが最も誇りとする政策と組織とがある。そかは農業政策方面における世襲田制と、國民糧食同盟との二つである。

國民糧食同盟とは何か？　それは地主、小作農、勞働の別なくドイツ全國のおよそ糧食生産業從事者のすべてを網羅した機關でありその名の示す如くドイツ國民糧食の自給を目的としたものである。その指導者は食糧大臣ダーレ氏が任じてゐる。この國民糧食同盟の現在果してゐる最大

の役割は農產物市場統制だ。ナチスの口吻をかりるならばそれは農產物に對する投機と高度の商業利潤とは、農業のユダヤ的資本主義的方向を代表するものであつて、これを征服するために市場統制をなす必要があるといふのである。卽ち、小麥、大麥、裸麥、カラス麥等の穀物に對しては國民糧食同盟內に穀物硏究會があり、そこでの統制ぶりは次の如くである。

一定の商品の品質を根本として生產者の販賣價格が公定される。品質の標準外に良好なると否とに依りその價格に一定範圍の付加又は減額が許される。公定價格はまた地方別に區別され、更にその時季に依つて公定價格は波狀の變化をつけられてゐる。注目すべきは商業價格差を決定して販賣市場における活動と利潤とに一定の限界を設けてゐることである。

上述で判明するやうに統制範圍は生產者卽ち農民から更に製粉業者、商業（協同組合及び小賣商人）にまで及んでゐる。而して例へば去年は豐作であると見たので旣に昨年九月に一昨年以上の耕作地擴張の見合せを勸告したが、今年は不作だつたので强制的の賣拂ひ義務を課してゐる。販賣業者にも一定の制限額がある。去年の過剩米に對しては買上げの方法をとり、また輸出の途を開いた。今年は貯藏穀物の拂ひ下げによつて大體需要を滿たすものと見られてゐる馬鈴薯、野菜に對しても今年に入つて以上とほゞ同じ方法を講じてゐる。

ミルク、バター、チーズ、卵、肉類に對してはこれと少し異なる。こゝでは統制は一層徹底的だ。即ちすべての販賣市場へ賣られるものは、それら各商品別の中央局へ表面上賣渡し、直ちにこれを拂ひ下げさせて販賣市場へ入れるのである。實際には一定の量に對してこの中央局の許可を得て販賣することが出來る許可制度であつてその際一定のパーセンテーヂで手數料を中央局に納めるのだと考へてよい。

中央局はその際に一定の價格を設定するわけである。中央局の手を離れて販賣市場に移つてからの商業價格差その他に對しては各商品別に組織されてゐる全國聯合會がこれを決定するのである。これらの物價決定に當つては食糧大臣の許可を得ることが必要だ。

かゝる方法、手段は、ナチスの發明にかゝるものではないとかれ自身も語つてゐる。が、ナチスの功績は、かゝる方法、手段にナチス的全體主義の精神をふきこみ統制經濟の觀點からすべてを體系づけたといふのである。

世界農産物市場からドイツの農業を守るために、一九二九―三〇年社會民主主黨内閣が、また一九三二年にドイツ國權黨のフーゲンベルグが關稅壁を高め同時に農村經濟の組織販賣價格の方面に强制的要素を持ちこんだものが、今日ナチスの食糧大臣の手によつて延長され、擴大され、

强化され、更により統一されたといふのは面白い廻り合せである。

さて、かゝるナチスの農業政策の傾向は何を意味するか、これは明白に農業のカルテル化である。公定價格、統制價格といへばよく響くかも知れないが、カルテル價格に相違はないのである。「國民糧食同盟」の指導者たる食糧大臣ダーレ氏はナチス親衞隊（S・S）の黒服を著てゐる。そして二言目には秩序を口にする。が、カルテル秩序は、カルテル内のいはゆる正當なる競爭を廢するものでもなければ、また、ましてや他のカルテルとの競爭を揚棄するものでもない。去年から今年のはじめにかけて、ドイツ國内の農產物價格は一八パーセントも高騰した。これに反して生產財の價格はむしろやゝ下落した有樣である。そこで當然に工業と農業との間に一合戰が豫想されねばならぬ。それは理論的にはナチスの經濟論客と、自由主義的經濟論客との間の論戰となり、その尖端は、食糧大臣ダーレと經濟大臣兼中央銀行總裁シヤハトの意見の對立となつて現はれてゐる。最近、新設された物價監視官に就任したゲールデラー氏は、この高騰した農產物價格に一擊を加へるであらうと期待されてゐるが、それからひき起される波紋は如何？

とまれ、全農業從事人口を組織してゐるドイツ國民糧食同盟及びその政策の今後の展開は、極めて意味深い問題をなげてゐる。（一九三四、一二、一五）

八、ニユールンベルク黨全國大會記

「ヒツトラー天氣」といふ言葉はすでにドイツ國民の信仰にまでなつてゐるようである。ヒツトラ氏が大會を催す日に限つて雨が降つたためしがないといふのだ。が、バヴアリア州の古都ニユールンベルグで開かれた今年のナチス全國大會も九月四日から十日に至る一週間の會期中、快朗な晴天で、あつらへ向きの大會日和だつた。筆者が招待されて同地に着いた時、秋晴れの空にナチス旗が高くはためき、地上には褐色の制服群の歡聲どよめき、人口四十萬の靜かなニユールンベルグは、五十萬のナチス各部門派遣者群を迎へて忽ち九十萬の褐色都市にふくれ上り、古都の心臓は異常な刺戟に破裂せんばかりの鼓動をつゞけてゐた。

ヒツトラー氏元首就任の人民投票から全國大會へ——それはナチスの完全な制覇であるとともに、その勝ち誇る凱歌の行進譜でもあつた。目ざす第三國家の新しき誕生！　理想の彼方に描く大國家の幻想が、ヒツトラー氏の雄姿とともに國民の胸中に燃えてゐる。秩序ある十二列編隊行



ニユールンベルグ古城



ニユールンベルグ黨大會勞働奉仕團の行進

突擊隊、親衛隊、青年兵團、少女隊、勞動奉仕兵團、勞動戰線

進で續々と入りこんで來るナチス突撃隊、親衞隊、青年兵團、少女隊、勞働奉仕兵團、勞働戰線等々の巨大な制服の波を目撃するものゝ眼には、淸黨事件以後陣容を一新したナチス全貌の示威を感じるとともに、ヒツトラー氏の第三國家成る！　の感を深くせざるを得なかつた。

連日、興奮の感激のるつぼの中にあつて、一糸亂れぬ規律と訓練とを示してゐた點はさすがにドイツ國民であつた。ナチスの總會、政策協議會から各部門分科會に至るまで、着々としてプログラムを追うて進行した。總統ヒツトラー氏は平素と同じ明褐色の制服で、ある時は集會に臨みある時は野外の大衆に獅子吼し、ある時はまた數時間も自動車上に直立して、秋の陽ざしを眞向にあびながら、行進する突擊隊や勞働奉仕兵團等々の大部隊にいち〳〵擧手の敬禮をつゞけてゐた。その精力と熱誠と、そして身をもつてことに當るといふ峻烈なる意氣とには、國民を感激せしめ信賴せしめないではおかぬものがあつた。かくして、ハイル・ヒツトラーの歡呼の嵐はしば〳〵古都の空をゆるがせた。

ヒツトラー氏の双翼ゲーリング航空相とゲツベルス宣傳相、それから黨首代理ヘツス氏以下、ナチスの錚々たる領袖連も、いづれも軍服まがひのナチス制服に身を固め、それ〴〵の部署において意氣軒昂たるところを見せてゐた。

大會を通じて現れたナチスの各組織は、すべてが軍隊式に編成され統制されてゐたことであつた。各種の團體は銃を持たせばそのまま軍隊になるのではないかとさへ思はれるくらゐであつた當局は近隣國の神經を恐れて「これは軍國主義にあらず、國民の兵團化なり」と言明してゐるが總統ヒットラー氏を頂點として全國民がやがてはピラミット型に統制されるのではないか、「全國民を一人殘らずナチスの思想と教義の下に獲得することが今後のナチスの任務である」とヒットラー氏が人民投票の直後發した宣言に明らかな如く、全國民がナチスの制服をつけ何らかの部門に所屬して行進する日が來るであらう。

この兵團化の傾向が、今後より廣汎に、より深く進行するとともに、ナチス・ドイツの政治家にはナチス以前のドイツ、または他の議會政治の國などで見られない異なつた別個の型が現れて來つゝあることを見逃せない。すでにナチスの領袖は、それ〴〵の兵團の總帥だ。それは民衆から浮かび上つた存在ではなく、逆に民衆を兵團の中に取りこむことによつて、そしてその團員と困苦をともにするといふ點において、その將領と士卒即ち民衆との間は一體となる。かくして常に動員された兵團組織の中にあつて、兵團の中心として活躍する新らしい型の政治家がこゝに生れつゝある。この種の政治家には、博大な見識とか、縱横の政治的駈引などといふものはまづ必

要はない。それは總統にまかせておけばよい。鐵の規律に服し、身をもつて事に當る殉國的意氣部下の兵團と密接に結びつく組織力、統率力があれば足る。ナチスの政治家を論議する場合は、この邊のところを留意しておく必要がある。（一九三五、九、一〇、ニユールンブルグにて）

九、人種問題異聞

ナチス・ドイツの理想は、アリアン人種（俗にいふ白人）であつてゲルマン民族であり、同時にドイツ國民であるものゝ、民族共存社會の建設にある。從つて先づアリアン人種でない者をドイツ國籍から放逐しなければならぬ。血の純潔を主張する精神がそこにある。非アリアン人種との混血が禁止されねばならぬ法律がそこから生れる。「非アリアン人種には、その代表的なものとしてユデヤ人、日本人、ネグロがある！」といふ宣傳は小學校敎育から現代ドイツ國民が頭に叩きこまれる知識である。ドイツ國民の血液の中に、また社會生活の中に、根深く巣喰ふたユデヤ人を逐ひ出せの運動が、いかに痛烈に行はれ、また行はれつゝあるかは、既に世界の常識だ。し

かし、その餘波を受けてユデヤ人と共に同じ非アリアン人種に屬する日本人が、また同じやうな迫害をナチス政權下のドイツ國民から被つたのであつた。それはナチス國民革命の初期の時代に屬する數ケ月間の出來事ではあつたが、當時の獨在邦人の多くが、いかに堪えがたい屈辱の生活を送つたかは、その當時われ〳〵日本の特派員が電報で故國に訴へた日本人侮蔑件の數々によつて窺知出來よう。こゝにその頃著者の打つた特電中から拾ひ上げたウルハン博士事件によつてその一斑を紹介し、ナチスの人種問題に對する回想を新らたにしたい。

ウルハン博士事件

ユダヤ人退治に狂奔してゐるヒットラー政府はつゞいて日本人を生みの母にもつドイツ官吏をユダヤ人同樣ドイツ民族の血を汚すものとして馘首したので在獨日本人間に少からぬセンセーションを起した。事件といふのはベルリン郊外ダーレムにある國立農林經濟植物生理研究所研究員オットー・ウルハン博士の母親が山田ヨシといふ日本の女性であることが本年五月五日から實施された等二緊急令官吏任用令第三條第一項。

「アリアン民族にあらざる官吏は免職せらるべし、名譽職は當該官廳と關係を斷たるべし。

に偏れるものとしてウルハン氏は六月卅日限り解職を通告され、これに對しウルハン氏はその恩師オースカー教授やフリードリッヒ・ハヴーアー博士及び同僚學者の運動の結果この九月末日まで在職を許されたが、それ以後は研究所を追放されて失業者の仲間入りをしなければならぬ運命にある。

ウルハン氏は一九二九年ベルリン大學を卒業と同時にドクトルの學位をとつた少壯氣鋭の生物學者で現在はドイツの米の飯ともいふべき馬鈴薯につきその多收穫をはかる一方法として電氣應用の測定法を以てよりよき品質改良法を研究中で皮肉なことにはウルハン氏の馘首に先だつ六月三日發行のナチス機關誌の週刊イルストリーテル・ベオボアハターにはウルハン氏の研究をドイツ食糧問題解決のエポック・メーキングな研究としてウルハン氏の肖像入りで大々的に報道してゐることでこの馘首は各方面からいたく同情されてゐる。ウルハン氏は有色人種の血をうけた犧牲者として最初の槍玉にあげられたわけであるがウルハン氏はその愛人の植物學者マルガレーテ・ゲルナツハ女史との結婚も前記の理由で實現困難と見られ二重に悲慘な境遇にある。

記者は十七日ベルリン郊外ダーレムの研究所に問題の人ウルハン氏を訪れた、一見日本人かと思はれるほどのドイツ人離れのしたウルハン氏は實驗室でキビ〱した態度で語る。

私の父はフランツ・ウルハンといつて卅數年前染料貿易商として日本に赴き横濱で日本婦人山田よしと結婚してその間に生れたのが私です。私は四歳の時兩親に離れてドイツに送られドイツの教育を受けました。母は十年前日本で亡くなり父はその後ドイツに戻つてドイツ銀行の營業部長を勤めましたが七年前に死にました。私は日本語が話せないので母の親戚とも文通出來ずそのまゝになつてゐます。私は母の國日本が戀しい。ぜひ一度訪れたいと願つてゐましたが、もし日本の大學や研究所で私を雇つてくれることが出來ればこんな嬉しいことはありません。滿洲國で馬鈴薯を栽培しないでせうか。私はこのまゝ私の研究を中絶させることを忍びないのです。日本大使館にもお願ひしてゐますが私が日本へ行けるよう御盡力下さい。

ウルハン氏の問題につき日本大使館では永井大使も藤井參事官せウルハン氏に非常に同情してゐるがウルハン氏の國籍がドイツ人であるので、その馘首に對しては手の下しようがないといつてゐる。しかし事件そのものは有色人種殊に日本民族の面目にも關するものであるので近く適當の機會にヒツトラー政府に對して考慮を求めることになつた。

（一九三三、七、二〇）

日本人を生みの母にもつ混血ドイツ人なるためにアリアン人種以外の者は官吏たり得ないとのヒットラー政府の新法律によりドイツ國立農林經濟植物生理研究所研究員を解雇された馬鈴薯研究の少壯學者ウルハン博士の元へ最近日本から温かい救ひの手がさしのべられた。それは著者の特電によつてこのナチス悲劇を知つた味の素本舗鈴木商店では博士の境遇に同情、ベルリン日本大使館の藤井參事官を介して博士を味の素會社に招聘したいと同社吉澤敬直氏（顧問辯護士）の名をもつて申込んで來たのだ。藤井參事官は早速ウルハン氏にこの旨を傳へるとウルハン氏も感激してぜひとも日本行きを實現したいと希望したので同參事官は今一應博士と味の素本舗とが直接具體的に交渉するやう意見をそへ吉澤氏あて返事を發送した。最近鈴木味の素商店は滿洲國に進出して酒造會社を設立したから馬鈴薯からアルコールを造る方面にウルハン氏の研究を役立たしめるのではないかといはれてゐるが父の國ドイツにおいて解雇されたウルハン氏を母の國日本が引取ることは近來の國際美談だとして在獨邦人間にも多大の感動を與へてゐる。當のウルハン氏は滿面に喜びをたゝへ記者に語る。

九月末日から研究所を逐はれるのでゾルフ前大使等に今後の身の振り方について心配願つてゐましたが、うまくゆかず當分失業と覺悟してゐたところ母の國あこがれの日本に職業を得ること

が出來るのは天の與へた幸運とたゞ感謝するのみです。もう日本のことや滿洲のことばかりが頭の中にあります。私はこのごろ日本語を勉強してゐますが、むつかしいですね。しかし私は英語とフランス語が出來ますから日本へ直ぐ出かけても不自由はしないでせう。

なほウルハン博士は味の素に就職出來れば現在異人種との結婚禁止令により拒まれてゐる婚約者のマルガレテ・ゲルラツハ孃とともに赴任し、日本で結婚式をあげるといつてゐる。

（一九三三、九、一六）

フリツク内相の聲明

ナチスの日本人迫害はウルハン事件から、惹ひては日本人小學兒童の毆打事件まで進展したので永井大使の抗議となり、ナチス當局も事態の重大化におどろいてドイツ内相フリツク氏はアジア殊に日本およびインドで問題を起しつゝあるナチスの人種問題に關し、五日政府の名において次の聲明を發表した。

「ナチスの人種法はドイツ國民の將來のため純潔を保たんとするものである。しかるに諸外國ではこれを誤解し、特にアジアではこれがため不穩なる空氣をたたへてゐると傳へられてゐるが、

ドイツにおいて外國人と稱する場合ユダヤ人をその代表的なものと見る。その數はドイツ國民の僅かに十五パーセントに過ぎないが、彼等は社會のあらゆる部門の重要地位を占めたのでドイツ國民の生活は脅かされるに至つた。ドイツの人種法はこれに對する正當防衞で決して單なる人種排斥でない、ドイツ人と人種を異にする國民の間にも古くかつ勝れた文化を持つものゝあることをわれは認める。したがつて外國人がドイツで生活を營みその子供を敎育するに當つては從來と同樣何等の支障を起さざる考へである」（一九三三、一一、六）

フリツク内相の聲明でナチスドイツの日本人侮蔑問題は全ドイツから漸次消滅していつた。しかし、それは人類同胞としての見地から共存協和の手を差しのべたものではなく、徹頭徹尾政治的な觀點からであつた。卽ち一つは日本の國際的實力の反映でもあり、他面またソ聯に對する共同防衞の必要上、日獨親善工作の絕對的なるがためであつた。從つて以上のナチスの非アリアン人種に對する差別觀といふよりは蔑視觀は、何ら根本的に改められたわけのものでないことを忘れてはならない。

追記　日本の同情者に救はれたウルハン氏の著者宛書翰によれば、氏は愛人と結婚して現在弘前高校のドイツ語敎師として幸福な生活を愉しんでゐる。

Ⅲ　ナチス社會世相

ドイツ女性氣質

「もし白人の女から結婚を申込まれたら貴方はよろこんで承諾するでせうね？」

「否（ナイン）！」

即座に僕は、さう强くいひ切つてやつた。先刻からこの高飛車な質問をする思ひ上つた女學生の態度か癪にさはつてならなかつたのだつた。

「まあ！　この人つたら白人の方から申し込んでも應じないのだつて！」

女學生エルフリードは、も一人の仲間ヒルデの同意を要求するかのやうに、かういふと大げさ

なぜスチユアでさえも呆れたといつた表情をした。彼女達はつひ二、三日前ベルリンからこのホテルにやつて來た客だつた。棒のやうに直線的な身體にリユクサツクを背に負つて、日焼けした腕もあらはに樫の木の山杖をふり廻しながらやつて來た彼女らであつた。二人とも心もち小鼻を天井向かせた外は、何の風情もない顏つきであるが、質實剛健そのものといつたところが典型的なドイツ女性であつた。ベルリン人だといふので食堂で僕と近づきになつたのであるが――。

「では誰と結婚するの？」

と、こんどはヒルデの方が訊ねた。

「もちろん僕は日本人だから、日本の女以外にないさ、民族の誇りにおいて――だ」

「民族の誇り」――ナチスの國の人々が專賣特許のやうに口癖にする此の言葉を、逆に彼らに聞かせてやつた。

「それあ日本人としてはさうですね、どこの國民にも誇りがあるのですから……」

ホテルのロツテさんが、若い女學生の小兒病的白人優越論をたしなめるやうな調子で僕の言葉をひきついだ。

だが、座はスツカリ白けてしまつてゐた。

「お茶でも入れませうか？」

とロッテさんが腰を浮かしかけると

「ありがと、だけどわたし達外を散歩して來るわ」

エルフリードは、さういつてヒルデを促すと二人で戸外にとび出して行つた。

――一九三四年の夏、僕は世界的に有名なキリスト受難劇を見るために南獨オーバーアムマーガヴの山村に數日を滯在してゐた。南獨といつても墺領チロルとの國境に近く、山越しの遠い空の線には雄大なチロルアルプスの銀嶺が光つて見えた。時折襲來する豪快な驟雨の後は、洗はれたやうに淸爽な雰氣が窓外に漂うた。

ホテルは昔バイエルン王朝の高官の別墅であつたといふヒルレルン城と名づけられた山莊であつた。自動車を降りて、最初この山莊の靜かな玄關に立つた時、扉を開けて出迎へてくれたのがロッテさんであつた。僕は彼女を、このホテルの娘さんかとばかり思つてゐたが、ホテルとは何の關係もなかつた。北ドイツのウエストフアーレンの小さな田舍町の女學校を出てから、家事實習のために一ケ年ほど無給で手傳ひに來てゐるのであつた。學校を出ると職業へと走つて家事習得の機會もなく、またそれに對する興味をも喪失してしまふ近代女性の缺陷を補ふ意味で、ドイ

ツではかうした若い女性の人生修業があまねく行はれてゐることを聞いてゐたが、ロッテさんも今はこゝのマダムの助手として家政や家事の實地を習得中なのであつた。

「ロッテといふ名はゲーテのエルテルの悲しみ、の中に出て來ますね」

靜かになつた部屋で僕はロッテさんに話しかけた。

「ゲーテのものお讀みになりました?」

「日本の高等學校ではゲーテやハイネのものなど數へます。僕らはロッテを永遠の女性として憧れたものです、ロッテのやうな女性なら外國人でもかまひませんよ」

僕はさつきの話と結びつけて笑つたが、ロッテさんも美しくならんだ皎歯をのぞかせて笑つてみせた。

「だけど貴方はもう結婚されてるでせう?」

「どうしてわかります?」

「だつておあづかりしてある貴方のパスポートで年齢がわかりますから、貴方は隨分若く見えますのね」

「さうです、日本人は誰でも外國に來ると十歳ほど若く見られます。僕も學生といふことにして

旅行をするんです」
「奥さんは？」
「日本に」
「どうしてお一人で」
「經濟的の理由です」
「一人では不自由でせうね」
「えゝ、この通りワイシヤツのボタンもとれたまゝです」
「まあ、わたしが縫ひつけてあげませう、どうぞ」
ロツテさんは手をさし出した。僕は些か失禮を意識しつゝ、彼女の前でワイシヤツを脱ぐと彼女にそれを手渡した。
ロツテさんは次の部屋から糸箱をもつて來て默々として針を動かした。そこへどや〳〵とまたエルフリードとヒルデの二人が外から戻つて來た。ロツテさんの針仕事をみると、
「オヤ、貴女は御親切ね、ほかの人種にもそんなシヤツまで縫うてやつたりなさるの？　あゝ忠實なるハウスフラウよ！」

わめくやうな大聲で憎まれ口をたゝくとバタ〳〵と三階の部屋へ彼女らはかけ上つていつた。一瞬ロッテさんの面上はサッと紅潮した、それは羞かしいためであるか、いきどほりからであるのかわからなかつたが——

だが、すぐ冷靜な表情にかへつてむしろ僕を氣づかふやうに見つめながらいつた。

「惡く思はないで下さい。あの人達は人種的の誇りをはき違へてゐるんですから」

「わかつてゐます」

僕は短かく答へて、あとは默つてゐた。ナチスになつてから白人の優越を誇るために、ユダヤ人、ネグロ、日本人等の名をあげて有色人種の劣等を小學校から吹きこんでゐる政策の影響で時としてかうした露骨な輕侮的態度を見せられることにも慣れてはゐたが、それでもいま〳〵しいといふ氣持は去らなかつた。

單純な、あの女學生達は一途にさう思ひこんでゐるのであらう。自尊心の强い國民性として、日本まだまだ思慮の充分でない年齡として彼女達がさうあるのはやむを得ないのかも知れない。日本には逆に外人とさへ見れば崇拜する女學生もゐるではないか、それにしても一方にはゲーテが理想としたロッテの如き女性もまだドイツには澤山ゐる、やさしみとおちつきのなかに、內なるも

の丶力をたゝへた女性、感傷よりも現實と理智に生きてゐる女性、ここにゐるロッテさんもさうしたタイプに屬する女性の一人ではなからうか、僕はそんなことを考へてゐた。

ワイシャツが出來上つた時、僕は西洋流にロッテさんの手を固く握つて、

「大變ありがたう、貴女はほんとうに御親切です」

とお禮をいつた。

「いゝえ、どうしまして、わたしはただ誰にも親切であれといふことを守つてゐるだけです。殊に外國の方に對してはさうあるべきだと思ひますの、お客人に對する禮儀ですもの」

ロッテさんはおちついた微笑のなかにさういふと、碧く澄んだ瞳を窓外に映る山々にうつした。

脛を嚙れぬ獨逸娘

ドイツ女性の「自活の道」は、女醫、藝術家（主として美術手藝業）祕書、タイピスト、教員、研究室の助手、電話交換手、事務員、女工、賣子、等々、およそ世界の文明國がもつだけの職

業が、こゝにも女性のために與へられてゐる、そのうちで最も高級と目されてゐるのは女醫だ、開業すれば年收平均二萬四千マーク（一マーク約一圓三十錢）月にして二千マークの收入だが、これも醫院の經營を維持する諸雜費や保險金などを加算すると月千五百マークの支出は絕對必要だ、それに、もちろん、開業するには少からぬ資金がいる、だから普通の女ドクトルは開業出來ない病院や開業醫の助手になる、助手は無給のもあるが有給だと、初給月五〇マークから九〇マークが相場、これだけでは生活出來ないが、大抵の病院には寄宿舍制度があつて、食費と舍費とを免じてくれる、助手も代診を勸めるやうになると三五〇マークか四〇〇マーク程度の月給取りとなる。最下級は女中さん、食はして貰つて月一五マークのお給金、これは最低で中には料理の上手な女中は月八〇マーク取つてゐるのもある。またお給金は年齡によつても違ふ、二十歲以上なら月三〇マークは出す、その代り十七、八歲以下の女中は、政府の命令で働きながら女中の實務學校に通學することになつてゐる。そこで彼女たちは、家庭經濟、家庭衞生、料理、作法等の主婦代理學を一通り敎へ込まれるのだ。その學費は雇主が支辨する、それに、も一つ有難いことはドイツの女中は隔週日曜日は午後から休みだし、この外に一週一回だけ午後三時から勝手に外出が出來る。

記者の知つてゐるマルガレート孃は、女祕書兼タイピストだ、彼女は英語が出來るので米國關係の映畫會社のオフイスで月五〇〇マーク貰つてゐる、ベルリン郊外ヴエストエンドの閑靜な家に、三部屋を借りて。地下鐵で都心へ通つてゐる。勤務がすんで夜になると、彼女はまたウンターで市內の盛り場のカフエに現れる、だが彼女は一人ではない、そこには彼女の愛人がゐる。カフエに女が一人で入ることはドイツの女性にとつては一つの恥辱だ。獨身であつても男性の愛人をもたないことは彼女の「無能」の表白でしかないのだ。愛人は彼女にとつては新しき世紀の騎士である。

自宅から子供洋裁所の圖案課に通勤するキーゼラ孃は、月八〇マークを貰つてゐる。ベルリンで名高いライマン・シユーレの手藝科を昨年卒業した女、薄給でも親がかりだから食つてゆけるが、こちらの親達は日本のやうな家族制度でないから自分の子供だとて脛を嚙らせておかない。キーゼラ孃が月給を取り初めると部屋代幾ら、ガス代幾ら、電燈代幾らと一切を割勘でビシビシ取立てるその上、彼女の母親は、キーゼラ孃の洗濯物を洗ふので、その洗濯代でも市價の半額なみに請求する。彼女は二〇マークの部屋代を支拂つて食事は自分で拵へる。朝八時、コーヒーとブロード（パン）で簡單にすまして、仕事場に出かける。午前十一時、健康な彼女の胃袋は正午の食事時間

が待ち切れずに空腹を訴へる。彼女は持參の辨當即ちバタ・パンにハムを挾んだのを仕事片手にかぢるのである――自活するドイツ女性の一風景である。

幼稚園兒の夢

ベルリン動物園にほど遠くない私立ハンニ・シユツツエ幼稚園を訪れる。園長さんのシユツツエ女史はまだ獨身の美しい先生で助手と保姆の三人で二クラス四十名の園兒をあづかつてゐる。園兒は滿三歲から六歲までで授業は午前のクラス廿名が九時から一時まで午後のクラスは二時から六時までだ。授業料は月十五マーク、午前と午後の二部に跨る。園兒は三〇マークである。圓卓を圍んで積木で家を拵へたり數會を組み立てたりしてゐる一群がある。保姆が來て、その建物と建物の間に道路をつくり、凱旋門をつくり上げて、玩具の豆自動車のネヂを廻すと豆自動車は威勢よくこのお伽の街を馳せ廻り初めた――

「園兒には、すべて自分のことは自分でするやうに躾てゐます、それから團體的統制と淸潔と

を敎へるのです」

園長さんは、かういふ。なるほど、「おやつ」の時間が來て年齡順に整列した園兒達は、順々に洗面所に入つて手を洗ふ、全部の手が洗ひ終つたころ食堂に入つて先生からお菓子とお茶を戴くのである、少しの亂雜さも見えない。

「どうも男の兒より女の兒の方が多いやうですね」

「どの幼稚園でも、いくらか女の兒の數が多いのです。今のドイツは女の兒の方が餘計生れるらしいですから、それに幼稚園に來る子供には一人つ子が多いことも特徴でせう」

園長さんの說明の中に、記者はヒツトラー政府が鳴物入りで宣傳する產めよ殖えよの結婚奬勵を思ひ出し、戰後ドイツの深い苦惱に觸れる氣持がしたのであつた。

園兒が一番よろこぶものといつたら人形芝居だ、日本の紙芝居のやうな背景のかげから先生が兩手を出し、片方に道化人形カスペル君を操り、片方に獅子や魔法使を操つて間拔けたカスペルの道中失敗記を巧な話術で說き聞かせる。だがこれも近頃はナチス政府のお達しによつて人形芝居が防空運動の一翼に變化した。防毒マスクをかけたカスペル君の、敵機と戰ふ勇敢にして滑稽なる活躍のうちに、幼き者にも非常時の心得をのみこませるのである。

子供らの見てゐる繪本の中に「日本」と書いた一冊の繪本を發見した。鳥瞰圖式に圖解した日本案内記だつた。富士があり、近代都市東京があり大阪があり神戸がある。日本特産山椒魚がある。繭から絹への圖解がある。日本列島の縱斷圖には太平洋岸の海底八八五〇メートルと數字が入り世界で有名な深い海と説明してある。日本歴史のところでは、日本の島々をぐるりと鎖で圍んだ徳川の鎖國時代、そこへ黒船が來てヨコハマとナガサキの邊で鎖を斷ち切り、今度は鎖の代りに汽車のレールが島々をめぐりめぐつて文明開化時代を語つてゐる、何んといふ現實的な教育であらう！

ナチスの小學一年生

國民學校とか公立學校の名で總稱されるドイツの小學校は滿六歳から滿十四歳までが、そこで學ぶことになつてゐる。入學日は毎年春のキリスト復活祭の日と決まつてゐるが、復活祭はその年によつて日が違ふ、四月の時もあれば五月のときもある、一九三六年は四月十二日が復活祭で

從つてその日が小學校の入學日——この日はドイツの習慣で、初登校のペーター君やマリヤーネ孃は入學式が終ると校庭に待つてゐたお母さんに頭を撫でられて、お祝ひの美しいお菓子袋を頂戴する。この袋はどうかすると等身大もある大きな圓錐形で綺麗な花模樣でいろどられた紙袋、その中にチヨコレートやボンボンなどが一杯つまつてゐる。子供達は新しい勉强机の傍にそれを侍らして、オヤツの時間になると中味を一つづついたゞくのだ、一生にタツタ一度のこのお菓子袋はドイツ人にとつて永久に忘れられない懷しい思ひ出である。春よ早くやつて來い！指折りかぞへて待つ樂しい入學日！そしてうれしい花模樣のお菓子袋！

小學一年生は、そのふくよかな幼い手に美しい色刷りの繪讀本が與へられる。ム・ム・ム・ミ・ミと牛の啼き聲からまづ發音の正しいお稽古が初まる。それからアルフアベツト、たゞしそれも活字體でなく筆記體の實用的な方面から入つてゆく。そして同時にそれはドイツ特有の髭文字といふ難かしいアルフアベツトから書いてゆく。だから二ケ月もすると、田舍から屆いたお祖母さんの手紙が讀めるやうになり、またあどけない筆蹟で返事の一つも出せるやうになるのである。

何でも劃一的なことのすきなドイツではあるが、國定教科書といふものがない、たくさん發行されてゐる讀本の中から小學校長の意見でその採擇を決定するのである。ドイツの小學校を參觀す

る人がみな意外とすることがこれである。

ドイツ式なところを一つ二つひろつてみると――音樂の國ドイツ、そのドイツで唱歌の時間が特に重要視されるのはその傳統からみて當然の話だ。一年生の最初から音符を一づつ敎へこむ、一つの音符に對してその音が何であるかを根本的に敎へこむ、だから簡單な音符なら直ぐ讀めるのがドイツ小學生だ。

ナチスの國ドイツで小學校がナチス化されないはずはない。小學一年生は同時にヒツトラー青年隊の少年部隊一年生に編入される。毎週土曜は國家少年日と規定されてゐて學校はお休み、その代り近所のナチス分隊でオイチ、ニの行進から敎練される。この日は褐色のユニフオームに半ズボン、腰に「名譽と血」と刀劍に刻銘された小さな短劍を下げ、天晴れ立派なナチスになつたつもりで「ハイル・ヒツトラー」と片手を擧げての敬禮は可愛い。女兒はやはりヒツトラー青年隊の一翼B・D・M（少女部隊）に編入されて三角の隊旗を先頭に郊外に行進をしたりする。土曜から日曜にかけて幕營旅行に上級生は出かけてゆくが一年生はまだそれを羨ましさうに見送つてゐなければならない。

兒童の玩具は女兒のお人形に變りはないが、男兒の間に昨今最もよろこばれてゐるのは、最新

兵器の精巧な模型玩具だ。火を吐きつゝ突進するタンクや空を翔りつゝ爆彈を落してゆく頗る實戰的興味を露骨にした戰爭ものが大流行を極めてゐる、かくしてドイツの教育界はその全面的ナチス化へ、激しいテンポで根本的に移りゆきつゝある。幼い小學一年生の生活もこの潮流に乘つて今後どんな風に變つてゆくであらうか？「大きくなつたら何になる？」と聞くと口をそろへて「兵隊になる！」といふのであつた。

映畫統制國の映畫見物

ナチスはその制覇以前から映畫の統制をやりたがつてゐた。現ドイツ内相のフリツクはヒツトラーの古い同志で、ナチスが政權にありつかぬ一九三〇年にチユーリング洲の内務大臣をしてゐたことがあつた。その時彼はレマルクの「西部戰線異狀無し」を洲内で發禁し同時にそのフイルムも沒收して戰爭否定思想に大彈壓を加へた、これは自由主義・社會民主主義の中央政府と衝突し、沒收された映畫をめぐつて全獨の輿論を刺戟した。

ナチスの天下になつたら、嚴重な映畫統制が實施されるといふことは一般の氣構えであつたが、ヒットラーが一九三三年一月首相の印綬をおびた當初は何事もなかつた。これはウーファ映畫會社の社長を兼ねてゐる國權黨首領フーゲンベルグなどが右翼聯立内閣の閣僚として頑張つてゐたからでもあつた、しかし、映畫のみならず、演劇、ラヂオ、新聞、美術等一切をふくむ統制案は宣傳大臣ゲッベルスの手で起草されてゐたので、フーゲンベルグ等他派を閣外に追ひ出した後間もなく一九三三年九月にゲッベルスを總裁とした文化院法發令によつて映畫その他は强力なナチスの統制に服することになつた。

私は映畫をナチスの理想とする域に近づけるには、映畫企業を國營にしない限りは、不可能だと思つてゐる。これまでの企業若しくは營業としての映畫を、國民文化敎育の一つの手段として映畫にまで高めようといふのがその統制の骨子なのだが、一方において資本主義的企業が是認され、從つて映畫も亦ナチス治下にあつては企業の對象たり得るのであるから映畫は「文化敎育の手段」と「企業の對象」との間を往來して安定を缺く有樣である。たゞし、この兩極の間を移行する振幅の度合ひは、ナチス政權の確立と共に漸次縮まつてきてゐるから、いづれは兩極の中心たる半企業、半文化敎育手段のあたりにおちつくであらう。私はもちろん映畫の專門家ではないか

ら、その過渡期の一滯在者としての、「雜觀」をこゝに書くに過ぎない。

「キング・コング」がベルリンの目貫ツオー街マルモアハウス館に上映されたのは此の文化院法令の出た直後であつたと思ふ。アメリカで既に見て來た人の話では莫迦々々しいほど面白いやうだし、日本の新聞では全國的に相當センセーションを起した映畫らしいので、私もぜひ見たいと思つてゐた。ところが一週間を出ないうちに、當局から上映禁止處分を受けて街頭から消えてしまつた、禁止の理由は白人の女ともあらうものが、獸類から愛慾沙汰で追つかけられる如きは、白人全體の面汚しであるばかりでなく、高度の物質文明を誇る近代都市が獸類一匹の來襲に大騷ぎをするといふことが怪しからぬ、假空の事實を必ずしも排斥しないが、こんなのは科學を全然沒却し文化國民を愚弄するものだ、といふのである。ゲツベルス宣傳相の一擊で、私は遂に「キング・コング」を見損つたのであつたが、その時氣づいたことは、この禁止處分も、また此の映畫そのものも、ドイツでは何らセンセーションを起してゐなかつたことである。總じて、ドイツではアメリカ流の誇大なセンセーショナリズムは、國民全體に人氣のないこと夥しい。新聞でもアメリカの黄色新聞の編輯を模倣した「テムポ」といふ新聞が出てゐたが、ナチスになると間もな

く廢刊した。私はアメリカ新聞の影響の最も强い日本新聞界に育つたので「テムポ」紙が數あるドイツの新聞の中で最も新聞らしい新聞と感じてゐた。それで同紙の廢刊はナチ當局の彈壓によるものであらうかと思つてドイツ人に訊いてみたところ、この新聞の編輯ぶりはドイツ人からひどく嫌はれ、ナチス制覇以前に部數は激減し、企業として成立し得ないものであつたのだ。こゝに國民性の相違といふことが考へられる。同じ非常時局の下に國家の映畫統制であつても、日本では重壓氣分を緩和する笑ひの要素として歡迎される映畫が、ドイツでは國民を愚弄するものとして一擊を喰らふのである。「統制」の模倣は法律の條文を直輸入しただけでは、ものにならないのであると考へたことであつた。

その頃、伯林を訪れた秦豐吉氏とクールフエルステンダムの映畫館で「燃ゆる祕密」を見た、これはナチスのため外國に逃亡した左翼系作家シユテフアン・ツワイグの小說をバアリア社で映畫化したものだが、迫力をもつた藝術的感銘の深い映畫で、秦氏が「だから僕は藝術の魅力から一生脫し得ないんだ!」と靑年のやうな嘆聲を發したのを忘れることが出來ない。姦通をテーマとしてゐるので、日本に輸入は不可能だといふ話であつたが、伯林では、それから一年後やはり同

じ館で再度上映をしてゐたのを見かけた。しかし、反ナチスのツワイグの小説の出版も、その映畫化も、昨今のドイツでは御法度であることは、もちろんである。

當時、ナチス政府の映畫統制には多くの無理があつて、映畫製作業者と當局との間にイザコザが絶えなかつた、それは檢閲の主體をシナリオにすると、シナリオさへパスすれば、その映畫はよい加減なものであつてもいいといふことになる。ユダヤ人のスター連はその職から追はれるしシナリオはナチスに迎合したものだとなると比較的自由主義者の多い映畫界では、監督も俳優も氣を腐らせてしまふ、映畫企業家も政府の統制に氣分が壓しつぶされて金をかけた映畫をつくらない、從つて良い映畫は生れないのだ。

だが、宣傳相ゲツベルスは文化院總裁だけに、文化々々と口喧ましい、文化的に見て甚だしく見劣りがする低級映畫はドイツ國民の文化の程度を高めるよりも引下げるものだと一喝して、片つぱしから俗惡映畫の配給を禁止した。かうなれば檢閲の重心はシナリオよりも、出來上つたフイルムに移つて來たわけである、が、これでは映畫製作業者はたまらない、折角苦心して製作しても、そのトタンに檢閲で禁止となれば莫大な損害である、だから「檢閲はシナリオだけにしてくれ」、「イヤ出來上つた映畫そのものを見なくては」と兩者の意見の對立は一年ばかしも續いた。

ドイツ映畫ももうおしまひだといふ嘆聲を隨分聞かされたものであつた、しかしこの爭ひは映畫企業者の代表者も檢閲に參加せしめるといふ點で妥協をみた。

めざとい映畫製作者は、當時、戰爭物を盛んにつくつた、戰爭美談、戰場の英雄物語などを輕くこなしてゆけば當局の禁壓を食ふ心配はない、普佛戰役や歐洲大戰に題材を求めた戰爭鼓吹物が相當汎濫した時代を現出した、私は時折散歩のついでに場末の映畫館をのぞいて此の樣な映畫にぶつつかると、日本での劍劇物を思ひ出した。觀衆も小店員や女中階級が多く、スクリーンに躍るドイツ軍人が間諜となつて國境に逃れる場面に彼らが興奮を覺えるあたりは、劍劇物の殺陣に對する興味と同じである。

しかし日本の劍劇物は子供の觀衆が多いが、ドイツでは子供は大人の映畫見物に同伴を禁ぜられてゐるし、また一般の習慣もさうなつてゐるから、戰爭のクライマックスで子供がピーピーロ笛を鳴らして騷ぐ映畫館風景はドイツでは見られない。子供は日曜日の晝間、子供だけにゆるされた映畫を見物する、これも主として戰爭物で、「エムデン號の奮戰」などはドイツ全國を持ち廻つた映畫である。その他「ヴェルダン」のやうな大がかりな大戰回顧物や、ツェッペリン號のロンドン空襲や潛水艦の悲壯な最後をテーマとした戰爭物などは、子供も觀る許可を當局は與へてゐ

たが、時間は一定の時間に限られてゐた。

そのうちに、ナチス當局自らが製作したナチス宣傳映畫なるものが現はれた、「突擊隊員ブランド」がそれだ。左翼との抗爭時代からナチスの勝利までを、「ブランド父子」の思想的相剋を中心に劇化したもので青年ブランドが父親を感激させるところで終るのだが、共產黨を無賴漢扱ひにしてゐる點は却つて反感を催して効果の薄いものであつた。次いで出た「人權の爲に」は歐洲大戰後の混亂と腐敗の祖國の亡狀の中に誰が人權の爲めに正義と戰つたかを示すナチスの自己禮讃映畫で、これもやはり共產黨以下左翼をユデヤ人の黃金とスパイに躍る賣國奴として描いてゐる二年前には共產黨が公黨として存在してゐたのであるから、このナチスの手前味噌は觀衆には失笑を買ふ部分が多かつた。

その後ニユールンベルグの黨大會を扱つた「意志の勝利」をはじめナチスも段々に宣傳のコツを會得して來て、私が歸國する直前ラインの再軍備を主眼としたニユース的宣傳映畫は蓋しナチス映畫の白眉であつたであらう、大戰後の無氣力沈滯、ヴエルサイユ條約の桎梏、ユデヤ人の跳梁祖國の衰退を顧みない個人主義者それらと對照せしめつゝヒツトラーの擡頭を說き、制覇成つて

後の秩序整然たる國情と、躍進する國力の發展を大自動車道路や、ヒンデンブルグ號の雄姿、軍需工業の殷盛、農村の復興等の實景で描き出し、最後に國軍の一兵たりとも入るをゆるされなかつたライン地方に、旗鼓堂々民衆の歡呼をあびつゝ進軍するドイツ軍隊の威容を見せたのだからこれは百パーセント効果的であつた。一ケ月間、どの館へ入つてもこの映畫を見せられたが、その都度觀衆は萬雷の如き感激の拍手を以てこれを迎へてゐた。

ベルリンのオリンピツク映畫も多分ナチスの宣傳映畫の使命をもつものであるが、「意志の勝利」をつくつたレニ・リーフエンシユタール孃が總監督社長となり、ウーフアー以下各映畫社で撮影したフイルムを全部統合した上で編輯し、一九三七年の夏に全世界に配給するといふから、ナチス政府のお手際を拜見するのも面白からう。

文化映畫は昨今最も力瘤を入れてゐるもので、これには思想的な背景が少ない上に科學を愛好するドイツ國民の心情に適して歡迎されるので、非常によいものがドシドシ製作されてゐる、動植物の生態、海底の驚異、觀光映畫、尖端文明の解說等々、ニユース映畫の次ぎにスクリーンに映し出される文化フイルムは、ドイツ滯在者にとつて一つの樂しみである。

元來ドイツの常設館は、日本のそれと比べると概して小規模だが淸潔で靜かだ、映畫も一本立てゞ、それにニュースと文化映畫がつく。二時間以内で見終はるから便利である、ヘトヘトに疲れ切るまで幾本も映畫を見なければ見た氣分の出ない日本とは非常な相違があるが、これは生活程度の差異をも考慮しなければならぬ問題であらう。

映畫そのものもドイツ映畫などには外國への輸出が可能だから、金をかけて製作出來る。各國とも外國映畫は經濟的な意味からなるべく輸入しない方針であつても、大衆の心はよい映畫に吸ひ寄せられてゐる。ドイツでもナチスの精神に反しない限りは外國映畫はいくらも入つてくる。イギリスあたりはこの二三年來よい映畫をつくるやうになつたが、何といつてもアメリカ映畫で、日本へ來るほどのものは大概ドイツで見られる、ラヴシーンなどはカツトされる部分が少ないからその點は日本などよりフアンは滿足を與へられるであらう。

ドイツも輸出向きに時々よい映畫をつくる、「逃亡者」「マヅルカ」「君がため――ワルツ一曲」などナチスになつてからのものである。

外國にゐて、日本の映畫を見ることは、日本人にとつこは懷かしいよりも、辛いことであつた

フォックス社をはじめ米國やその他の外國會社のニュース映畫中に、日本がよく出て來る、われ〳〵が現代日本文化として自慢するものは、多くは歐米の模倣であるから、彼ら歐米人にとつては何らの興味も惹かない、從つてなるべく珍奇な風俗習慣を紹介しようとする、そこで淫祠邪教や貧民街や古風といふよりも、原始的な生活の一側面を撮つてゐる、場内がパッと明るくなつた瞬間白人等は映畫の生々しい印象をもつて、有色人種としての私達の顏をのぞきこむのである、その眼には明らかにまだ未開な東洋の一角を蔑むやうな意味をもつてゐる。

この種の映畫はニュースフイルムに限つたことではない、例へばフランスでつくつた「ラ・バタイユ」(海戰)はツオー街のカピトール館で三週間續映されたが、日本の海軍士官が妻を犧牲にしてまで外國武官から機密書類を盜み出すといふテーマがいけないばかりでなく、ロケーションに使はれた淸水港の實景そのものが、日本の實生活の低さを遺憾なく暴露したものである、軍艦の巨大なるに反して、紙と板でつくつた屋根の低い民家、戰爭と聞いて熱狂する民衆、アジアの民衆とはかくの如きものかと白人は思ふのである。伯林の日本人村では此の映畫をナチス當局によつて禁止して貰はうといふ輿論が起つた。しかし、皮肉にもドイツ人の間には此の映畫は頗る好評であつて、日本があんなにも威風堂々たる艦隊をもつてゐやうとは思ひもよらなかつた、改め

て日本人を尊敬する、といふのだ。廣重の浮世繪に描かれてゐるやうな未開な日本でないといふ印象を與へるだけでも効果はある、といふ議論も強く、「海戰」禁止論は頓挫したのであつた。人體百人一般の日本に對する觀念は、その程度のものである、決して日本でわれ〳〵が自惚れてゐるやうな日本ではないのである。

外人の撮影した日本に關する映畫が困り物であるばかりではない、日本人の手になつた劍劇物などを外國の地で見ることも閉口である。ウンター・デン・リンデン街のカメラ館で見た日本時代劇は映畫の拙劣低級はいはずもがな、多數の人を殺しておいて血刀を月光にすかしながめてニツと微笑むあたり、われ〳〵には何でもないが白人はキヤツと叫んで眼を蔽ふてゐる、私は外人に見せるための目的で聰明に製作された映畫が、日本からドシ〳〵出る日を待望せざるを得なかつた。その意味で、これは外人ではあるがドクタア・フアンクが、今度六十萬圓を投じて日本で撮影した「新らしき土」に期待する、新春早々ベルリンで封切られると傳へられるが、「海戰」の軍艦に驚嘆した伯林人の日本認識を、更に一層向上させてくれるであらうと思ふ。



ナチス制覇の日、組閣がすんだ後の少憩（首相官邸にて）
向つて右よりヒットラー、フリック、ゲーリング

V ナチス人物篇

一 ヒツトラーの横顔

ベルリンに「ハヌツセン新聞」といふのがある。ユダヤ人の豫言師ハヌツセンの創刊したもので、へそくりを溜めた婆さんや、良き婿がねを求めあぐんでゐるベルリン娘や、何かボロイ金儲けはと血眼になつてゐる株屋の兄ちやんなどが、その有力な讀者層を構成する。ハヌツセンは、これまで世界的政治家の運命判斷をやつて、それが奇妙に的中したために、彼の占ひと豫言は急に大衆的人氣を獲得して、その新聞は迷信深い人々の間に飛ぶやうに賣れたのだつた。このハヌツセン先生が人もあらうに、ヒツトラー首相の運勢判斷をあへてしたのである。

それはヒツトラー氏が一九三三年一月卅日、ドイツ共和國首相の印綬をおびて間もないころのことであつた。「ハヌツセン新聞」は堂々とその紙面のトップに大見出しで「ヒツトラーの天下は向う九十日しか持たないであらう」と豫言を掲げたのである。

ところが、それから日一日と加速度的に烈しさを高めてきた國民革命の狂嵐は、いつの間にかハヌツセン君の生ける姿をも、世人の視野から奪ひ去つてゐた。そして人々が彼を再び見出した時は、彼は死後一ヶ月を經た死體となつてポツダム近郊の松林のなかに横たはつてゐたのである。彼の豫言は不幸にして的中しなかつた代りに、彼のたつた一つの生命の方が、まさに九十日を出でずして、現世におさらばを告げてゐたのであつた。およそ占ひ師が自分自身の運命判斷だけは如何ともしがたいことは、西も東も變りはないものらしい。

だから――でもないが、最近は「ヒツトラーの天下はいつまで續く？」などの質問をおほつぴらに試みるものはゐなくなつた。僕もここでヒツトラー政權の將來を論議することは控へておくとしよう。否、とに角すでにヒツトラー政權成立してその基礎は動かぬものとなつてゐる。ヒツトラー首相はその率ゐるナチス（國民社會主義ドイツ勞働者黨）の勇將猛卒とともに、あらゆる反對派を左翼から右翼へ一撫でして、完全に一國一黨、水も洩らさぬ首相獨裁の新ドイツをつくり上

げてしまつたのである。その震動の餘波は遠近を震撼せしめつゝ全歐危局の焦點はおれのところだとばかり、ヨーロツパの眞ん中に大あぐらをかいてゐるのである。そしてヒツトラー氏を取りまく雲の如きナチス政客の群は今や世界の視線をあびつゝ、西に東に縱横の活躍をつゞけてゐる、この眼前の事實は、何人も無視するとは出來ない。

そこで思つても見給へ、十年前のいや、二、三年前のでよい「世界人名辭典」をくり廣げてみて、そこに今日のドイツを背負ふ人々の名前が幾つ出てゐるであらうか。

ヒツトラー氏の異常な進出ぶりに注目してゐた人は決して少くはなかつたでもあらう。だが彼の幕僚たるゲーリング、フリツク、ゲツベルス、フエーダ、ヘツス、レーム、エツプ、ローゼンベルク、ダルレ等々の名前のうちの一つでもを幾人が記憶にとゞめてゐたであらうか？ 實に、彼らこそはヒツトラー政權の確立とともに忽然としてわれ〳〵の前に脚光をあびて登場した人物であるのだ。その意味で、まだ日本にとつても餘り知られてゐない彼等について僕は若干の素描を試みたいと思ふのた。

御大ヒトラ首相の生立ちや、政治運動等に關しては、日本でもあまりにも多く語りつくされてゐることでもあらう。全く彼のもつあのナポレオン型の頭髮とチヤプリン型のひげ、そして險惡

な風雲を凝視する鋭いまなざし、――それらはすでに世界中の人々にとつてあまりにもポピユラーな存在となつてゐる。たゞ、われ〳〵が彼についてあまり知つてゐないことは、絶對的獨裁首相としての彼が、朝から晩までくり返してゐるその日その日の生活は、どんな風なものであらうかといふ點でなからうか。まだ獨身で（「政權と結婚した」と豪語してゐる彼は一生を獨身で押通すかも知れない）それから豪傑のくせに酒も煙草も口にしないといふ彼が――。

ヒツトラー首相の私生活の本據は南獨のミユンヘンにある。そこには彼の祕書がゐて、彼あての手紙を開封したりサインの依賴に應答したりしてゐる。ベルリンにある首相官邸にをさまつた時には、階上に起居して、執務する。この官邸には、彼の運轉手とその細君と、ミユンヘン生れの女中とがゐる。運轉手君といふのは大戰に從軍した軍人上りで、古くからのナチス黨員だ。そのほか、護衞係として嚴めしいS・A（突撃隊）の制服に身を固めた豪力無双の、雲つくばかりの大男がゐる。

朝の六時に、ヒツトラー首相は起床する。六時半が朝食。それから黨における彼の代表者、すなはち黨首代理のルドルフ・ヘツスを電話口に呼出して緊急事項の打合せをやる。七時と八時との間にヒツトラー首相は事務室に入る。そこでまづ完全に統制された彼の新聞に眼を通す。間も

なく各大臣の祕書官が書類を持つて伺候する。すべての問題は立ちどころにバタ〳〵と片づけられる。首相の机上に保留されるものは一つもない。日本のお役所にある「既決」「未決」と書いた書類入れの函はヒツトラー氏には無用なのである。

十時には宣傳省次官フンクの取次ぎで面會が初まる。外國の新聞記者の訪問には必ず通譯をつけ、一々速記させる。訪問した記者は後刻その速記に署名させられる。日本で首相を訪問するやうに手輕にゆかぬ。殊に近ごろはヒツトラー首相に限らず、政府首腦者の身邊嚴重で、會見は頗るむつかしくなつた。この點はだん〳〵ロシアのスターリンとそのスタツフの人々に近似して來たやうだ。

さて晝には外交官連の接見だ。その時にヒツトラー首相は禮服と着替へる。そして最後の外交官が挨拶して引退がるや、彼はヤレ〳〵とばかり大急ぎで禮服を脫ぐのだ。彼には固いカラーがとても窮屈でたまらないらしい。さういへば近ごろ見るヒツトラー首相は甚だ肥つて來た。下腹がつき出し、顏も一段と豐頰に、首のまはりもデツプリと一まはりは太くなつたやうだから固いカラーは一層窮屈なことだらう。

晝食には、いつも十數名の客と食事をともにする。その客といふのは、首相が午前中に誰彼の

差別なく氣まぐれに招待したものだ。爪に垢を埋めたザール地方の勞働者や、突擊隊員や、とに角汚れた靴のお客樣がその席に缺けることはない。

食事の間もヒツトラー首相は談論風發、內政問題以外のことなら何でも話題となる。彼の最も好きな話題は建築、自動車、音樂だ。その席に氣取つた、丁重な言葉遣ひの貴族臭味の人間がゐない限り、彼は方言を交へた談話が好きだ。

彼は前菜として客に野菜果汁、バイエルン風のオートミールを出す。これは如何にも禁慾主義、菜食主義の主人公をしのばせるものだ。だが彼だつて客にはワインも出せば、牛肉も魚も出さぬわけではない。食後にもし事情が許せば、彼は短かい睡眠をとる。

午後には政治に關する會議がある。飛行機はいつでも飛出せるやうに用意して彼を待つてゐる。彼の好きなのはミュンヘンとケーニヒスベルヒへの飛行だ。ヒツトラーは、しかし、外出を好まない。就寢は大概夜の十二時、映畫と音樂とは好きで出かけることがあるが、舞踏會や、夜の宴會はあまり顏を出さない。暇があれば書齋にこもつて、讀書に耽ける。

「ヒツトラー首相は新らしきクロンウエルである!」と、いつだつたか宣傳大臣ゲツベルスが喝破したことがある。さういへばトロツキーが「レーニンは、ナポレオンにも、ムツソリーニにも比

べることは出來ぬ。彼はまさにクロンウエルとロベスピエールとに比すべきだ。レニンは二十世紀におけるプロレタリア・クロンウエルである！」と叫んだ言葉が思ひ出される。黨を私兵化し、黨の代議士をシルクハツトや燕尾服で着飾る代りに、獨裁權力を守る武裝した鬪士に仕立て上げてゐる點では、レニンも、ヒツトラーもクロンウエルの故智に學ぶところ多大なものがあるであらう。ムツソリーニまた然りで、現代獨裁政治の研究は差當つてクロンウエルからといふところだが、果してゲツベルス宣傳相のいふ如く、ヒツトラー首相はクロンウエルをもつて任じてゐるであらうか。われら局外者から見ると、ヒツトラー首相はクロンウエルよりも、より多分に第二のムツソリーニたらんとしてゐるかのやうだ。右手を高く上げて敬禮するところも、突擊隊の組織、編成、服裝等に至るまで、殆どムツソリーニ式の模倣である。昨夏ムツソリーニ少年兵がベルリンを訪れたとき、ヒツトラー少年兵と並んで行進したのを見物したが、服裝から太鼓の叩き方までドイツがイタリーの眞似をしてゐるのにおどろいたくらゐだつた。」

二　ヒットラーの日本文化觀

萬事ムッソリーニ親分の模倣に腐心してゐるかに見えるヒットラー首相も、たつた一つムッソリーニと反對のことをやつてゐることがある。かつてイタリーのムッソリーニ首相はインド、ペルシヤ、エジプト、シヤム、日本等々のアジア青年學徒をローマに招待して、アジア協會といふのを發會させ、大いにアジアとの提携、有色人種との親善を高唱したものである。ヒットラー首相のドイツでは、この反對に、ユダヤ人排斥から進展して一般有色人種乃至輕蔑に力をそゝいでゐるのである。ヒットラー首相の腦裏には、白人種に對してわれ〳〵有色人種は一段と低いものだとの見解が先入主的にコビリついてゐることだけは間違ひない。その一つの證據にヒットラー首相が日本の文化に對して加へた批評がある。彼が一九二三年のミュンヘン一揆に失敗して、ランヅベルクの要塞監獄での禁錮生活中に執筆した「わが鬪爭」の中にそれが發表されてゐる。(この著の第二卷の方は日本でも譯出されてゐるが、まだ譯出されてゐない第一卷の三一八ページか

ら次のページにかけて、それがある。）すなはちヒットラー氏は人類を三種に區別する。文化創造者と、文化擔當者と文化破壞者と、そしてこの第一の文化創造者と呼ばるべきものはアリアン人種（吾人が白人と總稱してゐる人種）だけであつて、このアリアン人種が一切の人類文化の礎石と壁とを創造したものである。――と前置きして、さて詳しく說明する。

日本それ自身の文化に歐洲の技術を取入れたものだと多くの人々は考へてゐるが、實はさうではなくて、歐洲の科學と技術とが、日本人の特性によつて隈どりをされてゐるのだ。しかし、たゞこれだけの仕事をしただけでも、東洋人は一般人類の進步に追隨することが出來る。もしも今日以後、日本がヨーロッパやアメリカから取入れたところのアリアンの一切の影響が失はれてしまふならば、暫くの間は日本の科學および技術における今日の隆盛は維持し得るであらうが、しかし、數年ならずしてその源泉が涸れてしまひ、日本固有のものが殘る。さうなれば今日の文化は枯死し、そして再びアリアンの文化の波によつて呼びさまされた七十年前の眠りに還つてしまふであらう。日本は、もしもその源泉的な、創造的な人種的核心が失はれるか、あるひは、文化的領域における最初の發達のための刺戟を與へたところの外部からの影響が、その後になつて失はれてしまつたとしても、日本は一つの獨立した國民ではあり得る。だがし

かし、ある國民が、その文化を他の外國の民族から、その文化の根本的な基礎材料を得てをりそれを受けつぎ、攝取し、自分のものにつくり替へ、そしてその外部的影響が繼續しなくなつた後には枯死してしまふならば、人はかくの如き民族を文化の擔當者といふことは出來ても、斷じて文化の創造者といふことは出來ない。

ヒツトラー氏の文章は、その行動の直截味に富んでゐるのとは正反對に、またその出身がペンキ屋さんであり、兼ねて建築工であつたにかゝはらず、妙に難解な廻りくどい表現で綴られてゐるのが特徴だが、こゝで日本を評してゐることは、要するに「日本には獨特の、固有の文化なてものはない。あつても非常に低度なものだ、その文化の上に優れたアリアン族の西洋文化を借りて來たものだ」といふのだ。そして「日本國民は西洋文明のおかげて大きな顔をしてゐるが、この西洋文化の供給を西洋が斷つならばやがて德川以前の無智蒙昧の狀態に還つてゆくだらう」といふのである。

何を無智蒙昧といふのか知らないが、少くともヒツトラー氏の方が德川以前の日本民族が、いかなる文化をもつてゐたかについては全然無智であることだけは、これで諒解することが出來よう。そして迷惑にも、この無智の上に立脚した彼の日本観なるものが「われらの輝ける指導者」

の著書として、ナチス黨員にとつてはバイブルのごとく、はたまたコーランのごとく、全ドイツに百萬部二百萬部と物凄い賣行を示してゐることだ。かゝる誤れる日本觀の傳播が、日獨兩國民の理解の上にいかなる効果をもち來すかは、およそ想像にあまりがあるであらう。

三　支柱ゲーリング

ゲーリングとゲッベルスとは、ヒットラー首相にとつては、その右腕であり、左腕である。外國の新聞記者は、ヒットラーにおけるゲーリングは、ムッソリーニにおける獰猛外相グランヂだと批評した。ゲーリングがドイツの航空相を兼任し、ドイツ空軍の完成にその巨腕をふるはうとするのをみて、ゲーリングは、あたかもムッソリーニにおける航空相バルボだと評した外國紙もあつた。だが、實際のところヒットラーにおけるゲーリングの地位は、ムッソリーニにおけるグランヂやバルボ程度のものではない。ムッソリーニはグランヂがジュネーヴの國際聯盟から戻ると、駐英大使に辭令一本で逐ひやつた。ヒットラーとゲーリングの場合は、このやうなことは

あり得ない。少くともヒットラー首相にとつてはゲーリングは部下といふよりも兄弟に近い。

ゲーリングは、歐洲大戰の時は飛行少尉として出征した。そして主として西部戰線で活躍し、その生命知らずの猛襲には、聯合軍も散々惱まされたものだ。今日、ゲーリングの胸間に輝くポウル・メリト最高勳章はこの時のかれの殊勳を物語る。大戰後社會民主黨政府にあきたらず祖國改造の一念から政界に志した。そして一年生からやりはじめる氣で、ミュンヘン大學生となつて歷史と經濟學とを勉强したのである。そこにヒットラーと相識る機會が生れた。一夜ヒットラー黨の演說會に顏を出したゲーリングは忽ちヒットラーの雄辯に魅せられてスル〳〵とヒットラー黨の傘下に馳せ加つたのである。そして退役飛行大尉の肩書をもつて大學生ゲーリングが、黨において擔當した最初の仕事は突擊隊の隊長であつた。

一九二三年十一月九日――ヒットラーはこの日にミュンヘン一揆を起したが大望は畫餠に歸して、ヒットラーは捕へられてランヅベルグの監獄へ、突擊隊長ゲーリングは政府軍の猛射を浴びて負傷し同志にかつがれて國外に逃れ出た。イタリーで傷を養つてからスエーデンに入り、こゝで飛行會社の飛行士に雇はれ雌伏五年、一九二七年特赦令の恩典に再び懷かしきドイツに歸つて來たのである。

翌年、ゲーリングはヒットラー派の代議士となり、いよ〳〵政治家として本格的活動に入つた。しかしゲーリングが眞にヒットラー派の大立物として登場したのは、ナチスの重鎭グレゴア・シュトラッサーの策動を押へてからだ。シュトラッサーは、ナチスの全國組織部長で、かつ國民社會主義在鄕軍人團の首腦であり、なか〳〵大きな勢力をナチスの陣營内に扶植してゐた。かれの弟のオットー・シュトラッサーはナチスの最左翼ともいふべき急進分子で、「ナチオナル・ゾチアリステン」といふ新聞を發行し、ともすれば資本閥と妥協せんとするヒットラーに對して、絕えず辛辣な批判を加へてゐた。

ところが、この兄のグレゴアがどうしたはづみか、政權に焦慮した結果、シュライヘル將軍と結んで聯合內閣を起した。そのためにナチスの陣營は眞二つに割れるやうな危機に直面した。この時だ、シュトラッサー兄弟の對立者として實力を養ひつゝあつたゲーリングは奮起し、去就に迷ふ日和見黨員を叱咤して、逆にシュトラッサー一派を孤立せしめ、その勢力を黨外に逐ふとともにヒットラーおよびナチスの危機を救つたのである。

ヒットラー政權樹立をみるや、ゲーリングは一躍プロイセン首相に進み、從來比較的ナチスの勢力の弱かつたプロイセン國內に確乎不動の勢力を植ゑつけた。さらにかれは航空大臣とドイツ

國會議長とを兼ね、またお手盛で退役飛行大尉から一足飛びに歩兵大將となりベルリンのエリベルト街をゲーリング街に改稱させるなど「飛ぶ鳥をも落す勢力」とは、今日のかれのことをいふのであらう。

ゲーリングは明けて四十四歳、まだ前途春秋に富む身だ。見るから豪壯、エネルギーに滿ちたタンクのやうな巨軀は名實ともにナチスの大黑柱と思はせる。かれの唯一の道樂は、あの大きく廣い胸間に、勳章を一ぱいブラ下げることだ。これについて面白い話を聞いたことがある。

ある晩首相ヒツトラーは、芝居を見てゐるうちに、つひ睡氣を催してウトウトとなつた。そしてハツと氣がついたとき、舞臺では今し勳章をキラキラさせた肥つた軍人が登場してゐた。首相には、この勳章だけが眼に映じたのであらう。勳章――ゲーリング、首相は突然舞臺に向つて叫んだ。

コレコレ、ゲーリング君！　そんな恰好で街へ出てゆくんぢやないよ！

この話の眞僞は、僕は知らない。

四、智謀ゲッペルス

ゲーリングが腕なら、ゲッペルスは頭だ。前者が力なら、後者は智だ。世界最初の宣傳省をこしらへて、みづからプロパガンダの大臣と名乗るだけであつて、口八丁、手八丁、朝から晩まで、大わらはになつて宣傳戰に活躍する。

そのゲッペルスは、五尺足らずの小男である。おまけに少しばかりびつこだ。しかし、その面魂は精悍無比、同じく小さいが精悍で、哲人の風貌をもつインドのマハトマ・ガンヂに髣髴たるところがないではない。ゆゑに人呼んで彼をマハトマ・プロパガンヂといふ。

ゲッペルスは一八九七年十月廿九日ラインランドで生れた。だからこの間滿四十歳になつたばかりである。ゲーリングの四十四歳といひ、現在のドイツを牛耳つてゐる政治家は、いづれも青年乃至壯年であることは羨ましい。

彼がラインランドに生れたことは、彼が愛國者として起つことに大きな關係がある。何となれ

ば大戰後佛軍はラインランドを占領し、彼の故鄕はその軍政下にあつたのであるから、彼がまづ反佛運動に共鳴したことは首肯出來るのである。彼は一九二四年、同志の青年と祕密結社を組織したが直にラインを逐はれてエルバフイルドに行き、こゝで「國民の自由」といふ新聞を發行した。ヒンデンブルグの大統領選擧には最も活動し、その存在を認められて、ナチスのラインおよびルール地方支部の書記長に拔擢された。こゝで彼は後年ナチスが誇る最も堅固な支部組織の基礎をつくり上げたのである。この組織能力をさらに强力に發揮せしめるために、翌年ヒツトラー首領はゲツベルスをベルリンに派遣した。彼はそのベルリン進軍ともいふべき著書「カムプ・ウム・ベルリン」の中に述懷してゐる。

われ〳〵の運動はマルキシスト的流血煽動の暴力のもとに、筆紙につくしがたいことに堪へて來た。時には、まさに絕望の淵に陷らんとしたことさへしばしばであつた。しかしながら、結局は、常に憤激と憎惡とが高くわれ〳〵を支へてくれた。彼らの鬪爭手段たる殘忍性のもとにわれ〳〵が降服する芝居を、敵に打たせてはならぬために敗けてはゐなかつた。

血塗られた黨旗は決してぐらつくやうなことはなかつた。黨旗はます〳〵反抗的に、いよ〳〵決意的に、その旗手の剛腕に固く握られてゐた。

著書といへば、彼には「血種」「遍歴者」といふ二つの戯曲があり、またその闘争記録には「無名の突撃隊員」「レーニンかヒットラーか」「第三帝國への道」などがある。

僕はある席で、彼が下僚を叱つてゐたのを傍見した。小言をいはれてゐる男といふのは、彼よりも遥かに大きなエミール・ヤニングスを思はせるやうな巨大漢であつた。その男が自分を仰ぎ見ながら小言をいふゲツベルスの前に、首を縮め、猫背になつて、鞠躬如として拝聴してゐるのである。少し漫畫になりさうな光景ではあつたが、僕はそのときのゲツベルスの顔を見た瞬間、ハツと思はず心を打つたあるものがあつた。相手を下から睨据ゑた彼の眼光の鋭さ！　實に威壓的な凄い形相をしてゐるのだ。このやうな恐ろしい顔で一言あびせかけられただけでも、大概の男は參つてしまふであらう。

また、ドイツが國際聯盟脱退の主旨を、外國新聞記者團に通告した晩のことであつた。會場の宣傳省の大廣間は、外相ノイラート男を取りかこむ各國の記者のざわめきで、異常な興奮の渦卷を呈してゐた。それは今にも第二次世界大戰が見舞つてくるのではないかといふやうな緊張した雰圍氣の中にあつた。

このとき、ゲツベルスは、ノイラート男の見附役でゝもあるかのやうに、一隅にグツト腰をお

ちつけて、視線を外相からそらすことなく、悠々としてシガーの煙を輪に吹いてゐた。その小軀に宿る底知れぬくそ度胸、いや、惡度胸とさへいひたいほどのものがそこに見られた。

近ごろ、彼とゲツーリングとの仲が面白くないと傳へるものがある。またあるものは、ヒットラー時代は過ぎてゲッベルスの時代が來たともいふ。外交といひ、國民精神作興といひ、敎育といひ内治といひ、選擧といひ、昨今ナチスの政策でゲッベルスの關係せざるものなく、關係すれば必ずその中心にゲッベルスがゐる。宣傳大臣といふ多角的な地位がそれを然らしめる以上に、ナチスの頭腦トラストを一人で引受けた觀のあるゲッベルスその人の實力の致すところだ、といふのである。

しかし、これは割引して考へねばならぬ。今や、政治工作一まづ完了し、文治工作のみ前進を繼續しつゝあるとき、主としてこの方面の得意なゲッベルスの旗印が、ひとり無人の野を行く觀のあるのは當然だ。これをもつてゲッベルス時代來るとのみはいひ切れない。ヒットラーあつてのゲッベルスであり、ゲーリングあつてのゲッベルスであると、僕は思ふ。が、少くとも現在のナチスは、ゲッベルスを無視しては決して理解することが出來ぬであらうことだけは確かだ。



上段右より農林食糧大臣ダレー・ナチス經濟綱領起草者フエーダー
中央はバイエルン總督エツフ將軍・下段右より國立銀行總裁シヤハ
ト博士・宣傳大臣ゲツベルス

五、フリック內相とエップ大將

ゲーリングとゲッベルスの二人をのけると、あとはいくらか存在が小さくなる。だが、まだ將來のある彼等のことだ。一應は列傳風に紹介すべきが禮儀であらう。

まづ內相のフリック氏だ。彼は文相も兼ねてゐるが、それらの政治的經驗は、彼が一九三〇年チューリンゲン政府の內相をつとめたときに十分に小手慣らしがしてある。彼は宗敎の尊崇と祖國愛の高調を二大方針としてのぞみ、あの「西部戰線異狀なし」のごときは發禁にするのみか、フイルムなども差押へて大彈壓を加へた人物だ。ワイマールの博物館にある赤い文化資料などは亡國的だと一掃してしまつたので、當時まだ社會民主主義を棄切らなかつた中央政府との間に幾度か衝突を來たしたこともある。

ナチスの政府となつてからは、全ドイツの內相だ。舞臺が廣い。彼はその地方政權の奪取、中央集權への統一化に苛烈な手腕をほしいまゝにしてゐることは今さら述べるまでもない。

イガ栗頭の、一見平凡なおやぢといふに過ぎない風貌ではあるが、コチ〳〵の國粹派で、かつて警察官としてミユンヘンの刑事課長をしてゐるころ、ヒツトラー派の一揆を援助して、警官隊の活動を逆に制肘したといふエピソードもある。そんな關係で古くからナチスの一員と見られ後にはこれに加盟し、一九二八年にはヒツトラー派の代議士十二名（これをヒツトラーの十二使徒と稱す）のうちの一人として院内總務の重職についてゐた。ゲーリング、ゲツベルスとならんで三羽烏と謳はれるゆゑんである。

現在バイエルンの行政總監フオン・エツプ將軍は、ドイツ軍閥中のナチス系で、以前にはヒツトラーに代つて大統領選擧にかつがれるだらうとの噂さへあつたほどである。今は中央の勢力から離れてゐるようにみえるが、ナチス發祥の南方ドイツの重鎭として聲望を一身に負うてゐる。彼のひいき連中にいはせると、北にヒンデンブルグ元帥あり、南にエツプ大將あり、といふことになる。

彼は一九〇一年に支那の拳匪叛亂のときに、ドイツ武官として支那へ行つたこともあり、その後ドイツの植民地鎭壓にはしば〳〵ひつぱり出されてゐる。歐洲大戰には、大概の大會戰に參加し戰功をたてた。戰後ポーランド國境が分割されるのに憤慨して、政府の弱腰にあきたらず、反革命の急先鋒となつて共産黨彈壓に努力して來た。その點でナチスと一脈通ずるものがあり、後

革命の急先鋒となつて共產黨彈壓に努力して來た。その點でナチスと一脈通ずるものがあり、後にナチスの一員となつたのである。歷代ドイツ政府は、軍閥の支持を得ない場合は殆ど崩壞した。ナチスの對軍閥政策の方面にエツプ將軍の演じる役割は主要である。その意味で、彼の存在は特筆されねばならぬ。

ナチス經濟理論家ゴトフリード・フエーダ氏は比較的有名で、知る人も多いから省くが、彼が在野時代叫びつゞけて來た經濟理論なるものは、今日全く顧みられず、彼もナチス傍系のシユミツト經濟相の下で次官をつとめた後退官してしまつた。資本主義と握手したナチスとしては當然とはいへ、少からず淋しい。彼の返り咲く日は何時であらうか？

六、ローゼンベルクとヘツス

ナチス外交部長のアルフレツド・ローゼンベルクも比較的有名だ。彼がイタリーのフアシスト代表と會見して、露國の分割密議を遂げたとか、ロンドンを訪問して無名戰士の墓に詣で、花輪

を捧げたところ、ナチス嫌ひのロンドン兒に花輪を盜まれただの、有色人種蔑視の外交政策を黨大會で發表しただのと、新聞を賑はしてゐる。

彼は一八九三年の生れだからまだ若い。黨外のノイラート外相に代つて早くその手腕を發揮してみたいであらうが、外交は最も愼重を要する。海外に信望ある元老ノイラート男を凌いで外相たるには、まだ一段の修業が必要であらう。

とはいへ彼も相當の人物ではある。エストニアに生れ、リガとモスクワの工科大學に學んだ技術家出身であるが、ユダヤ人排斥とボルシエヴイキ攻擊の果敢な鬪士として青年時代から鳴らしてゐた。著書も「ユダヤ人の移住の足跡」「ロシアのペスト」「國家の敵ユダヤ主義」など、殆ど一貫して彼の立場を鮮明にしたものばかり。

歐洲大戰の時は、露國、ポーランド、ドイツと、東歐諸國を股にかけて明躍、暗躍したものだ。ドイツにヒツトラーありと聞いてその傘下に加はり、ミユンヘン一揆のとき、領袖ケルナの屍を越えて突進し、警官隊の一齊射擊にピストルを揮つて立向つた勇猛な一面をもつてゐる。一九二三年にドイツ國民の國籍を獲得し、ナチスでは黨の機關紙フエルキツシヤ・ベオバハターの主筆として重きをなした。

日獨間に南洋委任治統領問題がもち上つた時、われ〳〵日本新聞記者團は、ナチス外交部長ローゼンベルクにインタヴユーを行つたが、そのときの彼の態度など、われ〳〵に好感を與へたものだつた。彼は一言も外交辭令を口にしなかつた。そして學生のごとく率直に眞摯に、しかも異常な熱情をもつてわれわれに語つた。そしてこんなこともいつた。

日本は三國干渉事件のドイツを云々するが、然らば日本はドイツに對してどんなことをしてゐるのだ。大戰には聯合國に加擔してドイツを敵としたではないか。また最近では英米の尻馬に乘つて、ドイツにとつては死活の問題であつた上部シレジア地方の分割問題について、日本はドイツが賴みにしてゐた最後の一票を投じてドイツに不利な解決を與へてしまつたではないか。このときほど、われらを悲憤せしめたものはないのだ。滿洲を生命線だと主張する日本はドイツの生命線を英米に引きずられて放棄せしめたではないか。常に大國の鼻息をうかゞふ日本の外交こそ反省を要すべきだ。

彼は膽太きものゝごとく、がつしりと落ちついてゐる。彼は率直であるが一本調子に過ぎて遠謀深慮に缺くる憾みがある。ナチスの外交が振ふときはすなはち彼の人物が圓熟したときであらう。

最後に、近ごろ新らしく無任所大臣として入閣したルドルフ・ヘツスは、かつて黨の人事部長であり、兼ねてヒツトラー氏の祕書であつた。ヒツトラー氏が天下をとつてからは、黨における ヒツトラー氏の代理となり、隱然たる勢力を黨の內外にもつてゐる。彼の特徴的な顏はドイツ人としても異例に屬するであらう。太く八字型に下がつた眉も印象的だが、どことなく東洋的な感じを與へる顏だ。

彼の生れはエジプトのアレキサンドリア市、富商の息子で、十四歳まではその地で育てられてゐた。しかし、彼がれつきとしたアリアン族であることは、父がフランク族であり、母はヴンジーデルに發祥するスイス人だといふことを彼の人物傳にはことわつてある。彼を駱駝に乘つた隊商の倅だと思つたら叱られるわけだ。

彼は父の商賣を繼ぐ意味でラインのゴーデスベルグに遊學した。ところが間もなく歐洲大戰となり彼は父の祖國を愛するあまり志願兵となつて、ミユンヘンのバイエルン歩兵第一聯隊に屬して從軍した。西部戰線やルーマニア戰線で幾度か負傷し、大戰の終りごろには少尉に任ぜられてミユンヘンの親衞隊の補充部隊に派遣された。

奇遇といへば奇遇だ、この補充部隊には後の宰相ヒツトラー氏が一兵卒として屬してゐたの

だ。そして共に戰線に出たこともあつた。そして兵卒ヒツトラーは毒ガスの洗禮を受けて失明しかけたこともあつたが、いまだこの兩者は語り合ふ機會はもたなかつた。このころのヒツトラー氏は、今のようにチヤプリン型のひげではなく、サーベルのように長い八字ひげを顏一ぱいに生やしてゐたから誰か今日あるを豫想しただらうか？

ところが、やがて休戰、講和、革命と、眼前の世相はめまぐるしいテンポで推移した。兵卒ヒツトラー氏は直に反革命兵卒委員會を組織して政治運動に走り、少尉ヘツス氏は再び商人を志して經濟學と歷史とを勉强し、かたはらミユンヘンにあつた國粹團體ツーレ社に加盟して赤色政府に對する反擊鬪爭に參加したりしてゐた。そして偶然ある晩右翼愛國團體の會合で、ヒツトラー氏と顏を合したのが機緣となつて、彼は商人の志望を一擲すると共に、ナチス黨員としての戰鬪的生活が展開されたのである。

例の一九二三年のミユンヘン一揆では、彼は本部のビヤホール・ホーフブロイに立籠つて、警官隊と社會民主主義者を向うに廻して大亂鬪を演じビール罎でしたゝか頭を毆られた。その裂傷は今日二錢銅貨大の禿となつて、その痕跡を頭上にとゞめてゐる。

彼、本年四十一歲。閣僚中ゲツベルス宣傳相に次いでの年少者だ。將來ある人物として記憶に

とゞめておいてよいであらう。

七、兵團指揮者五人男

全國民のナチス化！　このモットーをふりかざして兵團化されたナチスの全機關は活潑な活動をつゞけてゐる。男子七歳になると、少年兵團に入るのだ。十二歳から十八歳まではヒットラー青年兵團で鍛へ上げられる。これは學生でも、徒弟でも區別はない。かくてヒットラー青年團を出發點として、あるものは勞働奉仕兵團に入り、荒蕪地の開拓、灌漑などに共同奉仕の汗を味はひ、出でて一定の職につけば、勞働戰線の戰士として組織される。またあるものはヒットラー青年團から國防軍に入つて兵士となり、あるものは突擊隊（ＳＡ）に入てナチスの支柱として戰つふ。老いたるものはＳＡ豫備隊、後備隊に編入される。つまり彼の一生は兵團化されたナチスの組織の一部として終始變ることはないのである。女性ならば、少年兵團およびヒットラー青年團の少女部に編入され、長じては「女は家庭へ」歸らしめられるのだ。

ナチスの完備した新陣容が、以上の如きものであるとすればその各種兵團を卒ゐる指揮者を、ナチス・ドイツ政界の新人として一瞥しておくことも必要であらう。まづ先陣は少年兵團、青年團の指揮官だ。最近「全國青年指揮者」が出來て、以上の二つのほかに勞働戰線の青年部をも統轄し、全國スポーツ部とも連絡をとつて青年のスポーツ教育をもその管制下においたが、この次代ドイツ國民養成の總指揮官たる人物は誰あらう當年廿八歳の若武者バルドウール・フオン・シユラツハ氏だ。彼はワイマールの宮廷劇場の總監督の子として生れ、祖父はまた名優として名のあつた人だといふ。見るからに秀麗明朗、しかも仕事には獻身的で、深慮をもつて聞えてゐる。わが木村長門守といひたい男だ。ナチス學生運動に出發し、一九三二年以來ヒツトラー青年團の隊長である。詩人的情操も豐かで、戰線詩集の數册がある。

次は勞働奉仕兵團だが、現在團員廿五萬、これを卒ゐるのは國防政策の權威として聞えてゐた退役陸軍大佐コンスタンテイン・ヒール氏だ。一九二四年退役とともにナチスに入り、長らくその勞働奉仕部長として研究を積んで來た。失業者を救濟訓練し學生や青年を訓練して階級の區別なく國家に勞働奉仕せしめるといふ。彼の卒ゐる兵團は現在の自由志願制を脫して、義務的の國民奉仕となれば、その勢力はその新らしい企てとともに各國注目の的となるであらう。勞働戰線

は各種勞働組合を打つて一丸としたもの。この戰線の勞働戰士一千六百五十萬人と注せられ、これに官吏および音樂や文筆の職業人、企業家を加算すると二千二百萬人を數ふ。この廣汎な勞働戰線の指揮官は化學工業技師出身のロバート・ライ博士である。丸々した體軀、裕福さうな顏つきで、インテリらしい態度を失はないが、しかしその實頗る闘爭的氣魄に富んだ一個の闘士である。大戰に航空兵として出征し、西部戰線で重傷を負うたこともある。一九二五年南ライン地方のナチス支部長となり、主として重工業地帶の宣傳戰に活躍し、その雄辯と熱とで多數の黨員を勞働者層から獲得した功勞者だ。現在はナチス政治機關總長をも兼ねその存在を重からしめてゐる。

清黨事件でレーム隊長を失つた突擊隊（ＳＡ）は、新たにヴイクトール・ルッツエ氏を迎へた。彼は突擊隊の生え拔きであるが、眞面目で危つけがなく、二百五十萬の闘士を卒ゐるには適當であらう。先ごろまで突擊隊地方支部長のかたはらハンノーヴア地方の警視總監、知事をしてゐたが、その堅實な治績を買はれて一躍この重職に就いたのだ。獨眼龍だが、睨みは相當利いてゐるはずである。

以上の各種兵團のほかに、親衞隊（ＳＳ）がある。隊員卅萬と傳へられ、淸黨事件後ゲーリング

航空相の掌握する國家祕密警察の仕事を親衛隊が兼務し、その護國隊としての面目をそなへて來たが、この隊長ハインリヒ・ヒムラー氏は、ヒツトラー氏から最も信任されてゐる一人だ。一九二三年十一月のヒツトラー氏の起したミユンヘン一揆には、彼はバヴアリヤ陸軍省占領の一隊の旗手として奮鬪した。その後親衛隊に所屬し、ヒツトラー氏への一貫した忠誠で今日の地位を得たものである。

すでにナチスがドイツであり、ドイツがナチスである今日、一介の伴食大臣たるよりは、ナチスの根幹たる諸兵團の指揮官をもつて任ずる方が、實際的にはより强大な勢力をもつものといひ得る。その意味で以上のライ、ルツツエ、ヒムラー、ヒール、シラツハの諸氏はナチス兵團五人男とでもいふところであらうか。

八、ナチス經濟とシヤハト博士

少し話は古くなつたが、一九三四年八月七日、東プロイセンのタンネンベルグ古戰場で、故ヒ

ンデンブルグ大統領の國葬のあつた日の午下り、葬儀が終るとドツと數萬の會衆が、葬場から驛に向つて殺到した。何しろ涯しない野ツ原の一角にある田舍驛のことだ、十分おきに臨時列車を頻發させてゐるが、これだけの人間を短時間にベルリン方面に運び去ることは容易でない。僕は揉み合ふ驛前の雜踏を木蔭に避れて、今し彼方のプラツトフオームで車窓から上半身をつき出した猛將マツケンゼン元帥が、握手を求める人々に愛嬌をふりまいてゐる矍鑠たる姿に見入つてゐた――と突然耳の傍で「何だつてこんなところへ自動車なんか乘り入れるんだ！自動車ならあそこに溜場が定めてあるぢやないかツ！」と怒鳴りつける聲がした。

見ると、先刻から汗みづくで交通整理に當つてゐた褐色服の突擊隊員が、黑塗りの高級自動車を叱りつけてゐるところだつた。その自動車の陽に光るガラス窓の中には、シルクハツトの下に見覺えのある顏が微笑んでゐた――。

やがて、自動車が指定された場所へ走り去ると、近くにゐた警官がとんで來て「オイ君！今のはシヤハト博士だぜ、注意し給へ！」といふと「そいつあ知らなかつた――」と、聞かされた突擊隊員はひどく恐縮して、大男に似ず首を縮めて苦笑してゐた。

大臣が交通巡査に叱られてゐる圖なら日本でも珍らしくない。だが、ナチスにあらずんば人に

あらずのドイツで、ナチス要人以外は眼中にない突撃隊員が、その名を聞いただけで、こんなにも恐縮する光景はちよつと珍らしかつた。なるほどナと、最近急に勢威を加へて來たシヤハトの地位を肯定せざるを得なかつたのだ。

一口でいへば、シヤハトはドイツの高橋是清だ。もちろん達磨翁より年は若い。しかし國立銀行總裁として非常時ドイツの財政を一人で背負つて來た彼が、更にシユミツト氏の後をうけて經濟大臣を兼ね、も一つプロイセン經濟相をも兼ねて、ドイツ全國の財政經濟に關する獨裁權を一手に掌握したのであるから、彼これは經濟國難に直面せるドイツの大黒柱といふべきだらう。もしそれ、國債問題をもち出すなら、彼は大借金國の大番頭として、片やイングランド銀行總裁モンターギユ・ノルマン氏と共に兩横綱を張る世界的財政家だ。ナチスも目下はシヤハト樣樣であるそれだけの尊敬と信用とが無ければ、誰も引受け手のないナチスの經濟政策を引繼いで、難局にあるドイツ經濟の起死囘生の大役を買つて出る者は無からうではないか。

が、一にもシヤハト、二にもシヤハトといふと、ドイツには大藏大臣がゐないようだが、ゐることはゐるのだ。パーペン、シユライヒヤー、ヒツトラーと三代の內閣に歷任してゐるフオン・クロージクといふ立派な大藏大臣がゐる。しかし、ドイツの藏相は日本の藏相ほど の權威がな

い。金利引下げ問題や外國との國債問題および貿易勘定等の重要なる政策の決定は、すべて國立銀行總裁卽ちシャハトの手にあるのである。フォン・クロージク藏相は、いはゞロボットでナチス出身の經濟理論家達が勝手に引掻き廻すことから起る金融界の恐慌に對するブレーキの役目をつとめてゐるに過ぎないのだ。彼が藏相の椅子に腰を下ろしてゐる限り、國內も國外も財界はある程度の安心が保てるのである。彼は自分の現在の地位をチヤンと知つてゐるから、あへて表面に出しやばらない。生粹のナチス黨員で大藏次官のラインハルト氏が省務の一切を切り盛りして躍起になつて活動してゐる。

大藏大臣がこのような存在だとすると國立銀行總裁で經濟大臣を兼ねたシャハト博士の存在が益々光つて來る。序でに大藏大臣をも兼ねてゐるような調子で、ドイツ經濟全局面にシャハトの一擧手一投足が大きく投影するのだ。從つてシャハトの動きをみることが、今度のドイツ經濟界の動向を推察する鍵だといふことが出來やう。

ナチスの政策は、その政治的方面において著しく進展した。全國黨大會で放たれたヒツトラー總統の言をかりていへば「ナチ黨がドイツ國家の全權力の把持者」となつたのである。が、それに反して經濟的方面では實に迂餘曲折のジグザグ道を辿つて來た。單に人事の異動から見ても經

濟大臣は一年有半の間に三度代つた。最初の經濟相フーゲンベルグ氏は舊國權黨首で重工業資本家として重きをなしシェール新聞會社やウファ映畫會社の社長をも兼ねた大立物だつたが、ヒツトラー內閣には五ケ月の勤めで詰腹を切らされた。次いで舞臺に現はれたのがSS（親衛隊）の黑い制服に身を包んだシュミット博士であつたが、彼こそは外樣大名ならぬナチス黨員であるからには、經濟政策にナチス的の新機軸を出すかと思ひきやフーゲンベルグとさして異ならない手際だつた。それもそのはず、彼は親衛隊の制服こそ着てをれ、勤め先はドイツ第一の保險會社アリアンツの重役樣なんだ。保險事業といへばナチスのお氣に召す「創造資本」でなく、その仇敵視する「掠奪資本」に屬するものだ。この人から革命的の經濟政策を望むことは望む方が無理な話である。

先ごろ、經濟省のお役所仕事に一任せず、經濟を經濟界の手に返す主旨からまた經濟界整理の必要から、生れた經濟界十三部門の組織に際して、シュミット經濟相は全國經濟指導者に大電氣會社重役のケスラー氏を任命したが、ケスラー氏はアウタルキスト（自給自足論者）の傾向强く、遂にシュミットと意見の衝突を來して辭職してしまつた。シュミット博士の方もあれやこれやで面白くなく、やがて博士自身が經濟相から逃げ出す結果となつた。辭職の名目は、病氣任に堪へ

ず、六ケ月間を國立銀行總裁シヤハト博士に城を明け渡すといふのだつたが、實際の理由は、刻々惡化してゆく輸出を促進するために、間接的なマルク下落の手段を講ぜんとしつゝあつたシュミツト經濟相の意見がシヤハトおよびナチスによつて阻まれたからである。

——かくして三度目の經濟相としてシヤハト博士が、ドイツ經濟金融界に君臨することとなつた。

こゝらでヒヤルマール・シヤハトの經歷をちよつとふりかへつてみよう。彼は一八七七年の生れ、大學を出て直ぐ銀行界に入り、ドイツ五大銀行の一つの重役にまでこぎつけたが、その當時インフレの後をうけた一九二三年のマルク安定に協力して功あり、翌二四年にドイツ國立銀行總裁となつた生え拔きの銀行屋さんである。ナチスが非難の總攻擊を集中したヤング案を生んだ一九二九年のパリ賠償會議に、彼がドイツ代表として出席したことは、彼の今日と思ひ合せて皮肉である。

一九三〇年、時のブリユーニング內閣のデフレーション政策およびこれとならんだ輸出促進政策に反對して、彼は國立銀行總裁の椅子を投げ出したが、このころから彼は急速にナチスに接近し、フーゲンベルグのドイツ國權黨とナチスとの聯合政權の讃美者となり、ヒツトラーの經濟政

策は決して不穩でないことを力說して内外の實業家連の間を說き廻り遙々海を渡つて米國にまで遊說した。そしてヒットラー內閣成立とともに、直ちに迎へられて國立銀行總裁に返り咲いたのである。

それでは、シヤハトの經濟政策如何と開き直つていふと、彼の追求してゐるところのものはインフレ的政策に依る國内的景氣の回復と、マルク價の安定との二つに要約出來る。

まづ勞働增進、產業振興のために國家が振り出す長期限の手形に對して、その割引方を引受けた。現在、その勞働增進手形の發行高二十五億マーク、そのうち十七億シークはシヤハトが總裁たる國立銀行の所有である。シヤハトがこれだけの信用を國家に與へたお蔭で、國家は赤字公債ならぬ赤字手形でドイツの產業をこの一年間に最惡期に比較して約六十%も文字通り振興することが出來たのだ。

が、そこまでは、赤字でも何でもまあよかつた。ところが、もう一方のマルクの安定の問題、これにはシヤハト先生も四苦八苦の難航をつゞけてゐる。英米や日本の對外貿易が、爲替安の關係で榮えてゐるのに反比例して、ドイツの對外輸出は日一日と惡化する一方だ。にも拘らず國內產業の回復で原料その他の輸入は逆に嵩む一方である。その結果、國際收支の帳尻はマイナスと

なつた。マルクは下落するのではないか？疑惧の氣配が國際市場に氾濫した。だが、マルクの安定はシヤハトの、またヒツトラー政府の御題目である。何はさておいても、これにしがみつかねばならぬ。

そこで、まづ第一に各國に借金の利子元金のモラを宣言した。次いで貿易收支の帳尻好轉のため輸入の制限に乘り出したのだ。現在政府の御達示によると、全輸入品が二十五の輸入監督所の手に嚴格に統制されて、國際收支の平均をとり、マルク防衛に大いに努めることになつてゐる。しかし原料の輸入意の如くならずとすると、逆に國內產業の足なみが亂れ、折角赤字手形で呼び起した國內景氣に惡影響する。こゝにおいてかシヤハトは二兎を追うて失敗し、ヂレンマに陷つたのだ。

日英米が爲替安をもつてゐる今日、ドイツの試みた爲替安定と國內インフレとは、凡そ組み合せ難い代物であつた。シヤハトの政策は此の矛盾を物の見事に暴露した。が、今さら轉向して平價切下げをやつてみても燒石に水であるから、一層マルク價維持の政策を强行してゆくことにシヤハトとナチスは腹を決めてゐるのだ。

さて、全輸入を統制した以上は、國內の原料使用量をも統制せねばならぬ（たとへば紡績業は

四時間の操短を法律的に命令された)、原料不足から價格騰貴でも起ると輸出はます〳〵不可能となるので、御布令で物價取締りをやらねばならぬ。かくしてドイツの輸入界を襲つた「計畫經濟」の黑雲は、今や國內經濟の上にその暗影を投げんとしてゐる。原料などはドイツの發明魂で何とかして代用物位は造つてみせると力んでみたところで、今直ぐ綿・羊毛・ゴム・輕金屬その他が天から降つて來るわけにいかぬ。さうだとすれば、ドイツ經濟界は國立銀行總裁兼經濟大臣たるシヤハト博士の統制を受けて、非常時の姿勢をとらざるを得ないこととなる。かくてシヤハトは、「經濟獨裁者」の名の下に登場しなければならぬ。

だが、これをみてナチスが全經濟の統制に乘り出したなどと考へることは大きな間違ひだ。私經濟のイニシアテイヴを認め、利潤を承認し、國家自身が經營をやつてはならぬとしてゐるナチス自身がかく計畫經濟を或る程度まで行つた所以のものは、現在のところこの强制された非常時の一本道を行く以外に道がないからである。

シヤハトは冷靜で、しかも强靱な性格の男だ。上品な銀行家のオブラートに包んだ烈々たるドイツ魂の所有者だ。彼は實際家、實行家であつて理論家ではない。しかし、熱意ある研究家で、かつ雄辯家だ。彼は政治家でも、またもちろん政黨政治家でもないが、彼に政治家の素質のあるこ

とは何人も認めてゐる。或る批評家は、彼が欲したならば卓越した戰略家になり得たであらう。といつてゐるが、彼が攻め立てる債權國の御歷歷を向うに廻して、有無をいはせずモラの一手で切拔けんとする强引の態度といひ、崩れんとするマルク貨をナチスと組んで最後の一線でグッと食ひとめてゐる手際といひ、この言葉を或る程度まで裏書きする。

が、僕は、何人にもまして、彼の別の一面をこの際高く評價する。それは彼がナチスの金融政策を、ナチスに文句をいはせる餘裕を與へず資本主義の軌道に引戾してしまつた點だ。換言すればシャハトこそは、夢想的なナチスの金融理論を匡救した人物なのだ。

「利子奴隷の粉碎」のスローガンを掲げて中產階級や、また勞働者層に迄もナチス的社會主義に對する憧憬と信仰とを植ゑつけた時代は過去に屬さなければならぬ。銀行を「高等的ユダヤ的資本の警句で攻擊すること貨幣の基礎は財物にあるとして金を度外視すること、などは國民經濟イロハを知らぬものであることを敎へて、ナチスの金融政策を資本主義の正統的金融政策に轉向せしめる——この重大使命をドイツ經濟界乃至金融界から託されて、ナチスに接近し、箏に、ロに實際的活動に倦まず撓まず實現して行つたのが、實にシャハトその人であつたのだ。

ナチス黨の經濟原論の創始者として、またヒットラーがその著書「わが鬪爭」の中で我黨の

「綱領製作者」と呼んだ例のフェーダー氏が、經濟次官の職を與へられながらも段々その影が淡くなつて、今回のニュルンベルグ黨大會には何處にゐたのかその存在さへ疑はれるに反し、シャハトが益々その姿を大映しにして國民大衆の前面に現はれて來るゆゑんのものは、ナチスが權力掌握を一轉機として、如何なる方面に進んでゆくかを物語る最も大きな指標である。（一九三四、九、二七）

九、エッケナー博士訪問記

晩秋の一日、記者は南獨フリードリツヒスハーフエンを訪れて、大空の豪華船ＬＺ１２９號——かつて日本の空に現れたツエッペリン伯號の二倍もあるといふ——の巨姿を細部にわたつて觀ることを得たが、同時にその建造者たる世界的巨人フーゴー・エッケナー博士にも親しく接してその抱懐する航空文明の現在および將來への展望についてつぶさに博士の抱負を聽くことが出來た。フリードリツヒスハーフエン——それはドイツとスイスとオーストリヤとの國境に挾まれた

細長い國際湖ボーデンゼーの北岸にある閑靜な小湖港である。ボーデン湖は丁度わが國の琵琶湖ほどの大きさでもあらうか、鏡のような湖面にはスイスアルプスの銀嶺が美しく映じてゐる。エツケナー博士は青年時代この湖畔に病を養ひつゝ歴史と經濟學を研究するうちに、この土地にあつて永年飛行船の發明に粉骨碎身してゐたツエッペリン伯と相識り、遂にその片腕となつて働き、伯の沒後はその後繼者となつたのであつた。故ツエッペリン伯時代から今日まで、あらゆる型の飛行船がこゝで發明され研究された。ＬＺＩ２９號の名稱はＬＺ(Luftschiffb Zeppelin)第一二九番目のプランによる最新型であることを意味してゐる。

ツエッペリン飛行船製造會社は湖畔の西郊にある廣大な草原の眞中に聳える大格納庫二つ――少し小さい方が目下南米航路に就航中のＬＺ１２７號の分で大きい方が今まさに建造中のＬＺ１２９の分である。後者の格納庫に入つてみると尨大なその內部の空間一杯にひろがつたＬＺ１２９號飛行船は、すでにその特殊輕金屬合金の骨組みの表面にツエルローゼ塗料で銀色に輝く布を九分通りまで貼りつけを終了し現在は船首の大ゴンドラやその後方の操縦室および船長室や一般旅客室などの細部の組立て中であつた。

船體の全長二四八メートル、直徑四一・二メートル、眼で見た感じでいへばちよつと丸ビルの

二倍半といつた程度でその大きい割合にさほど膨れ上つた感じを與へないのは、その形態がスマートな流線型のためであらうか、LZ127號とくらべると、これは餘ほど細長く出來てゐる。この巨大な流線型の船體がこのまゝ大空に浮び出て悠揚迫らず白雲の間を縫うて大陸の上を越え大洋の上を渡つてゆく壯觀は、思ふだに人類文明の極致に吾人は到達してゐるのだといふ一種の感激をさへ覺えるのである。

わけてもその旅客のために設けられた快適な諸設備の素晴らしさはどうであらう！定員五十人の旅客の寢室、それを挾んで兩側に食堂と喫煙室と讀書室と、そしてさらにその兩側に展望窓をもつた散步道さへ設けられてゐるのである、この散步道をゆき來しつゝ眼下に大西洋を、あるひは太平洋をあるひはまたアジヤの起伏する山脈帶をながめながら樂しい旅をつゞけるアヴェックの群を見ることも直ぐに近い將來に現はれる事實なのである。

風呂の設備だけはまだないが溫水のシヤワーの設備はある、これは西洋人が日本人ほど風呂好きでないためでもし希望とあらば一風呂浴びて浴衣がけで煙草をくゆらす空の旅が必ずしも不可能ではないのである。その他廿トンの郵便貨物の積載、小型飛行機、自動車、ピアノ等の積載等、この劃期的な豪華船のもつすぐれた設備と性能とは到れり盡せりの一語につきる。

LZ129號の見學をへてから、格納庫横の木造本館の二階のエッケナー博士室で、記者は大きな事務机を隔てゝ博士と相對した、博士の後方の壁には剛毅な表情の故ツェッペリン伯の肖像が懸つてゐる、窓外の草原には牧牛の群が、冷たい野風に吹がれながら枯草を食つてゐる――、本年六十七歳といふエッケナー博士は、一見朴訥な好々爺で、科學者らしい神經質なところは微塵もなく、むしろ野人型のブッキラボーで、それでゐて情味の溢れてゐる人物だ。絶えず温顔に微笑を湛へながら、またロイド眼鏡をかけたりはづしたりしながら、記者の質問に答へてくれる

問　LZ129號は一九三五年のはじめに完成して五月には處女飛行する豫定ではなかつたか？

答　それがネ、南米リオデジヤネイロの格納庫の完成が遅れたのと、現在のボーデン湖では南に偏して不便であるのでライン地方に全歐の根據地を設けることになりフランクフルト・アム・マインに格納庫を建造中であるが、これもまだ竣工しないといふ譯で、てうど一ケ年豫定を遅らせた次第だしかし遅くともこのクリスマスまでには完成させ一九三六年の新春には大規模試験飛行をやり、三月には南米航路に就航させ、それから五月ごろまでに北米航路の試験飛行に就かせるつもりだ。

問　ツェッペリン飛行船による交通事業は企業的價値がありますか？

答　ある、政府の補助金なしに採算可能だ。もし今後三隻のツエツペリン飛行船が南米航路に就航するようになつたら、着陸場、格納庫その他この種の經常費を三隻で分擔するから一層經濟的となる、そして三隻の各々が七五パーセントの旅客と郵便貨物とを積めば明かに企業的には可能だ。

問　米國は飛行機でハワイ、グアム島を經てマニラに達する南太平洋航路をすでに開拓し、いよいよ澳門に結ぶばかりになつてゐますが、この線にツエツペリン飛行船を用ひるとして、澳門とバタヴイヤとを結べばツエツペリン飛行船による世界一周航路が出現すると思ふが如何?

答　それは米國の問題で、われわれは何らそれについて考慮してゐない、が、ツエツペリン飛行船を用ひるならば、ロサンゼルスから太平洋を一飛びに香港、バタヴイヤまでの無着陸飛行は不可能でない。この種の世界一周航空路の實現は遠い將來ではあるまいと思はれる。

問　日滿合併の航空會社が出來て東京と新京間に定期の無着陸航空路を開設するといふ話があつたが、日本からLZ129號購入の申込みがあつたら賣りますか?

答　よろこんで賣ります、他の國ならいざ知らず日本だから、政府の方も異存はあるまい、値段は一隻が六百五十萬マークなら賣つてよい（注、時下相場一マークが一圓四十錢として六百五

好きのドイツ人が、もうステッキをついて樹下をブラついてゐる姿があちこちに見出せる。僕達も、車を降りてスタヂオンの横に出た。工事に掘りかへしてゐる暗褐色の土が、凍りついた固さから春の生氣に蘇つたような新鮮な觸感で迫つてくる。昨日まではトゲトゲしたリンデンやカスタニエンの裸木の枝が、今日はもう嫩葉が少しばかり綠の色をのぞかせて、日の光に戯れてゐる。その邊一帶の枯れ果てた芝生のかげにも、青々とした草の葉が頭をもたげてゐる。その中に小さな菫の花が一つ咲いてゐるのを見つけて、僕達は無性にうれしくなつた。

海岸地方は暖流に洗はれてゐても、樺太の北緯五十度よりまだ少し北に位するベルリンは、一年の半分が冬の重々しい空氣の中に過ぎてゆく。そして、冬から夏へと素早く移行する北歐の自然では、春は僅かに一週日の短かい間だといつてよい。それだけに、春の來ることが、いかに人々にとつては待ち遠いことであらう。

四月に入ると、針のやうな鋭さをもつた寒風が止んで、生溫かい肌に觸れたような風が吹く。そして時には強く、また冷たい雨をまじへて吹き荒れる。アプリル・ヴェッターの言葉があるように四月の天候は不順を極める。それはおなじ四月でも日本の花の四月とは遙かに隔たつたものである。しかし、この不順な天候が静まるころ、樹々は、草は、一せいおそろしいテンポで生長

た。世紀への大きな贈り物の完成を告げるハンマーの音を、窓外に聞きつゝ記者は、この老博士に心からなる深い敬意を捧げざるを得なかつた。

十　リッベントロップとナチス外交

ドイツの經濟國難打開策の一つとして、屢々傳へられるところのものに舊ドイツ領植民地の奪還がある。最近はドイツの官吏の中に、ひそかにアフリカ赴任の內命を受けてゐる者があることは、かの南阿の英委任領のドイツ還付の確實性を思はせるに十分だ。英獨間にいかなる密約があるかは、未だ明白でない。が、少くとも次に來るべきものはこの舊ドイツ領植民地還付問題だ。しかして、その當面の立役者として國際舞臺に、大きく脚光をあびて立つ者は、ドイツのフォンリッベントロップ氏であらう。彼は先きの英獨海軍協定において獨の對英三割五分を獲得した殊勳者だ。かれはそのことによつて俄然國際的に有名となつた。餘りにそれが突然であつたゝめに人々はかれの人物に今なほ大きな疑問符を冠してゐる。たゞ彼の父が前總理フォン・パーペン氏と同窓の陸軍中佐であり、パーペン氏の仲介でラインの葡萄王ヘンケル氏の女婿となり、パーペ

十萬マークは九百十萬圓）しかしこの飛行船は買つたからといつて直ぐに就航は出來ないことを心得ておく必要がある、機關士はモーター會社、操縱士は汽船から間に合はせるとして、それでも普通の乘組員で一ケ年間幹部の者で二ケ年の實地練習が絶對必要だ。大空の航行には、操縱術以外に氣象學海洋學その他航空全般の知識が必要で、その他優秀なパイロットの養成なども考慮しなければならぬ。それから飛行船の繫留、修繕、格納庫、ガス施設などにも莫大な費用のかかることも豫算に入れておかねばなるまい、そこで、ちよつと注意しておきたいのは、東京新京間のような短距離のところに果してツエツペリン飛行船が必要かといふ問題だ。あの程度の距離では、せいぜい大型飛行機で十分である、毎年九月十月の候に季節的に繰返される颱風の危險もあり、殊さらにツエツペリン飛行船のような尨大な船體を飛ばせなくてもよい。

問　LZ129號は軍事的には如何？

答　純然たる民間の營利會社で軍部と關係はない、われわれの飛行船は、徹頭徹尾大空の豪華船であつて、戰爭には適しない。

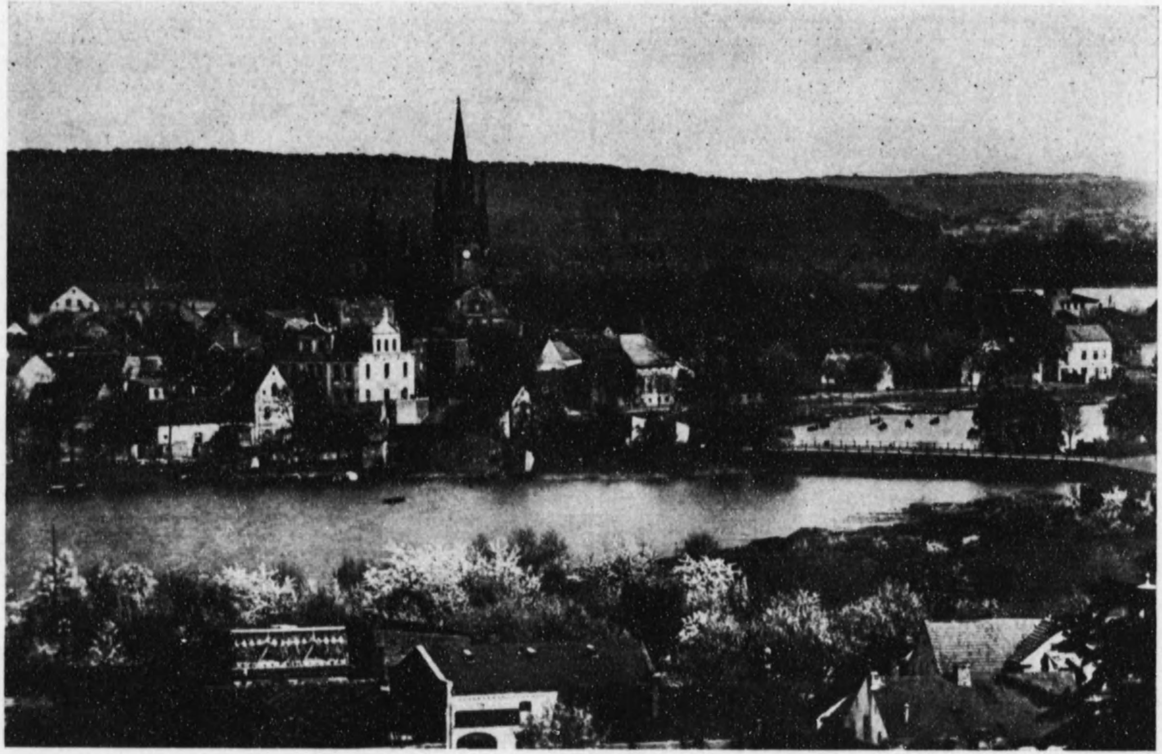
――と博士は語り終つて呵々大笑した、何といふ朗らかな態度であらう！かつて人類の夢であり幻想であつたところのものを、現實に可能にした偉大なる科學者とも思へない磊落な態度であつ

た。世紀への大きな贈り物の完成を告げるハンマーの音を、窓外に聞きつゝ記者は、この老博士に心からなる深い敬意を捧げざるを得なかつた。

十　リッベントロップとナチス外交

ドイツの經濟國難打開策の一つとして、屡々傳へられるところのものに舊ドイツ領植民地の奪還がある。最近はドイツの官吏の中に、ひそかにアフリカ赴任の內命を受けてゐる者があること は、かの南阿の英委任領のドイツ還付の確實性を思はせるに十分だ。英獨間にいかなる密約があるかは、未だ明白でない。が、少くとも次に來るべきものはこの舊ドイツ領植民地還付問題だ。しかして、その當面の立役者として國際舞臺に、大きく脚光をあびて立つ者は、ドイツのフォンリッベントロップ氏であらう。彼は先きの英獨海軍協定において獨の對英三割五分を獲得した殊勳者だ。かれはそのことによつて俄然國際的に有名となつた。餘りにそれが突然であつたゝめに人々はかれの人物に今なほ大きな疑問符を冠してゐる。たゞ彼の父が前總理フォン・パーペン氏と同窓の陸軍中佐であり、パーペン氏の仲介でラインの葡萄王ヘンケル氏の女婿となり、パーペ

ン氏からヒツトラー氏への政權讓渡の際に黑幕的人物としてヒツトラー內閣の產婆役をつとめた人物と知るならば、彼がヒツトラー總統の信任をかち得た徑路が理解されよう。またかれのもつ流暢な英佛語の會話力は、外國語の不足するナチス首腦部にとつて見逃しがたい點であらう。最近は特命全權大使に任ぜられ駐英大使として親英政策に全力を傾注してゐるが、日獨防共協定にもヒツトラー總統の特使として折衝の任に當つた。ヒツトラー總統がムツソリーニ式に外相を兼ねるとすれば、さしづめリツベントロツプ氏は政務次官であり、ノイラート現外相は事務次官の役割である。要するに從來の野猪的突進政策を放棄し、經濟的常態に復すべく愼重な外交工作を近隣諸國に對して開始せんとするナチスの重大な方向轉換期に當つて、リツベントロツプ氏の動きこそは、ナチスドイツの何人のそれにもまして注目すべきであらう。



伯林郊外ヴエルダの櫻花

Ⅶ ナチス・ドイツ紀行

伯林・郊外の櫻

ある科學者の話では、いまの地球は氷河紀の末期を辿つてゐるから、年ごとに暖かくなつてゆくといふ。それはとにかく今年のベルリンの春は昨年よりは餘程早く訪れて來るように思はれる。この間友人が新らしい自動車を買つたので、それに同乘してベルリンのウエストエンドから南郊をぐるりと一巡してみた。明るい淡靑に塗られた三四年型アドラーは、坦々たる大舗道に沿うて一直線に空間を切る。樹間に見えかくれする高級住宅街が車窓から消えると、赤松の林が左右に展開する。三六年のオリンピックへの擴張工事に忙しいスタヂオンの近くまで來ると、散歩

好きのドイツ人が、もうステッキをついて樹下をブラついてゐる姿があちこちに見出せる。僕達も、車を降りてスタヂオンの横に出た。工事に掘りかへしてゐる暗褐色の土が、凍りついた固さから春の生氣に蘇つたような新鮮な觸感で迫つてくる。昨日まではトゲトゲしたリンデンやカスタニエンの裸木の枝が、今日はもう嫩葉が少しばかり綠の色をのぞかせて、日の光に戯れてゐる。その邊一帶の枯れ果てた芝生のかげにも、靑々とした草の葉が頭をもたげてゐる。その中に小さな薫の花が一つ咲いてゐるのを見つけて、僕達は無性にうれしくなつた。

海岸地方は暖流に洗はれてゐても、樺太の北緯五十度よりまだ少し北に位するベルリンは、一年の半分が冬の重々しい空氣の中に過ぎてゆく。そして、冬から夏へと素早く移行する北歐の自然では、春は僅かに一週日の短かい間だといつてよい。それだけに、春の來ることが、いかに人々にとつては待ち遠いことであらう。

四月に入ると、針のやうな鋭さをもつた寒風が止んで、生温かい肌に觸れたような風が吹く。そして時には強く、また冷たい雨をまじへて吹き荒れる。アプリル・ヴェッターの言葉があるように四月の天候は不順を極める。それはおなじ四月でも日本の花の四月とは遙かに隔たつたものである。しかし、この不順な天候が靜まるころ、樹々は、草は、一せいおそろしいテンポで生長

し、瞬く間に綠の色で冬枯れの自分を裝うてしまふ。木の芽はシュッ／＼と音を立てて伸びてゆくやうだ。そして二三日見ないうちに、もう花を咲かせてゐる。このテンポの早さは、ながい／＼間、冬の暴威に抑壓されてゐた草木の感情が一時に爆發したかのやうな凄じさをさへわれわれに感じさせる。それが四月から五月にかけてゞある。百花繚亂の春は五月のはじめだ。五月！ドイツのすべての詩人が五月を讃へるやうに、ドイツの春は五月だ。五月の聲を聞くと、人々はすぐリュックサックを背にして野に出で、森の中へ入つてゆく。草だ、花だ、そして小鳥だ。「自由は森林より」のドイツ人の言葉は、この時ほど強い共鳴を強ひられる時はない。

ベルリンの郊外には至るところ果しもない大きな森や、白い帆のヨットが鷗のやうに浮かんでゐる靜かな湖水に惠まれてゐる。それは乾燥した大都會の空氣に、みづみづしい生氣を供給する健康の源泉であるが、同時にまた都會生活者の乾燥し切つた心にも、フレッシュな水氣を與へるオアシスである。ヴアーンゼーの湖畔に半裸體の日光浴に出かける人々、アインシュタイン塔のあるテレグラフベルヒの松林あたりまで散策を試みる人々、グルーネワルトの競馬場の空に歡聲をあげるために押出す人々、春になると人々は水のやうにベルリンの市街から郊外へと溢れ出てゆく。

ベルリン郊外の春で忘れられないのは南郊ヴエルダの櫻だ。ハーフエル湖にのぞんだ小高い丘陵一帶を梨花に似た白いドイツ櫻が、雲のやうに蔽うてしまふ。そしてベルリンから繰り出した花見客は、花下の小卓を圍んで、各種の果實酒に醉ふのである。

湖水の碧、櫻花の白、草花の紅、何といつてもヴエルダの春は美しい。千里綠紅に映ず、水村山郭酒旗の風の情趣はまた此處にも見出される。ことにこの邊一帶のひどく日本的な風光は、ともすれば東京か大阪の郊外の田園に遊んでゐるやうな錯覺にさへ誘ふ。たゞ水村山郭の酒旗の代りにナチスの鉤十字旗が隨所に春風に飜つてゐるのがわづかに身のドイツに在る意識に自分を引戻したけれど。

——今年のヴエルダの花の滿開は、きつと早いに違ひない。（一九三四、三、一六）

ヒツトラー氏の山莊を訪ふ

樂聖モツアルトを生んだオーストリアの古都ザルツブルグ——それから電車でドイツ領に入つ

山荘といつても、平常官邸住ひのヒツトラー氏にとつてはこれが一切の政治的繫縛から脫れて一私人にかへり得る唯一の自宅といつてもよいであらう。

あいにく午前中は雨だつた。銀糸のやうにふりそゝぐ細雨にそばぬれる町と野の上に、巍峨と聳えるザルツブルグの古城砦は墨繪のやうに美しかつた。ヨロ〱と走る電車の窓から、この城砦の雨景が消えると、そこは獨墺の國境だつた。墺國の粗末な關所がある。白や赤の名も知れぬ野花の咲き亂れる庭に、ドルフス前首相の死を悼む黑の弔旗が、重く雨中に垂れてゐた。

簡單に旅券の檢査があつて通過、少し先きに進むと、軌道は雜木林の間を分けて山路にかゝる、そこにドイツ側の關所があつた。

ヒツトラー氏の山荘へ行くといつたら、稅關吏の一人は頓狂な大聲で車掌に『オーイ、この人はヒツトラー・ハウスを見に日本からやつて來たんだとサー』と叫んだが、それがいかにも嬉しさうだつた。なるほど遙々と東洋の涯から異邦人がこんな邊僻な山奥に、山荘を訪ねることは稀であらう。

電車は清冽な谷川に沿うてグン／＼山の奥に入つてゆく。山腹に點在する農家は、屋根に石を置いた雪國のそれであるが、オーストリアの農家の貧相なのにひきかへ見違へるやうに立派で、生活程度の著しい差異を、アリ／＼と眼前に見せつけられる。そして各戸には日本の鯉幟のやうに長い竿からナチスの長旒を掲げてゐる。赤地に白丸、その白丸の中の黒い鉤十字、この驕る平家の赤旗のやうに威勢のよいナチス旗と、オーストリアの影薄い弔旗との對照！

やがて、終點のベルヒテスガーデンに著いた。雨は竭んでゐた。驛の構内には遠足に來たらしいヒツトラー少年兵が群れてゐたが、日本人が珍しいのか周圍に集まつてくる。山莊はどの邊だと聞くと、こゝから五キロばかし山路を登つたところで、自動車なら十五分だと答へる。驛前はリユツクサツクを背負ひ、ドイツの剛健な國民性を象徴する槲の木の杖をもつ人々で雜沓してゐた。タクシーを雇つて山路にかゝる。日本の伊香保か有馬あたりの山路に似た樹景の中を、二間巾の新らしい山道が上へ伸びてゐる。

『こゝです』と自動車から降ろされたところは、既に見物客目あてのホテルや茶店があつて、山莊の繪はがきなどを賣つてゐる。山莊はそこから二三町下に降りた山の中腹の一角だ。三々五々寫眞機などを手にした見物客に出會ふ。山莊についてみると、門は固く閉ざされて「眼覺めケ原（ヴアツヘンフエルト）

山荘（ウヘス）」の標札が立ち「立入禁止・猛犬あり」と書いてある。金網の柵に廻らされた千坪ばかしの芝生、家は二階建の純ドイツ式農家風。庭に赤いナチスの長旒が風にはためいてゐる。

山荘の二階の窓から女中らしいのが二三人、掃除の手をやめて、見物客の去來するのをながめてゐた。この家の主人公ヒツトラー氏は國事多端、身邊の多忙で近頃はこゝへも姿を見せないといふ話、留守居役にはヒツトラー氏の姉さんが、その小さい娘さんと二人で淋しく暮してゐるが外部との交渉を嫌つて、めつたに散歩にも出ないさうだ。

家の柵に沿うて、道を裏庭の方に下りると、四邊の眺望はカラリと豁けて、雄大な山岳パノラマが展開する。

視野を遮つて巨大な衝立のやうに巾廣く空間を區切るザルツブルグ・アルプスの連嶺、確固不拔の意志の如く突兀と天に迫る奇峰、その背景の彼方には純白の雪嶺が覗き、右手に豁けた平原には、遠く「可憐なる中歐の少女」オーストリアの盆地がつゞいて、茫々漠々涯しなき大自然の眺めだ。

空はだん／＼霽れて、空氣は明澄の度を加へて來る。だが、雲はまだムク／＼と旺んに谷間から湧き立つてゐる。そして、果敢な峻峰と、豪宕な巨嶺とがガツシリと四つに組んだ太い直線、

その間を雲の群は逃げ惑ふかのやうに右に左に曲線を描きながら狂ひ流れる。

風雲兒の蹶起するによく、またかれが閑居するに恰好の天地とは、こんな自然をいふのであらう。ヒツトラー氏の生れ故鄕オーストリアのブラウナウ市はこゝからほど遠くない。北へ十里ばかし、獨墺國境の、イン河にのぞんだ明媚の地だ。その町の小税關吏の伜として生れたかれが、今や中歐に獨裁する「第三帝國」を打ち建て、自らその元首の椅子に座らうとは、何人がかつて豫想したことであらうか。

山莊から二町ばかし離れたところに、付け劍の銃を手にした親衞隊の兵士が立つてゐる。その後方に建築中の新らしい家が見える。きくと、ゲーリング氏の別莊であるさうな。ゲーリング氏は陸軍大將、航空大臣、全國議會議長、國家祕密警察の總監、それからプロイセン州政府の首相をも兼ねて、ヒツトラー氏の片腕として飛ぶ鳥も落す勢力家だ。この調子だと、も一人の片腕の宣傳相ゲツベルス氏もここに別莊を建てやしないだらうか、内相フリツク氏は？　黨首代理ヘス氏は？　御大ヒツトラー氏を圍んでともに山野を逍遙する光榮をめざしてわれも〳〵と家を建てれば、またゝく間にこの山間にはナチス領袖の別莊村が出現することであらう。

すでに山莊に近く續々と建ちつゝある旅館や茶店、それから陸續として杖をひく見物客の群―

—もし再び僕がこゝを訪れる頃にはナチスの新らしきメツカとして、こゝはもう一つの雜沓境に化してゐるかも知れない。（一九三四、八、一四記）

ライン紀行

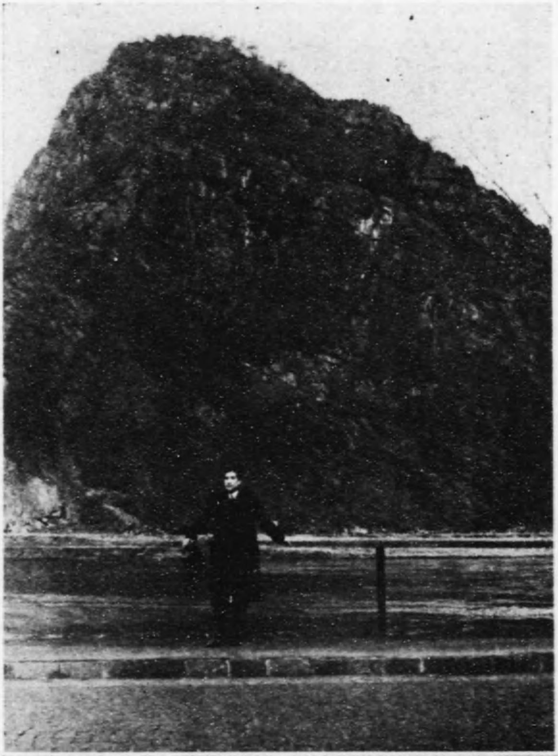
ドイツの軍備平等權の主張は再軍備の爆彈宣言となり、つゞいては當然ライン非武裝地帶の解除の承認要求となつて現はれねばならぬ。そこで、先廻りした外國新聞には、ドイツはライン地方にパリまで屆く砲身のおそろしく長い加農砲を据ゑつけてゐるだの、空軍根據地を既に幾つか設置してゐるだのと、書きまくる。別にこんな興味にそゝられたからではなかつたが、機會を得て、ラインの春を訪ねることが出來た。來てみれば春とはいへ、やはり時節柄、ラインもまた緊迫した非常時色につゝまれてゐた。

スイスの湖水に發するライン河は、バーゼルあたりの上流では清澄の水色に眼のさめるやうな思ひがするが、ドイツ領に入つて鐵と石炭のザール川が合流し、商工業の中心フランクフルト市

地方のマイン河などが混入してくると水色は次第に濁つて來る、下流の大學都市ボンや商都ケルンの邊では、すつかり暗褐色にそまり、そのままゲルマン民族二千年の歷史と傳說を祕めつゝオランダ領へ流れ去るのである。

最も風景絕佳のところに、例のローレライの奇巖が威壓的な風貌で川面に迫つてゐる、ドイツの春は五月だから、ラインも四月上旬ではまだ遊覽船も出ない。紅い桃花が麓の段々畑に咲き、白い櫻花もチラホラほころびかけてゐるが切り立つやうな兩岸の傾斜地にはまだ綠芽を出さぬぶどう樹が、黑い裸木のまゝにつき出て、あたかも張りめぐらした鐵條網の棒杭のやうな姿でならんでゐる、ローレライの巖上は芝生の平地で、レストランが一軒あるきりだ、そこに勞働奉仕兵團の一隊が屯營してゐた。付近の開墾事業から戾つたばかしと見えて、土だらけの身體をバケツの水で洗つてゐた、短劍の手入れをしてゐる一人に「いつまでこゝに宿泊してゐるのか」と訊くと「遊覽客が立てこんで來たら、早速他へ移る豫定だ」と答へた。

巖頭から俯瞰すると、河の兩岸ともに鐵道が通じ、巖はトンネルで貫かれてゐる、對岸の鐵道は電化され、時として流線型機關車も驀進する。完全な自動車道路は河に沿つて構築され、その上をドイツ自慢の大型トラックが、ナチスの突擊隊や勞働奉仕兵團を滿載して、右往左往する、



一九三五・四・一一、ライン、ローレライの奇巖を背にして、著者



ライン風景

[illegible]の[illegible]部隊が[illegible]する。[illegible]ットラ[illegible]少年兵の自轉車隊がこれにつゞく。河は

黑色の親衞隊服のモーター部隊が疾驅する。ヒットラー少年兵の自轉車隊がこれにつゞく。河は悠々として流れるが、ひつきりなしに運送船が上下する。貨物列車二つの量を一艘に積載するといふ細長い貨物船は、ザール領域の石炭でも運ぶのであらうか、フランスやオランダの國旗を河風に靡かせて下つてゆく。日每、外國旗を掲げた船がわが物顏に上下するのを見る每にラインの人々の胸中には、ヴエルサイユ條約に對する激しい憤りが燃え上つたことであらう。一九一四年八月ヒツトラー氏は大戰出征の一志願兵として、フランデル戰線に送られる輸送列車の窓から、生れて初めて「祖國の守り」ライン河を見たのであつた『朝霧の柔らかなヴエールを透して、曙光のほのかな輝射が、ニーダーワルドの普佛戰役戰捷記念塔を照し出すのを見た時、長蛇の輸送列車の窓からは「ラインの守り」の國歌が流れ出て、私の胸は感激につぶれさうであつた』とその著「わが戰ひ」の中に追懷してゐる。次代ドイツを背負ふ青少年の中には、このヒツトラー總統の若き日の感慨をもつて、ラインを渡る日の來るを待つものは多いであらう。

あの自由を山河に求めてさすらふ「渡り鳥(ワンダーフオーゲル)」は、ラインで見ることは出來なかつた。ナチス・ドイツになつて禁止されてゐるのである、軍國的統制を第一義とするナチスにとつては、自由と

か放浪とかの渡り鳥氣分を肯定することは出來なかつた。ハイキングをするのもよい、だが、それは祖國を知るためであり、愛國の實を結ぶ身心の鍛錬でなければならぬ。徒らに口碑と傳說との香氣の中に醉ふことは許されないのである。かくて幾多のロマンスを生んだ「渡り鳥」は、ヒツトラー少年團や少女團の、隊伍を整へた移動屯營におき代へられたのである。詩も藝術も「祖國の守り」の前に一歩をゆづつたのであつた。平和の鳩が軍用傳書鳩と化する時勢なんだ、世に傳へる舟人を魅惑したローレライの妖女も、巖頭から姿を消さざるを得ない時代になつてゐるのである。

私は國際的溫泉鄕バーデンバーデーで、夜更けて突如、ヒツトラー少女團が非常呼集を受け各所の街頭で、分隊旗を圍む集團が嚴かな點呼を受けてゐるのを目擊した。小高い丘の展望臺に立てばフランス領は指呼の間だ。あのコンクリートで叩き固めて帶狀二百マイル、「鐵の防壁」といふ要塞が、萌え出る若草の下にかげをひそめてゐるのではなからうか、でなくてさへ、一朝事あれば直ちに空襲にさらされるこの地方の人々が月朧ろなる春の夜でさへ、おのづから眞劍にならざるを得ない氣持がわかるのである。

ラインを旅して氣のつくことはどの村、どの町でも、一歩そこに入ればその表玄關ともいふべ

き最究竟の地點に、ナチス支部の門標いかめしく黨服の衞兵が立ちはだかつてゐることであつた。また、かつての自由主義的な新聞は、わづかに大都市にのみ衰殘の身を横たへてゐるに反し地方では家毎にその村、その町の黨支部機關紙が配布されてゐた。到るところでナチスに對する不平も耳にしたが、この現狀では、ソヴイエト・ロシアが共産黨の地盤を持ちこたへて來た如くナチスの天下も容易にくつがへせるものでないことを感じた。國際都市ベルリンに一時は影をひそめたかに見えたナチスは、地方に却つて物すごい進出を試みてゐるのであつた。

私は古城の詩と傳説への追想にふける餘裕はなかつた。祖國の守りを急ぐラインの民とおなじく、來るべき戰ひの幻想の中にかつての兵士ヒツトラーが軍用列車の窓に感激の涙したドイツの國歌を聞くのであつた。ラインは再び武裝しなければならぬ日が近づきつつあるのだ。（一九三五、四、一三ラインの旅舍にて）

南獨にキリスト受難劇を見る

創始三百年記念祭のオーバーアムマウガウ村

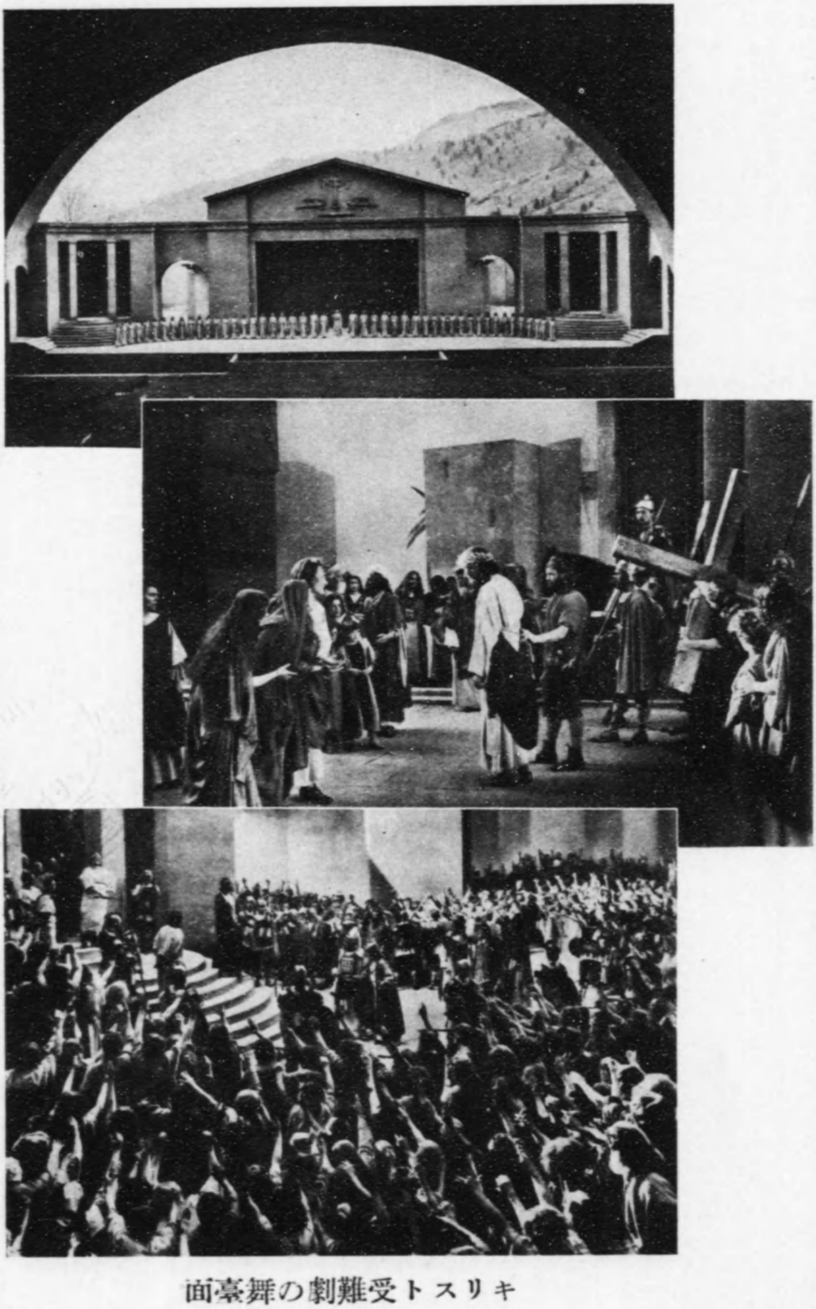
ベルリンから夜行で十三時間半あまり、南へ南へと走つて、墺國チロルとの國境に近くオーバーアムマウガウ驛のプラットフオームに列車がすべりこむと、そこに展開された異風景に、まづ度膽を拔かれた。

爭つて旅客の手荷物を持ち運ばうとする赤帽どもが大變な顏つきだ。禿頭會といふのは日本にあるが、これはまさに髯男オンパレード！　大久保利通のやうな、カール・マルクスのやうな、クロポトキン、トルストイ、ラスプーチンからアブラハム・リンコルン、さてはソクラテスに關羽といつた風に髭髯の中から眼だけ光つてゐるといふ連中がチヨコナンと赤帽を、これも肩まで垂れる長髮の上に載つけて右往左往する！

構内に群がつてゐる村童たちまでが、ブロンドや「にんじん」の赤毛とりまぜて、いづれも髮を長く垂れ流し、そして意外にも裸足で鋪石の上をピヨン〳〵跳び歩いてゐる！

これは何としたことだ！　おどろいた瞬間、ハハア……尤も至極と、われにもあらずビツクリした自分がをかしくなつた。このオーバーアムマウガウ村こそ、全村民擧つてキリスト受難劇の俳優であり、かつ二千年前のキリスト受難時代の民となつて生活してゐるんだから！

村の老若男女は、そのまゝにエルサレムの民であり、イスラエルの王であり、ユダヤの商人で



キリスト受難劇の舞臺面

あり、キリストであり、シモンであり、マリヤあり、マグダレナであり、ヤコブであり、ピラツースであるんだ。

人口三千に滿たない僻村だが、土地高燥で日本の輕井澤を思はせる絕好の避暑地だ。避暑地としてよりも一六三四年に惡疫ペスト退散祈願のために創始された、このキリスト受難劇が十年に一度の割で繰り返されるうちに世界中の評判となり、受難劇見物に歐米各地から、この小天地めがけて參集するもの一夏に何十萬といふ盛況――その意味での國際的觀光地となつてゐる。今年は丁度その受難劇創始三百年記念祭がこゝで開かれてゐるので、南獨バイエルンの首都ミュンヒエンで條友城戸パリ特派員と落ち合つて、ミュンヒエンから西南へ電氣列車でこゝまで運ばれて來たのである。

×

受難劇の前回開演は一九三〇年で、一夏の興行で七百萬マーク（平價で三百五十萬圓）の總收入があり、いろんな經費を差引いても、まだ村の莫大な借金を返濟して、おつりが出たといふ話だ。今年の劇は五月二十一日から始まつて九月二十三日までの四ケ月間、一週に約二回の豫定で總計三十三回、本格的の演出があり、その合間に一週二回ほどの小演出もあつて、前回に劣らぬ

成績をあげ、村の財政はもちろんのこと、村民の懐中もしこたまふくらませて、今後何年かの生活の資を貯へようといふのである。受難劇こそは、農耕に適せぬこの村唯一の生業であり、村にとつては受難どころか福音劇なんである。

従つて、十年に一度といつても、村には受難劇の常設委員會があり、脚本、衣裳、道具、演技觀客、宣傳等々の各部に分れて年中演技の練習や改善、研究を怠らず、脚本の臺詞などは、年々文學的に洗練されたものとなつてゐる。登場人物の配役は、專門委員會の詮衡と村民の投票とで決定するので、キリストになるときまつた男は、早速キリストらしく風貌をとゝのへ、また生活もキリストらしい精進ぶりを示して、舞臺と現實との一致に努力する。つまりこの調子で村全體が年がら年中、受難劇の雰圍氣の中に生きてゐるのだ。

今回の配役は、前回同樣アロイス・ランクがキリストをやる。彼はユダに扮するハンス・ツヴインクと共に村の民藝品の彫刻師である。マリアを演ずるアンニ・ルツクやマグダレナのクララ・マイルは村のインテリ娘。キリスト役のランクの親戚に當るライムント・ランクは此の村の村長で、またゲオルグ・ヨハン・ランクは舞臺監督だ。劇場專屬のオーケストラ、道具方から警備員等々、一切が村民自身による組織である。僕達は、村の外人客接待事務所で指定されたヒルレル

ン城に宿をとつた。城といつても村はづれの小丘に立つ小ぢんまりした洋館だ。部屋に通されてフト机上の觀客案内書をみると、今年は前回に比し觀客割宛ての宿舍は五五パーセント減らし、入場劵も四〇パーセント少くしてあるが、決して不自由はかけませんと斷つてある。

前回に比らべて半減！　何故であらう？　一つは世界的經濟不況のために外人客の減少を豫測しての對策だが、もう一つにはナチスの宗教彈壓の結果とみて差支へない。殊に後者は、全村擧つてカトリツク敎徒であり、ドイツ全國を通じて最もナチス色の稀薄だといはれるこの村にとつては、大痛事であるに違ひない。だが、それにも拘らず彼らは、「舊敎撲滅・新敎改革」の叫ばれてゐるナチス治下にあつて、キリスト受難劇三百年記念祭をやり拔いてゐるのである。今回の記念開演は、その點だけでも深い意義がある。

さて、僕達はキリスト受難劇の七月二十二日の演出を見ることになつた。劇は朝の八時から初まつて十二時に終り、晝夜引續きまた午後二時から六時まで通してやる。村の北端、硬球のテニスコートに隣する劇場に行つてみると、舞臺は野天だが觀客席はツエツペリン格納庫そつくりの大きな鐵筋のトタン張りだつた。

五千人の椅子席、詰めれば六千人まで見物出來る。僕達はアメリカ人の家族連れとイタリの舊

教僧侶との間に挾つて席についた。舞臺を見ると石造の古代ローマの宮殿と街路とが常設的につくつてある。殿堂の上に靑空がのぞき見られる。燕が宮殿の屋根に巣をつくつてゐるのがピーピーと舞臺から觀客の頭上を飛び交うてゐる。

劇は全部で十六幕、――エレサレムに赴くキリストから初まつて、マリアとの訣別、ユダの叛逆、告訴、キリストの逮捕、死刑の宣告、十字架を負うて刑場へ、ユダの悔悟の自殺、キリストの死刑とその再生まで――各幕の初めに必ず合唱がある。

この合唱は、五十人近くの男女が揃ひの法衣を纏ひ一列に舞臺の前方にならんで、オーケストラの奏樂に和しつゝ「痛ましやキリスト樣は……」といつた具合にキリスト受難に至る筋を説明的に唱つてゆく、その後方に宮殿の幕が上つて十幾場面かの活人畫を見せて、劇の筋の複雜多岐を巧みに要約してゐる。

午前の部は無難だつたが、午後になつて驟雨襲來、舞臺の登場人物はズブ濡れだが、ひるむところなく眞摯に劇をつゞけてゐる。だが、觀客席は天井板に叩きつける雨の音で、舞臺の聲はサツパリ聞えない。觀客はいづれも買つて入つたテキストの頁を繰つて筋を追う。午後の驟雨はこ

の山里の名物であるらしい。雨がやむとまた燕がピー〱と鳴きながら觀客の頭上に各種の交錯線を描く。

演技の點で感心したことは、大衆動員のうまさだ。組織と訓練と全體の調和とは、ドイツ人が特に他國民より秀れてゐる特性だが、三百名近い人數を舞臺に登場させて一糸の亂れなく、群衆の怒濤のような殺到、あるひは靜かな大河のような流動を、極めて自然にこなしてゆく手際には、それだけでもこの劇が世界的に宣傳される價値は十分あると思つた。

親子代々舞臺に立ち、長年の經驗と研究とが蓄積されてゐるためか、各俳優に一人として下手なものはゐない。端役なら端役なりに、子役なら子役なりに、すべてが上手だ。街上でキリストの訓へに耳を傾ける群衆の中にまじる子供達の一人々々が、いかに巧みな芝居をやつてゐることよ、磔殺への刑場に引かれゆくキリストを石をもて追ふごとき大衆の喧騷と嘲罵の渦中に、そんな手荒なことをしなくてもとオロ〱してゐる老人や、うるんだ瞳で見送る少女が一隅に佇ずんでゐることなど、舞臺の隅々までが緊張して劇を生きたものにしてゐる。

たゞ遺憾なことは、全員残らず上手な半面に、一人としてホントに上手な舞臺の上の天才がゐないことだ。キリストにしても、清楚として端然たる敎祖の俤は出てゐるが、あの感激的な巷に叫ぶ豫言者の迫力で觀客を引きつけることは皆無だ。反逆見ユダにしても、バーナード・ショウの祖先のような風貌をしてゐるこの男に、反逆見らしい太々しい熱情が見られない。澤正の熱、菊五郎の至藝、さういつた藝術から來る靈感は、結局は天才の出現にまたねばならぬものだらう。

劇を見た習日、オーバーアムマウガウの西郊にリンダーホーフ城を訪れた。バイエルン最後の王ルドヴイヒ二世が國帑を傾けて榮華の夢を追うたロココ式宮殿だ。宮殿への一本道を走る自動車の運轉手が、やはり長髮を垂れてゐる。

「君はどんな役に出るんかね？」と訊ねると「イスラエルの民衆です」といふ。「その他大勢」もしくは「馬の脚」である。そして僕達が宮殿を見物中出る幕があるからといつて引返へして行つた。後で給料のことなど訊くと、一回二マルク（一圓）で、全期間を通じて百五十マルク程度とのことだつた。子供が全期間百マルク、大して差はない。

事務所の發表では「主役キリストが全期間六千マルク、マリヤ、マグダレナ、ユダなどが三千

五百マルクから四千マルクだ。純收入の大部分は個人よりも、村の財政そのものにふり向けられる性質をもつてゐるらしい。

×

ユダヤ人の種族的愛國心を卸けて全人類に普遍な天國の愛を說いたキリストは、そのゆへに十字架上に磔殺された。二千年後の今日、ナチスによつて作興されつゝある種族的愛國心は、キリストのこの全人類的な博愛に對して戰ひを挑んでゐる。オーバーアムマウガウの受難劇の舞臺と現實と——僕は遠く人類の歷史を念頭に跡づけつつ、一種の感慨なきを得なかつた。（一九三四八、四）

ナチ獨逸を往く　終

昭和十一年十二月十七日印刷
昭和十一年十二月二十六日發行

ナチ獨逸を往く　定價壹圓

著者　大塚虎雄
東京市牛込區新小川町三丁目十四番地

發行者　福迫重樹
東京市小石川區氷川下町七十一番地

印刷所　邦立舍印刷所

印刷者　小野塚邦次

東京市牛込區新小川町三丁目十四番地
發行所　亞里書店
振替東京一三一二五二

大賣捌所　井田書店・大阪屋
東京堂・北隆館

ARI